シラバス

免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

科目の授業内容は、目次で検索してください。

目次の科目は、各課程別の授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

曜日時限・教室も記載されていますが、変更になる場合があるので、教務課前掲示板で確認してください。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので、注意してください。

②目次の「備考」の表記

〈略称説明〉

外: 外国語学部養: 国際教養学部経: 経済学部法: 法学部独: ドイツ語学科済: 経済学科律: 法律学科

交: 交流文化学科

③履修開始学年•学期

目次の「学年-学期」欄に記載されています。

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

03年度以降・・・2003~2016年度入学者 07年度以降・・・2007~2016年度入学者 08年度以降・・・2008~2016年度入学者 09年度以前・・・2003~2009年度入学者 09年度以降・・・2009~2016年度入学者 10年度以降・・・2010~2016年度入学者 11年度以前・・・2003~2011年度入学者 12年度以前・・・2003~2012年度入学者 12年度以降・・・2012~2016年度入学者 13年度以降・・・2013年度以降入学者

- ②入学年度に対応した科目名
- ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。 授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

- ⑤到達目標
- ⑥事前・事後学修の内容
- ⑦授業で使用するテキスト、参考文献
- 8評価方法

3. 注意事項

①履修科目

入学年度や学部学科により、履修する科目及び科目名が異なります。 免許科目の履修に際しては、「履修の手引(免許課程)」で履修科目を確認してください。

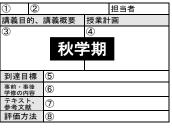
②定員

定員を設けている科目があります。定員および備考欄を確認してください。 備考欄に<u>"抽選"と記載されている科目は、抽選結果を必ず確認</u>してください。

③時間割コード・教室

履修上の注意点については、時間割冊子にまとめられていますので、確認してください。 免許科目については、時間割コード・教室もシラバス冊子目次に掲載されています。





2016年度 免許課程 年間行事予定表

凡侈	利【書	教職】:	教職課程、【介護】:介護等体験、【	教実】:教育実習、【司書]:司書課程、【司教】	:司書教諭	
	No.	区分	行事	対象	日付	時間	教室、備考等
	1	【教職】	教職課程ガイダンス	全学部	4月5日(火)	9:30~10:30	E-102:外国語学部・国際教養学部 E-101:経済学部・法学部 「免許課程ンラバス」配付。
1 学 年	2	132444	教職課程登録(課程費納付)	登録希望者のみ	4月5日(火)~8日(金)	9:00~18:30	証明書自動発行機で納付。申請書は提出不要。 担当教員から配付日を連絡。履修していない場合は、配付方法を教
	3	【司書】	「教職課程ファイル」配付 司書・司書教諭課程ガイダンス	教職課程登録者	「教職論」授業時		務課免許課程掲示板で確認。
	5	【司教】	(概要説明)	全学部	12月1日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。
	6	【教職】	司書課程ガイダンス(履修手続き) 教職課程・司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(火) 3月29日(火)	11:15~12:15 12:30~13:30	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。 E-102、 教職課程ファイル」持参のこと。
	7	【司教】 【教職】 【司教】	教職課程、司書教諭課程、 司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月29日(火)~4月8日(全		「免許課程シラバス」配付。 証明書自動発行機で納付。教職課程のみ面接用紙および申請書を 提出すること。
	8	【司書】	介護等体験申込ガイダンス	2017年度体験予定者	10月11日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。
2 学 年	9		介護等体験実習費用納付	2017年度体験予定者	10月13日(木) 10月12日(水)	9:00~17:00	欠席した場合は2017年度の実習不可。 必要書類を教務課免許課程係に提出。
4-		【介護】	実習希望調査		~31日(月)	土のみ12:00まで	証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに
	10		麻疹・風疹抗体検査申込手続き	2017年度体験予定者	10月1日(土)~11月2日(1	提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照)
	11		介護等体験(5日間)申込み	2017年度体験予定者	12月1日(木) ~21日(水)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。詳細は教務課免許課程係掲示版で確認。
	12	【司書】 【司教】	司書・司書教諭課程ガイダンス (概要説明)	全学部	12月1日(木)	12:25~13:10	A-408、昼食持込可。
	13	【司書】	司書課程ガイダンス(履修手続き) 教職課程・司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(火)	11:15~12:15	E-101、「履修の手引」「成績通知表」持参のこと。 E-102、「教職課程ファイル」持参のこと。
	14	【司教】	(介護等体験(2日間)関連説明、教員採用試験に向けてを含む)	全学部	3月29日(火)	15:00~16:30	「教育実習の指針」「免許課程シラバス」配付。介護等体験(2日間) 関連手続き資料配付。
	15	【司教】	教職課程、司書教諭課程、司書課程登録(課程費納付)	新規登録希望者のみ	3月29日(火)~4月8日(4	金)	証明書自動発行機で納付。 面接用紙および申請書を提出すること。
	16		介護等体験(2日間)申込み	2016年度体験予定者	3月下旬~4月上旬	9:30~16:30 土のみ12:00まで	必要書類を教務課免許課程係に提出。 詳細は教務課免許課程係掲示版で確認。
	17		介護等体験開始ガイダンス	2016年度体験予定者	4月14日(木) 4月19日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。いずれかに出席のこと。 欠席した場合は2016年度の実習不可。
	18	【介護】		2016年5月~7月 介護体験予定者	5月10日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可 欠席した場合は2016年度の実習不可。
	19		介護等体験直前ガイダンス (5日間もしくは2日間いずれか早い日程	2016年8月~10月 介護体験予定者	7月5日(火)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可 欠席した場合は2016年度の実習不可。
	20		に合わせて出席すること)	2016年11月以降 介護体験予定者	10月4日(火)	12:25~13:10	大师已た場合は2016年度の実習不可。 大席した場合は2016年度の実習不可。
3	21		教育実習校開拓	2017年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降	速やかに	各自が自主的に実習校を開拓 (遅くとも4月中に開拓を開始すること)
学年	22		「教育実習依頼状交付願」 「教育実習者登録票」 「麻疹・風疹抗体検査結果」 提出	2017年度教育実習予定者	5月9日(月)以降開拓 できた者から随時	月~金 9:00~17:00	必要書類を教務課免許課程係に提出。 (「英語」については、英語資格の要件を満たしていること)
	23		「教育実習依頼状」交付	2017年度教育実習予定者	5月23日(月)以降	9:00~17:00 +のみ12:00まで	教務課免許課程係で受取。 交付は提出週の翌々週(月)以降9:00~17:00、土は12:00まで。
	24	【教実】	「教育実習依頼状」を実習校に持参	2017年度教育実習予定者	5月23日(月)以降随時	工のみ12:00まで	交付後、速やかに実習校に提出すること。
	25		(正式依頼) 教育実習校(中学校)斡旋願提出	2017年度教育実習予定者	9月24日(土)	9:00~17:00	必要書類を教務課免許課程係に提出。
	26		(未開拓者) 教育実習校(中学校)斡旋者	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	~10月7日(金) 10月13日(木)	土のみ12:00まで 11:30~12:30	教職・司書相談室(中央棟1階)
			選考試験	2017年度教育実習予定者			証明書自動発行機で納付。申請書は検査日当日に保健センターに
	27	【司書】	麻疹・風疹抗体検査申込手続き 司書・司書教諭課程ガイダンス	(前年度抗体検査未提出者)	10月1日(土)~11月2日(12月1日(木)	(水) (予定) 12:25~13:10	提出。(詳細は、大学ニュース10月号「保健センター」の項参照) A-408、昼食持込可
	20	【司教】	(概要説明)	土于即	12/11/1//	12.25 -13.10	が、全球行送り 抗体検査結果を確認し、抗体がある場合は、検査結果用紙のコピー
	29	【教実】	風疹・麻疹抗体検査提出期限	2017年度教育実習予定者 (前年度抗体検査未提出者)	検査結果交付日 ~2017年1月30日(月)	9:00~17:00 土のみ12:00まで	を教務課免許課程係に提出。抗体がない場合は、予防(ワクチン)接種の上、抗体検査結果用紙と予防接種を受けた証明書をコピーして、教務課免許課程係に提出。
	30	【教職】 【司教】	教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2016年度教育実習を 行わない者	3月29日(火)	15:00~16:00	E-102、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」を持参のこと。 「免許課程シラバス」配付。 ガイダンス終了後、介護等体験(2日間)関連説明・資料配付。
	31		教職課程・司書教諭課程ガイダンス	2016年度教育実習予定者	3月29日(火)	15:00~16:00	E-101、「教職課程ファイル」・「教育実習の指針」持参のこと。 「教育実習日誌」・「免許課程シラバス」配付。
	32		教育実習オリエンテーション①		3月29日(火)	16:00~17:30	を 101、終了後介護等体験を実施する学生は介護等体験(2日間)関連説明・資料配付も併せて行う。
	33		教育実習オリエンテーション②	2016年度教育実習予定者	3月30日(水)	9:00~16:30	歴
	34		教育実習期間報告書の提出	2016年度教育実習予定者	4月13日(水)まで	9:30~16:00	教務課免許課程係に提出。
	35 36	【教実】	教育実習校との打合せ 教育実習指導教員発表	2016年度教育実習予定者 2016年度教育実習予定者	実習開始2~3週間前 5月9日(月)	10:30~	各自実習校に確認。 教務課免許課程掲示板で確認。
	37		「教育実習訪問指導教員 事前面談用紙」提出	2016年度教育実習予定者 (該当者のみ)	各自の教育実習開始7日		指導教員と訪問指導日程等を打合せし、 指定用紙を教務課免許課程係に提出。
4	38		教育実習事前指導面接	2016年度教育実習予定者	各自の教育実習 開始7日前まで	11:30~13:00	国産厂和など取り継承だよ了政権国际に決定山。 教職・司書相談を、中央棟1階) 5~6月は面接予定者が多いため、早めに事前指導面接を受け、 実習に備えること。
学年	39		教育実習(中学校はたけ真然学校)	2016年度教育実習予定者	日程は実習校によって異	なる	人口で個人でから60
	40		(中学校または高等学校) 教育実習日誌提出	2016年度教育実習予定者	期日・提出方法は、「教職	哉実践演習(中・高)	」の授業内及び教務課免許課程掲示板で指示する。
	41		教育職員採用試験面接対策講座	教育職員採用試験 受験希望者	8月上旬(予定)	学内指定教室	日程が決定次第、教務課免許課程掲示板で告知する。
	42	【教職】	教育職員免許状一括申請説明会 (書類配付)	全学部	10月6日(木)	12:25~13:10	E-205、昼食持込可。
	43		教育職員免許状一括申請受付 (手数料納付·書類提出)	全学部	10月7日(金)~31日(月)		必要書類を揃え、教務課免許課程係に提出。
	44	【教職】 【司教】 【司書】	教職課程、司書教論課程修了者発表 司書課程修了者発表	全学部	2017年3月3日(金)	10:30~	大学掲示板(学生センター前)
	45	【教実】	教育実習日誌返却	全学部	2017年3月3日(金)以降	H (B)	教務課免許課程係
	46		「司書教諭課程修了証」申請受付 教育職員免許状授与(一括申請者)	司書教諭課程修了者	2017年3月3日(金)~201 2017年3月20日(月)	日(月)	教務課免許課程係
	47	【司書】	司書課程修了書授与 こついては、変更になる場合があるので、	全学部			卒業式当日(学位記と一緒に交付)

教職・司書相談室について

獨協大学では、教職・司書・司書教諭課程履修者をサポートするため、 教職・司書相談室(中央棟1階)を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が 用意されています。開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。教員という仕事、教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も相談可能です。学科・学年を問わず広く開放されており、事前の予約は必要ありませんので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの<u>履修に</u> 関する質問は、教務課免許課程係(東棟1階)にご相談ください。

〇開室時間:月~金 9:00~17:00

生 9:00~13:00

〇場 所:中央棟1階

〇個別面談:春学期 2016年4月7日(木)~2016年7月20日(水)

秋学期 2016年9月24日(土)~2017年1月19日(木)

11/ 1 //	2010		
課程	曜日	面談時間	担当教員
	月	11 : 30~13 : 00	桑原 憲一
	火	11 : 30~13 : 00	J. J. ダゲン
 教職	水	11 : 30~13 : 00	岩崎 充益
子又400	木	12 : 45 ~ 14 : 15	安井 一郎
	金	11 : 30~13 : 00	小島 優生
	土	11 : 30~13 : 00	及川 良一
司書・司書教諭	火	11 : 30~13 : 00	福田 求

注)担当教員の都合により、休講になる場合があります。相談室入口 の掲示で確認してください。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教職に関する科目≫

※2009年度以前入学者カリキュラムのみ適用科目

学年- 学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1		教職論	2	春	月3	桑原	憲一	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火5	萩原	真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原	憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論	2	春	火4	萩原	真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火4	萩原	真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火5	萩原	真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村	肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06910	教職心理学	2	春	火4	白砂	佐和子	A-207	_	交は履修不可、養は自学科科目で履修	3
1-1	06908	教職心理学	2	春	金1	田口	雅徳	A-207	_	交は履修不可、養は自 学科科目で履修	3
1-1	06911	教職心理学	2	秋	火4	白砂	佐和子	5-207	_	交は履修不可、養は自学科科で履修	3
1-1	06909	教職心理学	2	秋	金1	田口	雅徳	A-207	_	交は履修不可、養は自 学科科目で履修	3
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂	佐和子	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口	雅徳	A-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂	佐和子	5-207	_	交のみ履修可	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口	田口 雅徳		_	交のみ履修可	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原	憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	木1	小島	優生	5-405	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木1	小島	優生	6-101	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原	憲一	6-101	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井	一郎	E-313	 	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原	憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法 I	2	春	火1	金井	満	E-506	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火1	金井	満	E-506	_		6
3-5	21669	英語科教科教育法 I	2	春	月5	浅岡	千利世	A-401	25	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	21674	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	月5	浅岡	千利世	A-401		順	9
3-5	21668	英語科教科教育法 I	2	春	火5	E. 本	橋	A-403	25	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	21672	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	火5	E. 本	橋	A-403		順	9
3-5	21667	英語科教科教育法 I	2	春	水1	J. J.	ダゲン	6-406	25	独・英・仏のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	21673	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	水1	J. J.	ダゲン	6-406		順	9
3-5	21670	英語科教科教育法 I	2	春	木1	羽山	恵	A-407	25	独・英・仏のみ履修可、春・秋セット履修、先着	9
3-5	21671	英語科教科教育法Ⅱ	2	秋	木1	羽山	恵	A-407		順	9

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教」	員	教室	定員	備考	ページ
2-3	22937	英語科教科教育法 I	2	春	火1	浅岡 千和	利世 E-	-310	_	交のみ履修可、2年次に履 修できなかった者のみ可	8
2-3	14259	英語科教科教育法 I	2	秋	火1	羽山 恵	E-	-310	_	交のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 I	2	秋	土2	日野 克勢	美 E-	-204	_	交のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	月5	浅岡 千和	利世 A-	-401	25	交のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡 千和	利世 A-	-401	20	順	9
3-5	23709	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	火5	E. 本橋	A-	-403	25	交のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本橋	A-	-403	20	順	9
3-5	23708	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	水1	J. J. ダク	デン 6-	-406	25	交のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J. ダク	_{デン} 6-	-406	20	順	9
3-5	23703	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	木1	羽山 恵	A-	-407	25	交のみ履修可、 春・秋セット履修、先着	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山 恵	A-	-407	20	順	9
2-3	14024	英語科教科教育法 I	2	秋	金4	齋藤 雪絲	会 E-	-313	_	養・経・法のみ履修可	9
3-5	14025	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水2	臼井 芳子	子 E-	-521	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	金2	齋藤 雪絲	会 E-	-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井 芳子	子 E-	-521	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤 雪絲	会 E-	-505	15	養・経・法のみ履修可、 先着順	9
3-5	06932	フランス語科教科教育法 I	2	春	木1	中村 公子	子 6-	-305	_		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村 公子	子 6-	-305	_		11
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本 弘章	章 E-	-312	_		13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本 弘章	章 E-	-312	_		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本 弘章	章 E-	-312	_		14
2-3	06939	地理·歴史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木 孝	E-	-312	_		15
3-5	06940	地理·歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本 弘章	章 E-	-312	_		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田 康筆	范 E-	-312	_		17
3-5	06937	公民科教育法 I	2	春	土4	及川 良-	- 5-	-208	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川 良-	- 5-	-208	_		18
3-5	06942	情報科教育法I	2	春	月2	秋本 弘章	章 E-	-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本 弘章	章 E-	-411	_		19
3-5	13333	教科教育法特論 I (ドイツ語)	2	春	木3	上田 浩二	= E-	- 517	_	独以外履修可	7
3-5	06944	教科教育法特論 I (英語)	2	春	火1	浅岡 千和	利世 E-	-310	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14258	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	火1	羽山 恵	E-	-310	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14257	教科教育法特論 I (英語)	2	秋	土2	日野 克美	美 E-	-204	_	独・仏のみ履修可	8
3-5	14260	教科教育法特論 I (フランス語)	2	春	木2	中村 公司	子 6-	-305	_	仏以外履修可	12
3-5	09110	教科教育法特論 I (社会)	2	秋	水1	安井 一郎	野 5-	-208		外・養のみ履修可	20
3-5	13334	教科教育法特論 Ⅱ(ドイツ語)	2	秋	木3	上田 浩二	_ E-	-517	_	独以外履修可	7

学年-	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	4教員	教室	定員	備考	ページ
3-5		教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	木2	J. J. 🖇	ダゲン	E-506	_	独・仏のみ履修可	10
3-5	06945	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	秋	木2	J. J. 🛭	ダゲン	E-506	_	独・仏のみ履修可	10
3-5	19419	教科教育法特論Ⅱ(英語)	2	春	水3	安間·	一雄	E-303	_	養・経・法のみ履修可	10
3-5	14261	教科教育法特論Ⅱ(フランス語)	2	秋	木2	中村(公子	6-305	_	仏以外履修可	12
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井 ·	一郎	5-207	_	中学校1種免許状は必 修	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井 ·	一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必 修	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	木2	小島(優生	E-304	_	中学校1種免許状は必 修	21
2-3	06952	特別活動	2	春	土3	及川 .	良一	5-309	-	独·英·仏·言·経·律·国 のみ履修可	22
2-3	06950	特別活動	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	_	独·英·仏·言·経·律·国 のみ履修可	22
2-3	06953	特別活動	2	秋	土3	及川 .	良一	5-208	1	独·英·仏·言·経·律·国 のみ履修可	22
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川 .	良一	5-309	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原	憲一	E-202	_	交・総のみ履修可	22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川 .	良一	5-208	_	交・総のみ履修可	22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田	喜義	E-206	_		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	水1	安井 ·	一郎	4-108	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田	喜義	E-206	_		23
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原	憲一	6-101	_		24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 .	良一	5-309	_		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 .	良一	E-302	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	金2	山本	良	4-108	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木	乙史	E-312	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	金2	山本	良	4-108	-	養は自学科科目で履修	25
3-5	_	総合演習※	2	_	_	2016年月	度不開講	-	-	2009年度以前入学者 カリキュラム	_
3-6	06975	教育実習論(事前・事後指導)	2	春	水2	小島(優生	5-210	25	特段の事情がある者の み履修可、先着順	26
3-6	08750	教育実習論 I (事前指導)※	2	春	水2	小島(優生	5-210	20	特段の事情がある者の み履修可、先着順	26
3-6	06977	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月2	安井 ·	一郎	5-206	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-6	08752	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	月2	安井 ·	一郎	5-206	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26
3-6	06976	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	月3	安井·	一郎	E-309	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-6	21838	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	月3	安井·	一郎	E-309	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26
3-6	06979	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水1	岩崎	充益	5-202	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-6	08754	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水1	岩崎	充益	5-202		先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26
3-6	06974	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水2	小島(優生	5-210	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-6	08749	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水2	小島(優生	5-210		先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26
3-6	06978	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	水4	岩崎	充益	5-202	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-6	08753	教育実習論 I (事前指導)※	2	秋	水4	岩崎	充益	5-202		先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26

学年-学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5	21839	教育実習論(事前・事後指導)	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	26
3-5	08751	教育実習論 [(事前指導)※	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	26
4-7	07608	教育実習I	2	集中	_	教職課程	_	_		_
4-7	07609	教育実習Ⅱ	2	集中	ı	教職課程	-	_		_
4-8	14262	教職実践演習(中•高)	2	春	水2	小島 優生	5-210	25	特段の事情がある者の み履修可、先着順	27
4-8	09113	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	春	水2	小島 優生	5-210	20	特段の事情がある者の み履修可、先着順	27
4-8	22250	教職実践演習(中・高)	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	06980	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27
4-8	22248	教職実践演習(中·高)	2	秋	月4	安井 一郎	5-206	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	12783	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	月4	安井 一郎	5-206	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27
4-8	22252	教職実践演習(中•高)	2	秋	火4	桑原 憲一	E-311	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	19820	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	火4	桑原 憲一	E-311	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27
4-8	22253	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	小島 優生	5-210	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	06981	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	水2	小島 優生	5-210	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27
4-8	22249	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	安井 一郎	E-501	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	09112	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	水2	安井 一郎	E-501	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27
4-8	22251	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順、2010年度以降 入学者のみ履修可	27
4-8	12782	教育実習論Ⅱ(事後指導)※	2	秋	木2	川村 肇	5-101	20	先着順、2009年度以前 入学者のみ履修可	27

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

		人は教職に関する科						- 무		
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_	司書教諭課程登録者のみ履 修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308		司書教諭課程登録者のみ履 修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_	司書教諭課程登録者のみ履 修可	29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409		司書教諭課程登録者のみ履 修可	30
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412		抽選、司書教諭課程登録者 のみ履修可	31
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412		抽選、司書教諭課程登録者 のみ履修可	31
2-3	06998	生涯学習概論_11以前	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	-	司書課程登録者(2011年度 以前入学者)のみ履修可	65
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405		司書課程登録者(2012年度 以降入学者)のみ履修可	65
2-3	06949	道徳教育の研究	2	春	月3	安井 一郎	5-207	_	高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06947	道徳教育の研究	2	春	木2	安井 一郎	E-304		高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06948	道徳教育の研究	2	秋	木2	小島 優生	E-304	_	高校1種免許状に対しては 「教科又は教職に関する科 目」選択科目として適用	21
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友佑	5-207	_	中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」必修科目として適用	32
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友佑	5-207		中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」必修科目として適用	32
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金3	山口 友佑	5-207	_	中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」必修科目として適用	32
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金4	山口 友佑	5-207		中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」必修科目として適用	32

[※]抽選結果を確認すること。

教職課程 授業科目(2012年度以前入学者)

≪教科に関する科目≫

学年- 学期	時間割コード	○ [天] チ の14 ロ ル 科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当	当教員	教室	定員 ※	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説I	2	春	月4	會田	康範	E-312	_		33
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田	康範	E-312	-		33
1-1	06984	外国史概説 I	2	秋	金5	兼田	信一郎	E-201	_		34
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金5	久慈	栄志	E-202	_		35
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本	弘章	E-312	_		36
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本	弘章	E-312	_		36
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本	弘章	E-312	_		37
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本	弘章	E-312	_		37
2-3	07023	法律学概説 I	2	春	水2	大川	俊	E-206	_	経·法履修不可	38
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	火1	鈴木	淳一	E-102	-	経・法履修不可	38
2-3	07025	政治学概説 I	2	春	木1	杉田	孝夫	5-207	_	経・法履修不可	39
2-3	07026	政治学概説 Ⅱ	2	秋	木1	杉田	孝夫	5-207	_	経・法履修不可	39
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	40
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修	40
2-3	07029	哲学概説I	2	春	火5	河口	伸	6-303	_		41
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口	伸	6-303	_		41
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	木4	松丸	壽雄	5-211	300	養は自学科科目で履修	42
1-1	07032	倫理学概説 Ⅱ	2	秋	木4	松丸	壽雄	E-205	300	養は自学科科目で履修	42
2-3	07033	宗教学概説 I	2	春	木5	河口	伸	6-303	_		43
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口	伸	6-303	_		43
1-1	07104	心理学概説 I	2	春	木2	田口	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	44
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口	雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	44

2008〜2012年度入学者対象 「教科に関する科目」の全学共通授業科目対応表

以下の「教科に関する科目」の履修は、対応する全学共通授業科目を履修登録してください。

時間割コード等は、所属学科の『2016年度授業時間割表』の「曜日・時限別時間割」のページを参照してください。

	一寸10、171両	子件07』2010年及授耒时间剖衣』0.7 T	・ 唯口 時限が時间引いて フモ		C \/_(
履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想a)	ı	1	2016年度不開講
養	英語	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ことばと思想1(英語圏の社会と思想b)	ı	ı	2016年度不開講
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	春	火3	渡部 富栄
養	英語	ことばと思想2(英語通訳)	ことばと思想2(英語通訳)(英語通訳 の仕事)	秋	火3	渡部 富栄
養∙経∙法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(中世の仏教と 社会)	春	水1	菅原 正子
養∙経∙法	社会·地歴	歴史と文化1(歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(中世の「悪 党」と民衆)	秋	水1	菅原 正子
養・経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(日本史)	歴史と文化1(歴史学1)(「15年戦争」を どうとらえるか)	春	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(日本史)	歴史と文化1(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	水2	丸浜 昭
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(イスラーム世 界の成立と拡大)	春	木3	熊谷 哲也
養・経・法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷 哲也
経·法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(東洋史)	歴史と文化1(中国史a)	春	木4	張 士陽
経·法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学2)(東洋史)	歴史と文化1(中国史b)	秋	木4	張 士陽
養∙経∙法	社会·地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(ヨーロッパ史 1)	春	木3	上村 敏郎
養∙経∙法	社会∙地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(ヨーロッパ史 2)	秋	木3	上村 敏郎
養・経・法	社会∙地歴	歴史と文化1 (歴史学1)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	木3	佐藤 唯行
養∙経∙法	社会∙地歴	歴史と文化1(歴史学2)(西洋史)	歴史と文化1(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	木3	佐藤 唯行
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1 (教育の歴史1)	歴史と文化1(教育の歴史1)	春	木5	長谷部 圭彦
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1 (教育の歴史2)	歴史と文化1(教育の歴史2)	秋	木5	長谷部 圭彦
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1(日本思想史1)	歴史と文化1(日本思想史1)	-	-	2016年度不開講
法(総)	社会·地歴	歴史と文化1(日本思想史2)	歴史と文化1(日本思想史2)	-	ı	2016年度不開講
法(総)	社会∙地歴	歴史と文化1 (文化史入門)	歴史と文化1(文化史入門)	春	木2	古川 堅治
法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(東洋古 代から近世まで)	春	水2	松丸 壽雄
法	社会∙地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(東洋近世から現代まで)	秋	水2	松丸 壽雄
養・法	社会·地歴	ことばと思想1(社会思想史1)	ことばと思想1(社会思想史1)(市民的 社会像の黎明期)	春	火4	市川 達人
養・法	社会·地歴	ことばと思想1(社会思想史2)	ことばと思想1(社会思想史2)(市民的 社会像の確立期)	秋	火4	市川 達人
養・経・法	社会·地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(自然環境と文化)	春	水2	秋本 弘章
養・経・法	社会·地歴	現代社会1 (地理学2)	現代社会1(地理学2)(自然環境と文化)	秋	水2	秋本 弘章
経·法	社会·地歴	現代社会1(地理学1)	現代社会1(地理学1)(世界の自然環境と文化)	春	金4	北﨑 幸之助
経·法	社会·地歴	現代社会1 (地理学2)	現代社会1(地理学2)(世界の自然環 境と文化)	秋	金4	北﨑 幸之助

履修対象 学科(※)	免許教科	教科に関する科目	対応する全学共通授業科目	開講 学期	曜時	担当教員
法(総)	社会·地歴	現代社会1(地誌学1)	現代社会1(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	ı	-	2016年度不開講
法(総)	社会·地歴	現代社会1(地誌学2)	現代社会1(地誌学2)(ドイツ地域論)	ı	-	2016年度不開講
養∙法	社会·公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(はじめての経済 学)	春	木2	黒木 亮
養∙法	社会·公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(はじめての経済 学)	秋	木2	黒木 亮
養・法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学1)	現代社会1(経済学1)(ミクロの視点で考える)	1	-	2016年度不開講
養・法(総)	社会·公民	現代社会1(経済学2)	現代社会1(経済学2)(マクロの視点で 考える)	1	-	2016年度不開講
養•経	社会·公民	現代社会1(国際法1)	現代社会1(国際法1)(国際社会と私たち)	春	月3	一之瀬 高博
養•経	社会·公民	現代社会1(国際法2)	現代社会1(国際法2)(国際紛争を考 える)	秋	月3	一之瀬 高博
養	社会·公民	現代社会1(民法1)	現代社会1(民法1)	春	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(民法2)	現代社会1(民法2)	秋	月2	小川 佳子
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	春	火2	加藤 一彦
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	月5	野口 健格
養	社会·公民	現代社会1(日本国憲法)	現代社会1(日本国憲法)	秋	火2	加藤 一彦

[※]履修対象学科に定められている学科のみ科目の適用がうけられます。

2008~2012年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法に 定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	全学共通授業科目	現代社会1(日本国憲法)	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
口本国思丛	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	全学共通授業科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業科目「スポーツ・レクリエーション」を参照の上、登録すること。
外国語 コミュニケーション	所属によって 異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	所属によって 異なる	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教職に関する科目≫

		<u>- </u>		I 00-#		7		1	1	
学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06900	教職論	2	春	月3	桑原 憲一	E-202	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06902	教職論	2	春	火5	萩原 真美	4-401	-	養は自学科科目で履修	1
1-1	06901	教職論	2	秋	月4	桑原 憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	1
1-1	06904	教育原論	2	春	火4	萩原 真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06906	教育原論	2	秋	火4	萩原 真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06905	教育原論	2	秋	火5	萩原 真美	4-401	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	06907	教育原論	2	秋	木3	川村 肇	E-202	_	養は自学科科目で履修	2
1-1	19844	教育心理学	2	春	火4	白砂 佐和子	A-207	_	養は自学科科目で履修	3
1-1	19736	教育心理学	2	春	金1	田口 雅徳	A-207	_	養は自学科科目で履修	3
1-1	19737	教育心理学	2	秋	火4	白砂 佐和子	5-207	_	養は自学科科目で履修	3
1-1	19738	教育心理学	2	秋	金1	田口 雅徳	A-207	_	養は自学科科目で履修	3
2-3	06914	教育制度	2	春	月4	桑原 憲一	E-206	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06915	教育制度	2	春	木1	小島 優生	5-405	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06913	教育制度	2	秋	木1	小島 優生	6-101	_	養は自学科科目で履修	4
2-3	06919	教育課程論	2	春	火4	桑原 憲一	6-101	_	養は自学科科目で履修	5
2-3	06918	教育課程論	2	春	水2	安井 一郎	E-313	1	養は自学科科目で履修	5
2-3	06917	教育課程論	2	秋	火5	桑原 憲一	E-311	_	養は自学科科目で履修	5
3-5	06920	ドイツ語科教科教育法 I	2	春	火1	金井 満	E-506	_		6
3-5	06921	ドイツ語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	火1	金井 満	E-506	_		6
3-5	24067	ドイツ語科教科教育法皿	2	春	木3	上田 浩二	E-517	_		7
3-5	24068	ドイツ語科教科教育法Ⅳ	2	秋	木3	上田 浩二	E-517	_		7
2-3	22937	英語科教科教育法 I	2	春	火1	浅岡 千利世	E-310	_	外のみ履修可、2年次に履修 できなかった者のみ可	8
2-3	14259	英語科教科教育法 [2	秋	火1	羽山 恵	E-310	_	外のみ履修可	8
2-3	20885	英語科教科教育法 I	2	秋	土2	日野 克美	E-204	_	外のみ履修可	8
3-5	23702	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	月5	浅岡 千利世	A-401	25	外のみ履修可、	9
3-5	23707	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	月5	浅岡 千利世	A-401	20	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	23709	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	火5	E. 本橋	A-403	25	外のみ履修可、	9
3-5	23705	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	火5	E. 本橋	A-403	[→] Z3 表・秋セット履修 先善		9
3-5	23708	英語科教科教育法Ⅱ	2	春	水1	J. J. ダゲン	6-406	25	外のみ履修可、	9
3-5	23706	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水1	J. J. ダゲン	6-406	20	春・秋セット履修、先着順	9

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
3-5		英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	木1	羽山 恵	A-407	0.5	外のみ履修可、	9
3-5	23704	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	木1	羽山 恵	A-407	25	春・秋セット履修、先着順	9
3-5	24081	英語科教科教育法IV	2	春	木2	J. J. ダゲン	E-506	_	外のみ履修可	10
3-5	24080	英語科教科教育法Ⅳ	2	秋	木2	J. J. ダゲン	E-506	ı	外のみ履修可	10
2-3	14024	英語科教科教育法 I	2	秋	金4	齋藤 雪絵	E-313	-	養・経・法のみ履修可	8
3-5	14025	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	水2	臼井 芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	22259	英語科教科教育法 Ⅱ	2	春	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	22260	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	水2	臼井 芳子	E-521	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	14026	英語科教科教育法Ⅲ	2	秋	金2	齋藤 雪絵	E-505	15	養・経・法のみ履修可、先 着順	9
3-5	24357	英語科教科教育法Ⅳ	2	春	水3	安間 一雄	E-303	_	養・経・法のみ履修可	10
3-5	06932	フランス語科教科教育法 I	2	春	木1	中村 公子	6-305	_		11
3-5	06933	フランス語科教科教育法 Ⅱ	2	秋	木1	中村 公子	6-305	_		11
3-5	24070	フランス語科教科教育法Ⅲ	2	春	木2	中村 公子	6-305	_		12
3-5	24071	フランス語科教科教育法Ⅳ	2	秋	木2	中村 公子	6-305	_		12
2-3	06934	社会科教育法 I	2	春	月1	秋本 弘章	E-312	_		13
3-5	06935	社会科教育法Ⅱ	2	春	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
3-5	06936	社会科教育法Ⅲ	2	秋	火2	秋本 弘章	E-312	_		14
2-3	06939	地理·歷史科教育法 I	2	秋	土1	鈴木 孝	E-312	_		15
3-5	06940	地理•歴史科教育法Ⅱ	2	秋	木1	秋本 弘章	E-312	_		16
3-5	06941	地理•歴史科教育法Ⅲ	2	春	月5	會田 康範	E-312	_		17
3-5	06937	公民科教育法I	2	春	土4	及川 良一	5-208	_		18
3-5	06938	公民科教育法Ⅱ	2	秋	土4	及川 良一	5-208	_		18
3-5	06942	情報科教育法I	2	春	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
3-5	06943	情報科教育法Ⅱ	2	秋	月2	秋本 弘章	E-411	_		19
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一郎	5-207	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一郎	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	木2	小島 優生	E-304	_	中学校1種免許状は必修	21
2-3	19740	特別活動論	2	春	土3	及川 良一	5-309	_		22
2-3	19739	特別活動論	2	秋	月3	桑原 憲一	E-202	_		22
2-3	19741	特別活動論	2	秋	土3	及川 良一	5-208	_		22
2-3	06956	教育方法学	2	春	月3	町田 喜義	E-206	_		23
2-3	06955	教育方法学	2	春	水1	安井 一郎	4-108	_		23
2-3	06954	教育方法学	2	秋	月3	町田 喜義	E-206	_		23

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06958	生徒指導法	2	春	火5	桑原 憲一	6-101	_		24
2-3	06961	生徒指導法	2	春	土1	及川 良一	5-309	_		24
2-3	06960	生徒指導法	2	秋	土1	及川 良一	E-302	_		24
2-3	06963	学校カウンセリング	2	春	金2	山本 良	4-108	_	養は自学科科目で履修	25
2-3	06962	学校カウンセリング	2	秋	木4	鈴木 乙史	E-312	-	養は自学科科目で履修	25
2-3	06965	学校カウンセリング	2	秋	金2	山本 良	4-108	_	養は自学科科目で履修	25
3-6	24076	教育実習指導	2	春	水2	小島 優生	5-210	25	特段の事情がある者のみ 履修可、先着順	26
3-6	24075	教育実習指導	2	秋	月2	安井 一郎	5-206	25	先着順	26
3-6	24074	教育実習指導	2	秋	月3	安井 一郎	E-309	25	先着順	26
3-6	24072	教育実習指導	2	秋	水1	岩崎 充益	5-202	25	先着順	26
3-6	24079	教育実習指導	2	秋	水2	小島 優生	5-210	25	先着順	26
3-6	24073	教育実習指導	2	秋	水4	岩崎 充益	5-202	25	先着順	26
3-6	24077	教育実習指導	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順	26
4-7	07608	教育実習I	2	集中	_	教職課程	_	_		_
4-7	07609	教育実習Ⅱ	2	集中	_	教職課程	_	_		_
4-8	14262	教職実践演習(中•高)	2	春	水2	小島 優生	5-210	25	特段の事情がある者のみ 履修可、先着順	27
4-8	22250	教職実践演習(中•高)	2	秋	月1	秋本 弘章	E-312	25	先着順	27
4-8	22248	教職実践演習(中•高)	2	秋	月4	安井 一郎	5-206	25	先着順	27
4-8	22252	教職実践演習(中•高)	2	秋	火4	桑原 憲一	E-311	25	先着順	27
4-8	22253	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	小島 優生	5-210	25	先着順	27
4-8	22249	教職実践演習(中•高)	2	秋	水2	安井 一郎	E-501	25	先着順	27
4-8	22251	教職実践演習(中•高)	2	秋	木2	川村 肇	5-101	25	先着順	27

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教科又は教職に関する科目≫

学年- 学期	み ドーク 時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教	員 教室	定員	備考	ページ
2-3		学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖伯	t A-409	_	司書教諭課程登録 者のみ履修可	28
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	t A-308	-	司書教諭課程登録 者のみ履修可	29
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	t A-308	_	司書教諭課程登録 者のみ履修可	29
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖伯	t A-409	ı	司書教諭課程登録 者のみ履修可	30
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	司書教諭課程登録 者のみ履修可	31
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽	7 5-405	-	司書課程登録者 (2012年度以降入学 者)のみ履修可	65
2-3	23624	道徳教育の理論と実践	2	春	木2	安井 一島	E-304	1	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	23626	道徳教育の理論と実践	2	春	月3	安井 一島	5-207	1	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	23625	道徳教育の理論と実践	2	秋	木2	小島 優生	Ė E-304	-	高校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」選択科目として適用	21
2-3	06997	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金3	山口 友体	占 5-207	_	中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」 必修科目として適用	32
2-3	09109	介護ボランティアの理論と実践	2	春	金4	山口 友体	占 5-207	1	中学校1種免許状に対しては「教科又は教職に関する科目」 必修科目として適用	32
2-3	12780	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金4	山口 友体	占 5-207	_	中学校1種免許状に 対しては「教科又は 教職に関する科目」 必修科目として適用	32
2-3	12781	介護ボランティアの理論と実践	2	秋	金3	山口 友体	占 5-207	_	中学校1種免許状に 対しては「教科又は 教職に関する科目」 必修科目として適用	32
3-5	22936	教科教育法特論 I (国環経用)	2	秋	水1	安井 一島	5-208	_	環のみ履修可、環以 外の学科生が履修 希望の場合、要窓口 相談	20

教職課程 授業科目(2013年度以降入学者)

≪教科に関する科目≫

学年- 学期	時間割コード	<u> </u>	単位数	開講 学期	曜時	担	当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1	06982	日本史概説I	2	春	月4	會田	康範	E-312	_		33
1-1	06983	日本史概説Ⅱ	2	秋	月4	會田	康範	E-312	-		33
1-1	06984	外国史概説 I	2	秋	金5	兼田	信一郎	E-201	_		34
1-1	06985	外国史概説Ⅱ	2	春	金5	久慈	栄志	E-202	_		35
1-1	06986	地理学概説 I	2	春	火1	秋本	弘章	E-312	-		36
1-1	06987	地理学概説Ⅱ	2	秋	火1	秋本	弘章	E-312	-		36
1-1	06988	地誌学概説 I	2	春	水1	秋本	弘章	E-312	ı		37
1-1	06989	地誌学概説Ⅱ	2	秋	水1	秋本	弘章	E-312	1		37
2-3	07023	法律学概説 I	2	春	水2	大川	俊	E-206	1	経・法履修不可	38
2-3	07024	法律学概説Ⅱ	2	秋	火1	鈴木	淳一	E-102	_	経·法履修不可	38
2-3	07025	政治学概説I	2	春	木1	杉田	孝夫	5-207	_	経・法履修不可	39
2-3	07026	政治学概説Ⅱ	2	秋	木1	杉田	孝夫	5-207	_	経·法履修不可	39
1-1	07027	社会学概説 I	2	春	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	40
1-1	07028	社会学概説Ⅱ	2	秋	土1	岡村	圭子	E-201	300	養は自学科科目で履修 環は履修不可	40
2-3	07029	哲学概説I	2	春	火5	河口	伸	6-303	1		41
2-3	07030	哲学概説Ⅱ	2	秋	火5	河口	伸	6-303	ı		41
1-1	07031	倫理学概説 I	2	春	木4	松丸	壽雄	5-211	300	養は自学科科目で履修	42
1-1	07032	倫理学概説Ⅱ	2	秋	木4	松丸	壽雄	E-205	300	養は自学科科目で履修	42
2-3	07033	宗教学概説 I	2	春	木5	河口	伸	6-303	_		43
2-3	07034	宗教学概説Ⅱ	2	秋	木5	河口	伸	6-303	_		43
1-1	07104	心理学概説 I	2	春	木2	田口	雅徳	E-101	300	養は自学科科目で履修	44
2-3	07105	心理学概説Ⅱ	2	秋	木4	田口	雅徳	6-201	100	養は自学科科目で履修	44
1-1	22810	東洋史 I (教職)	2	春	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の	45
2-3	22812	東洋史 I (教職)	2	春	木4	張士	陽	6-101	300	授業を履修希望者は、 免許課程係で別途手続	46
1-1	22811	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	熊谷	哲也	E-201	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の	45
2-3	22813	東洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木4	張士	陽	E-416	300	授業を履修希望者は、 免許課程係で別途手続	46
1-1	22806	西洋史 I (教職)	2	春	木3	上村	敏郎	5-128	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の	47
1-1	22808	西洋史 I (教職)	2	春	木3	佐藤	唯行	5-211	300	授業を履修希望者は、 免許課程係で別途手続	48
1-1	22807	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	上村	敏郎	5-128	300	養は履修不可 同一科目名で別教員の	47
1-1	22809	西洋史Ⅱ(教職)	2	秋	木3	佐藤	唯行	5-211	300	授業を履修希望者は、 免許課程係で別途手続	48

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
1-1		地理学 I (教職)	2	春	水2	秋本 弘章	E-312	300	経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	49
1-1	22816	地理学 I (教職)	2	春	金4	北﨑 幸之助	E-202	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	50
1-1	22815	地理学Ⅱ(教職)	2	秋	水2	秋本 弘章	E-312	300	経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	49
1-1	22817	地理学Ⅱ(教職)	2	秋	金4	北﨑 幸之助	E-202	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授 業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	50
3-5	18301	地誌学 I (教職)	2	春	火3	鈴木 隆	E-312	_	養・経は履修不可、同一 科目名で別教員の授業	51
3-5	21603	地誌学 I (教職)	2	春	金2	犬井 正	E-312	_	を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	52
3-5	18302	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	火3	鈴木 隆	E-312	1	養・経は履修不可、同一	51
1-1	21602	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	水3	浦部 浩之	6-201	1	科目名で別教員の授業 を履修希望者は、免許	53
3-5	21604	地誌学Ⅱ(教職)	2	秋	金2	犬井 正	E-312	1	課程係で別途手続き。	52
1-1	22820	国際法 I (教職)	2	春	月3	一之瀬 高博	5-128	300	経・法は履修不可	54
1-1	22821	国際法Ⅱ(教職)	2	秋	月3	一之瀬 高博	A-206	300	経・法は履修不可	54
1-1	22825	英語通訳(教職)	2	春	火3	渡部 富栄	E-309	50	外は履修不可	55
1-1	22826	英語通訳(教職)	2	秋	火3	渡部 富栄	E-309	50	外は履修不可	55
2-3	22828	英語圏の社会と思想a(教職)	2	-	-	2016年度不開講	-	1		_
2-3	22827	英語圏の社会と思想b(教職)	2	-	ı	2016年度不開講	_	ı		_
1-1	22837	社会経済史a(教職)	2	春	水1	菅原 正子	5-211	300	養・経は履修不可	56
1-1	22838	社会経済史b(教職)	2	秋	水1	菅原 正子	5-211	300	養・経は履修不可	56
1-1	22839	社会思想史a(教職)	2	春	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19979	社会思想史a(教職)	2	春	水2	松丸 壽雄	E-201	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	58
1-1	22840	社会思想史b(教職)	2	秋	火4	市川 達人	E-206	300	養・経は履修不可 同一科目名で別教員の授	57
1-1	19980	社会思想史b(教職)	2	秋	水2	松丸 壽雄	E-201	300	業を履修希望者は、免許 課程係で別途手続き。	58
2-3	22845	外国経済史a(教職)	2	春	火1	御園生 眞	E-314	350	養・経・総は履修不可	59
2-3	22846	外国経済史b(教職)	2	秋	火1	御園生 眞	E-314	350	養・経・総は履修不可	59
2-3	_	日本思想史b(教職)	2	_	_	2016年度不開講	_	_		_
2-3	_	日本思想史b(教職)	2	_	_	2016年度不開講	_	_		_
3-5	22843	経済学史a(教職)	2	春	木2	黒木 亮	E-308	350	養・経・総は履修不可	60
3-5	22844	経済学史b(教職)	2	秋	木2	黒木 亮	E-202	350	養・経・総は履修不可	60

2013~2016年度入学者対象 教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目

「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」のほかに、文部科学省が別に定める科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位を修得しなければなりません。 所属学科毎に履修科目が異なるため、「履修の手引き」免許課程の当該ページを参照し、単位修得してください。

免許法施行規則 に定める科目	所属	科目群	科目名	単位数	備考
日本国憲法	外国語学部 国際教養学部 経済学部	各学部共通科目	日本国憲法	2単位	下表の時間割から、いずれか1科目 を登録すること。
	法学部	学部専門科目	憲法入門	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
体育	全学部	各学部共通科目	スポーツ・レクリエーション	1単位×2	自学科時間割冊子の全学共通授業 科目「スポーツ・レクリエーション」を 参照の上、登録すること。
外国語 コミュニケーション	全学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	外国語学部 国際教養学部 経済学部	所属によって異なる	「履修の手引」掲載科目	2単位	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
情報機器の操作	计	基礎科目	社会科学情報検索法	2単位×1	自学科時間割冊子を参照し、単位修 得すること。
	法学部	各学部共通科目	コンピュータ入門a	Z 早 江 X	下表の時間割から、いずれか1科目
			コンピュータ入門b	を登録すること。	

学年 -学期	時間割 コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員 ※1	備考	ページ
1-1	22823	日本国憲法(教職)	2	春	火2	加藤 一彦	E-313	300	法履修不可	61
1-1	22822	日本国憲法(教職)	2	秋	月5	野口 健格	E-205	300	法履修不可	62
1-1	22824	日本国憲法(教職)	2	秋	火2	加藤 一彦	4-401	300	法履修不可	61
1-1	06968	コンピュータ入門a(教職)	2	春	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	63
1-1	06969	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63
1-1	06973	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金3	杉村 和枝	E-414	60	外•養•経履修不可	63
1-1	06971	コンピュータ入門a(教職)	2	春	金4	黄 海湘	E-403	49	外•養•経履修不可	63
1-1	% 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	火3	久東 義典	E-407	49	外•養•経履修不可	63
1-1	※ 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63
1-1	※ 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金3	杉村 和枝	E-414	60	外•養•経履修不可	63
1-1	% 2	コンピュータ入門b(教職)	2	秋	金4	黄 海湘	E-403	49	外・養・経履修不可	63

^{※1} 抽選結果を確認すること。

^{※2} 秋学期履修希望者は、履修登録期間内に教務課法学部係窓口にて別途手続(整理券必要)。

司書課程 授業科目(2011年度以前入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	06998	生涯学習概論_11以前	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_		64
2-3	06999	図書館概論_11以前	2	春	木4	井上 靖代	A-306	_		65
2-3	07036	図書館経営論_11以前	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	_		68
2-3	07035	図書館サービス論_11以前	2	春	木2	井上 靖代	A-308	_		69
3-5	08830	情報サービス論a_11以前	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	70
3-5	08747	情報サービス論a_11以前	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	70
3-5	08748	情報サービス論b_11以前	2	春	火2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	72
3-5	08831	情報サービス論b_11以前	2	春	火3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	72
3-5	07004	情報検索演習_11以前	2	秋	火2	気谷 陽子	A-308	50	先着順	72
3-5	07005	情報検索演習_11以前	2	秋	火3	気谷 陽子	A-308	50	先着順	72
2-3	07006	図書館資料論_11以前	2	春	木1	井上 靖代	A-308	_		73
2-3	07007	専門資料論_11以前	2	秋	水2	井上 靖代	5-101	_		77
3-5	07008	資料組織概説_11以前	2	春	火5	小黒 浩司	A-409	_		74
3-5	14255	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	月1	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット 履修(前半・後半双	75
3-5	07010	資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308	00	方単位修得するこ と)	75
3-5	07009	資料組織演習(前半)_11以前	1	春	月2	小黒 浩司	A-308	50	先着順、春・秋セット 履修(前半・後半双	75
3-5	14256	資料組織演習(後半)_11以前	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308	00	方単位修得するこ と)	75
2-3	07011	児童サービス論_11以前	2	秋	木2	井上 靖代	A-308	_		71
2-3	07012	図書及び図書館史_11以前	2	春	火4	小黒 浩司	A-409	_		78
3-5	_	資料特論	2	_	_	2016年度不開講	_	_		_
2-3	_	コミュニケーション論	2		_	2016年度不開講	_	_		_
2-3	_	情報機器論	2	_	_	2016年度不開講	_	_		_
3-5	07015	図書館特論_11以前	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	_		76

司書教諭課程 授業科目(2011年度以前入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	-		27
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	_		28
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	_		28
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	_		29
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選※	30
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選※	30

[※]抽選科目は、抽選結果を確認すること。

司書課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	22670	生涯学習概論_12以降	2	秋	火4	阪本 陽子	5-405	_		64
2-3	22671	図書館概論_12以降	2	春	木4	井上 靖代	A-306	_		65
3-5	22951	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月3	福田 求	E-412	20	先着順	66
3-5	22952	図書館情報技術論_12以降	2	秋	月4	福田 求	E-412	20	先着順	66
3-5	22953	図書館情報技術論_12以降	2	秋	火2	堀江 郁美	E-401	20	先着順	67
2-3	22672	図書館制度・経営論_12以降	2	秋	木4	井上 靖代	A-306	_		68
2-3	22673	図書館サービス概論_12以降	2	春	木2	井上 靖代	A-308	_		69
3-5	22954	情報サービス論_12以降	2	春	月3	福田 求	E-412	50	先着順	70
3-5	22955	情報サービス論_12以降	2	春	月4	福田 求	E-412	50	先着順	70
2-3	22677	児童サービス論_12以降	2	秋	木2	井上 靖代	A-308	_		71
3-5	22956	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	火2	気谷 陽子	A-308	EO	先着順、	72
3-5	22957	情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	火2	気谷 陽子	A-308	50	春・秋セット 履修	72
3-5	22958	情報サービス演習(前半)_12以降	1	春	火3	気谷 陽子	A-308	EO	先着順、 春・秋セット	72
3-5	22959	情報サービス演習(後半)_12以降	1	秋	火3	気谷 陽子	A-308	50	暦・秋セット	72
2-3	22674	図書館情報資源概論_12以降	2	春	木1	井上 靖代	A-308	_		73
2-3	22960	情報資源組織論_12以降	2	春	火5	小黒 浩司	A-409	_		74
3-5	22963	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	月1	小黒 浩司	A-308	50	先着順、 春・秋セット	75
3-5	22962	情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月1	小黒 浩司	A-308	50	履修	75
3-5	22961	情報資源組織演習(前半)_12以降	1	春	月2	小黒 浩司	A-308	50	先着順、 春・秋セット	75
3-5	22964	情報資源組織演習(後半)_12以降	1	秋	月2	小黒 浩司	A-308	50	履修	75
3-5	_	図書館基礎特論_12以降	2	_	_	2016年度不開講	_	_		_
3-5	22676	図書館サービス特論_12以降	2	秋	木1	井上 靖代	A-405	_		76
2-3	22679	図書館情報資源特論_12以降	2	秋	水2	井上 靖代	5-101	_		77
2-3	22678	図書・図書館史_12以降	2	春	火4	小黒 浩司	A-409	_		78
2-3	_	図書館施設論_12以降	2		_	2016年度不開講	_	_		_
4-7	1	図書館実習	2	_	_	2016年度不開講	-	_		_

司書教諭課程 授業科目(2012年度以降入学者)

学年- 学期	時間割コード	科目名	単位数	開講 学期	曜時	担当教員	教室	定員	備考	ページ
2-3	07016	学校経営と学校図書館	2	春	金2	井上 靖代	A-409	_		27
2-3	07017	学校図書館メディアの構成	2	春	金1	井上 靖代	A-308	1		28
2-3	07019	学習指導と学校図書館	2	秋	金1	井上 靖代	A-308	1		28
2-3	07020	読書と豊かな人間性	2	秋	金2	井上 靖代	A-409	1		29
2-3	07022	情報メディアの活用	2	秋	火4	福田 求	E-412	50	抽選※	30
2-3	07021	情報メディアの活用	2	秋	水2	福田 求	E-412	50	抽選※	30

※抽選科目は、抽選結果を確認すること。

03年度以降		教職論		担当者	各担当教員
講義目的、講義	概要	Ē	授業計画		
関する科目であけるとのでは 要を理解すると的な知識や技能 【授業の概要】 本講義、教員のの 意といる諸課題に である。	育りらとをル分主ついる主で	びテーマ】 議員免許法に規定された教職の意義等に 教職課程履修の基礎的・基本的な科目 ないる。本講義においては、教職の概 なに、教職に必要不可欠な基礎的・基本 は得することを目的とする。 一プ討議や研究協議などを通して教職の か服務、職務の内容や必要とされる資質 な的な理解を深めていく。教員が直面し いても取り上げ、教育に対する質の高い が情熱や使命感の醸成を図っていく。	第12回:教員の4 研修機: 第13回:様々なi 他の仕: 第14回:様々なi 学校教: 第15回:まとめ	る徒質と用分務ででは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一	後の役割 数員の一年 対と校務分掌 指導と生徒指導 所修と教員のキャリア 内研修(教育センター等における 重を考える(1) 女職の特質
到译月標 ***)意義、職務の内容など、教職に関する概 とができるようにする。	抵括的知識を習得 🛚	し、教職に就	く際の心構えをもち、これを
	事前・事後 (事前学修) は提示された資料、テキスト				
テキスト、 (テキスト) 講義毎に配布する資料 参考文献 (参考文献) 講義内容に応じて適宜紹介					
評価方法 課題レポート、定期試験等により総合的に評			 iする。		

03 年度以降	教職論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
(半期完結科目の	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	教育原論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	판	授業計画		
(半期完結科目ℓ	Dため、講義目的等は秋学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降		教育原論		担当者	各担当教員	
講義目的、講	義概要	Ī	授業計画			
つ、	理な 】 想本務 習と	でデーマ】 つるために、自らの教育観を相対化しつの他念を学び、教育に対する考え方のを要の概略を基礎として、子どもの権利を表対にし、人権と子どもの権利、能等の、教育において基本的な概念や考め関係を、ビデオ、教育の時事問題や教まして、様々な角度から考えていく。	第5回:教育の思想 第6回:教育の教思想 第6回:教育の思想 第7回:教育の思思想 第9回:教育の思思想 第10回:学力問題 第11回:能为定指 習熟 官別 2回:教育に表 第13回:子どもの 第13回:子どもの	の意義 形成と学習 の思想と歴史(その1)近代教育思想のめばえ の思想と歴史(その2) の教育から人間の教育へ の思想と歴史(その3)近代市民教育と国民教育 の思想と歴史(その4)日本の教育思想の歴史 の思想と歴史(その5)戦後の教育思想と教育問題 の思想と歴史(その6) 紀の教育思想と教育課題 力問題と国際比較 力と指導を考える一 熟度別指導と発達の最近接領域説一 育における競争と自由の問題を考える どもの権利条約の精神 どもに固有の権利と人権との関係		
針		歴史や目的、内容、方法、制度についっ 析のうえ、見解を提示できるようにする		学校観や現在	までの教育改革について理論	
事前・事後 学修の内容	(事前学修) 提示された資料を事前に読んでくること (事後学修) 講義を振り返り授業レポートを作成すること					
テキスト、 参考文献	【テキスト】『ポケット版 子どもの権利ノート』(300円) 【参考文献】適宜紹介する。					
評価方法	期末試験に授業レポート等を加味して評価する。					

12 年度以前 13 年度以降		教職心理学 教育心理学(12年	F度以前の交を含む。)		担当者	各担当教員
講義目的、講	購義概要	ţ.		授業計画		
の学校臨床に生かすこうしされる心理学 【授 教 市 には、 3) 授 教 市 で評価 と 数 で で 評価 と 数 音 で 評価 と き	学におい さい さい さい さい でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でい	でこれまで得られる生徒理解あるいかを受講者ととも かを受講者ととも で通して教育現場 でがある。 でがある。 でがある。 では、一般では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、これが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	てきた知見が,今日は生徒指導にいかにに検討する。受講生にたつ人間に必要とは解を深めてほしい。 「評価,(2)人格・つの領域がある。本する。すなわち、1.と学習への動機付け,歳していく予定であ	第2回:教育測別 第3回:教育評例 第4回:教育評例 第5回:学習の別 第6回:学習に認 第7回:学習意名 第9回:学習意名 第10回:発達財	位の方法 位価の方法 位価と学力問題 か原理 こおける動機付け な欲と原因帰属 な欲と目標理論 な欲と教師の役割 連期と発達課題 型アセスメントと発達障害 引障害の理解 HD の理解	
到達目標 事前·事後	子どもの発達や学習、学校適応に関わる心理学の基礎的知識を理解し、学校現場において生じる諸問題に対して心理学的視点で検討のうえ、見解を提示できるようにする。 授業計画に示された各課の内容を参考文献をもとに事前に学習する。事後にあっては授業内容を参考文献					
学修の内容	をもと	にまとめておく。	また、各教員が授業で	で事前・事後学習る	として個別に	指示した課題も含まれる。
テキスト、 参考文献	【テキスト】必要な資料を配付する。 【参考文献】授業にて適宜紹介する。					
評価方法	学期末の試験などにより、総合的に評価をおこなう					

12 年度以前 13 年度以降				各担当教員
講義目的、講義概要	· E	授業計画		
(半期完結科目∂	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		教育制度		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要	5	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【授業の概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する関心・情熱や使命感の醸成を図っていく。		第1回:オリエンテーション 第2回:教育の制度化 第3回:学校教育制度の概要 第4回:学校教育制度の変遷 第5回:公教育と私教育 第6回:教育香養員会制度 第7回:教育委員会制度 第8回:教育課程と学習指導要領 第9回:諸外国の教育の現状と課題 第10回:家庭教育の現状と課題 第11回:社会教育の現状と課題 第12回:教育改革の現状と課題 第13回:教育改革の現状と課題(1)学校評価・人事評価 第13回:教育改革の現状と課題(2)学校選択制・ 小中高一貫教育 第14回:教育改革の現状と課題(3)学校評議員・ 学校運営協議会 第15回:教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度			
)教育制度に関する基礎的知識、および、)いて諸外国や歴史との比較も行いながら			
事前・事後学修の内容	(事前学修)提示された資料を事前に読んでくること (事後学修)講義を振り返り授業レポートを作成すること				
テキスト、 参考文献	(テキスト) 講義内で指示する (参考文献) 教育小六法、他は講義内で指示する。				
評価方法	期末試験に授業レポート等を加味して評価する。				

03年度以降	教育制度		担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要	授業計画		
(半期完結科目	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	教育課程論		担当者	各担当教員	
講義目的、講	購義概要	₹	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 教育課程の編成と評価 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容 をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関す る今日的課題について考察することを目的とする。 【授業の概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教 育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である 教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教 育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上の ような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わ が国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課 題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VT R教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に 関する理解を深めていく。		第4回:日本の 第5回:教育課 第6回:教育課 第7回:教育課 第9回:学習指 第10回:学習指 第11回:学習指 第12回:現行	量数数量量量算算量量学学课と育育課人员 (1) 教室量量算算事情量学習習程と育育課人员 (1) 似何((1) 全种,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,以前,	対育課程編成のプロセス 全習指導要領と教育課程 はと方法(1)経験カリキュラム はと方法(2)教科カリキュラム はと方法(3)教育課程構成法 課程(1)昭和 20 年代 課程(2)昭和 30-40 年代 (育課程(3)昭和 50-60 年代 (育課程(4)平成 1-10 年代 (1)改訂の経緯と概要 (1)の検討 (1)改訂の経緯と概要 (1)の検討 (2)実践課題	
到達目標		課程と学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ 、よりよい教育課程の在り方や編成につ			
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。 その他は、講義の中で紹介する。				
評価方法	平常点 (50%、授業内課題を含む)、試験またはレポート (50%)、総合点 60 点以上合格。				0 点以上合格。

03 年度以降	教育課程論		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	· 要	授業計画		
(半期完結科目の	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降		ドイツ語科教科教育法 I		担当者	金井 満	
講義目的、講義概要 ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得してきた文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行うのに必要だと思われるドイツ語に関わる一般的知識をも含めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代表的な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、その長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実際に作成してみたい。		 授業計画 1. オリエンテーション 2. ドイツ語基礎知識確認試験 3. 試験の解答と解説による基礎知識の確認 1 (文法事項中心) 4. 試験の解答と解説による基礎知識の確認 2 (書き換え問題中心) 5. 試験の解答と解説による基礎知識の確認 3 (独作文中心) 6. 教壇実習の割り振りについて(基礎知識の一番弱い項目を中心に) 7. 代表的な外国語教授法について 1 (発表形式) 8. 代表的な外国語教授法について 2 (発表形式) 9. 教授法についてのディスカッション 10.教壇実習(アルファベットと発音を中心に) 11. 教壇実習(動詞の人称変化を中心に) 12. 教壇実習(格変化を中心に) 13. 教壇実習(所代名詞の格変化を中心に) 14. 教壇実習(前置詞を中心に) 15. 総括 				
到達目標	ドイツ語教育の歴史および現状と課題を理解し、また外国語学習・教育に関する基礎的理論を習得し、ドイツ語科指導に関して必要な事柄を分析のうえ、見解を提示できるようにする。					
事前・事後 学修の内容	ドイツ語文法の基礎知識の事前習得と不得意分野の事後学習					
テキスト、 参考文献	吉島茂	吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年				
評価方法		V語文法と教授法の基礎知識に関しては、 ₹翌への取り組み	、授業内の筆記試験。教授法に関する発表。			

教壇実習への取り組み

03年度以降		ドイツ語科教科教育法Ⅱ		担当者	金井 満
知識と教案の る。 ドイツ語科教 て、ドイツ語 擬授業の際に	ででは ででは ででである。 でできまする。 できる。 、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 で。 と。 できる。 で。 と。 できる。 で。	成の確認と補強、および外国語教授法のなどの実務的な技能の獲得を目標とす においては、複数回の模擬授業を通じ るという経験の獲得を目指したい。模 省者の授業をビデオ撮影し、担当者自ら)返り、さらに参加者全員で講評し合う	3. 教壇実習の 4. 教壇実習で 5. 教壇実習で 6. 教壇実習で 7. 教壇実習で 8. 教壇実習で 9. 教壇連業活で 10. 教壇連実習で 11. 教壇実習で 12. 教壇実習で 13. 教壇実習の	礎割動格 3 受接ビコココココ 無	DIVで で化を中心に) いに) 心に) いた)
到達目標		/語教授法の理論及び学習指導要領に基~ らける基礎的な指導技術を習得し、さら/	, ,		,,,, - ,,,,, - , ,,,,
事前・事後 学修の内容	ドイツ語文法の基礎知識の事前習得と不得意分野の事後学習、教壇実習の事前準備と改善				
テキスト、 参考文献	吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年				
評価方法	ドイツ	/語文法と教授法の基礎知識に関しては、	授業内の筆記試験	_{倹。} 教壇実習	への取り組み

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法Ⅲ	担当者	上田 浩二
--------------------	---------------------------------	-----	-------

講義目的、講義概要

【授業の到達目標及びテーマ】

外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。

具体的には、テキストを毎回配布しそれを訳してもらい、その結果を全員でチェックしながら議論し、そのなかで様々な学習上の問題点を考えていく。

【授業の概要】

とりわけ翻訳に焦点を当て、単なる訳読と翻訳の相違を意識しながら、実践的な翻訳演習を行うとともに、それが外国語教育にどう生かせるかを考える。

授業計画

第1回:翻訳するとはどういうことか、

それが外国語学習にどう生かせるかを考える

第2回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(1)(社会)第3回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(2)(歴史)第4回:日本に関するテーマに基づく実践的演習(3)(文化)第5回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(1)(社会)第6回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(2)(歴史)

第7回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(3)(文化) 第8回:ドイツに関するテーマに基づく実践的演習(4)

(ヨーロッパの中のドイツ)

第9回:国際的なテーマに基づく実践的演習(1)(社会) 第10回:国際的なテーマに基づく実践的演習(2)(歴史) 第11回:国際的なテーマに基づく実践的演習(3)(文化) 第12回:国際的なテーマに基づく実践的演習(4)(日独交流)

第13回:アクチュアルなテーマに基づく実践的演習(1) (環境・エネルギー問題)

第14回:アクチュアルなテーマに基づく実践的演習(2)

(移民・多文化共生)

第15回:まとめ

到達目標	ドイツ語教授法の理論及び学習指導要領に基づき、より実践的な教授法、指導技術、教材開発力を習得し、 ドイツ語科の教育指導ができるようにする。
事前・事後 学修の内容	毎週、翻訳課題を渡し授業の前日夕方までに訳文を作成しメールで提出する。
テキスト、 参考文献	【テキスト】毎回、課題を出す。 【参考文献】特になし
評価方法	授業中の作業や発表および毎回提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。試験は行わない。連絡なく課題提出を3回以上怠った学生は履修放棄と見なす。

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論Ⅱ (ドイツ語) ドイツ語科教科教育法Ⅳ	担当者	上田 浩二
--------------------	--------------------------------	-----	-------

講義目的、講義概要

【授業の到達目標及びテーマ】

ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学 ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。

外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。

【授業の概要】

ドイツ語を学ぶことの意味や目的、実際の教育/学習方法について、単に理論や方法論を知るだけでなく、演習に参加する学生の外国語学習のプロセスを振り返ったり、それに関する意見交換をしながら、演習形式で学ぶ。

また、具体的な練習、たとえば翻訳者や通訳者がプロになる ための過程で行う練習法などを、実際に教室で行ってみて、それ ぞれの練習法がどのようにドイツ語教育に役立つかを体験しても らう。

授業計画 第1回:導入

第2回:これまで経験してきた外国語の学び方

第3回:外国語教育に求められるものと目標設定

第4回:ドイツ語の「特殊性」(その歴史的な回顧と現状)

第5回:ドイツ語の学習法(主たる学習法のタイプ)

第6回:聞き取りの練習(1)

(シャドウイングによるアプローチ)

第7回:聞き取りの練習(2)(その他の練習法)

第8回:テキストの展開に関する実際練習(1)

(アンティシペーションの役割)

第9回:テキストの展開に関する実際練習(2)

(各種の練習法の紹介)

第10回:テキストの展開に関する実際練習(3)

(各練習法の実際練習)

第11回:テキストの展開に関する実際練習(4)(各種練習法の評価)

第 1 2 回 : その他の実際練習 (1) (背景知識としての社会的テーマ)

第13回:その他の実際練習(2)(背景知識としての歴史的テーマ)

第14回:その他の実際練習(3)(背景知識としての世界的テーマ)

第15回:まとめ

到達目標 ドイツ語教育に関する理論や指導技術についてさらに理解を深め、学習指導要領に基づくドイツ語教育に関する実践的 指導力、ドイツ語科教員としての高い資質・能力を習得し、より質の高いドイツ語科の教育指導ができるようにする。

事前・事後 頻繁に課題を出すので、それを口頭ないしペーパーで提出してもらう。こうすることで、調べた結果や自 学修の内容 分の考えたことを整理する。

テキスト、 【テキスト】特になし **参考文献** 【参考文献】特になし

評価方法 授業中の作業や発表、および提出してもらう課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。試験は行わない。したがって、無断で3回以上欠席した学生には単位を与えない。

			担当者	
講義目的、講義概要	ī	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以前 13 年度以降				担当者	各担当教員
講義目的、認	冓義概要	E C	授業計画		
議義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は中学・高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき教科指導及び言語学習・習得に関する基礎的理論とその背景を幅広く取り上げ、それらを理解することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では様々な外国語教授法、日本における英語教育の歴史的変遷と課題を理解し、先達が築いてきた理論や研究も参考にしつつ、現代により合致した教育方法への応用を検討する。また最新の教授理論の背景とその効果に関わる研究についても議論する。			第1回:オリエンテーション 第2回:日本における英語教育の流れ 第3回:学習指導要領の変遷 第4回:英語教育に関する諸理論:母語習得 第5回:英語教育に関する諸理論:第二言語習得 第6回:英語教育に関する諸理論:学習者要因 第7回:英語教育に関する諸理論: 学習者言語とフィードバック 第8回:各種指導法の理論 第9回:各種指導法の応用 第10回:テストに関する理論と実践 第11回:ティームティーチングの理論と実践 第12回:教案の書き方と創意工夫 第13回:海外における英語教育 第14回:英語教員の資質向上 第15回:まとめ		
到達目標		な育の歴史および現状と課題を理解し、。 - 関して必要な事柄を分析のうえ、見解を			基礎的理論を習得し、英語科
事前・事後 学修の内容	各担当	á教員が指示する。			
テキスト、	【テキスト】各担当教員が指示する。				
参考文献	【参考書・参考資料等】授業中に指示する。				
評価方法	課題・	レポート、テスト、授業への参加度なる	どを総合的に評価で	する。詳細は	授業初回に指示する。

12 年度以前 13 年度以降		英語科教科教育法 I (英のみ) 英語科教科教育法 II (12 年度以前の交・養を含む。)		担当者	各担当教員	
講義目的、請	冓義概要	5	授業計画			
【授業の到達	幸 目標及	なびテーマ】	第1回:オリエ	ンテーション		
この授業で	では中学	学校・高等学校における英語科教育法に	第2回:発音の	指導		
関する基礎知	印識を身	Yにつけ、指導法を学び、実践すること	第3回:語彙・語	辞書の指導		
を目的とする	5.		第4回:文法の持	 旨導		
			第5回:受容ス	キル(リスニ	ング・リーディング)の指導	
【授業の概要	更】		第6回:産出スキ	キル (スピー:	キング・ライティング)の指導	
この授業で	では中	学校を中心とした英語指導法について	第7回:学習者	参加型の授業		
,		さもに、授業観察、指導案の作成、模擬	第8回:授業展		成	
	講評な	さどによって授業実践力の基礎を身につ	第9回: テスト	17910 11 114		
ける。			第10回:授業の実際:ビデオによる観察と討論			
			第11回:模擬			
		以降入学者はⅡとⅢ(12年度以前の交・	第12回:模擬		• =	
7) は原	則として同じ担当者の授業を受講する	第13回:模擬			
こと。			第14回:模擬			
			第15回:模擬打 	受業 クルー	フ5	
到達目標	英語教	校授法の理論及び学習指導要領に基づき。	. 学習目標に適合	する教材と指	導案を作成できる力、授業に	
到连日保	おける	基礎的な指導技術を習得し、さらに、	生徒の成績評価や日	自他の授業評	価ができるようにする。	
事前・事後	2年1	á教員が指示する。				
学修の内容	台担当教員が指外する。					
テキスト、	【テキスト】各担当教員が指示する。					
参考文献	【参考	【参考書・参考資料等】授業中に指示する。				
評価方法	課題・	レポート、テスト、模擬授業、授業へ	の参加度などを総合	合的に評価す	る。詳細は授業初回に指示す	
計逥刀法	る。					

12 年度以前 13 年度以降	英語科教科教育法Ⅲ 英語科教科教育法Ⅲ		養を含む。)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	 要		授業計画		
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 この授業では中学校・高等学校における英語科教育法に関する知識を身につけ、指導法を学び、実践することを目的とする。 【授業の概要】 この授業では高等学校を中心とした英語指導法についての知識を深めるとともに、授業観察、指導案の作成、模擬授業の実践、講評などによって授業実践力の基礎を身につける。 ※ I と II (13年度以降入学者は II と III (12年度以前の交・養を含む。)) は原則として同じ担当者の授業を受講すること。			第1回:オリエンテーション 第2回:英語で行う授業と教室英語 第3回:ワークショップ:導入および授業手続き 第4回:インプットを中心とした指導 第5回:ワークショップ:インプットを重視した指導 第6回:アウトプットを中心とした指導 第7回:ワークショップ:アウトプットを重視した授業 第8回:リキャストとスキャフォールディング 第9回:ワークショップ:内容重視型授業 第10回:ワークショップ:タスクを中心とした授業 第11回:ワークショップ:4技能の統合 第12回:自律学習のための課題設定 第13回:授業の総括および家庭学習 第14回:授業の実際:ビデオによる観察と討論 第15回:まとめ		
糾達甘標	教授法の理論及び学習打 の教育指導ができるよ・		より実践的な教技	受法、指導技	術、教材開発力を習得し、英
事前・事後 学修の内容	各担当教員が指示する。				
, ,,,,,	【テキスト】各担当教員が指示する。				
• -	考書・参考資料等】授業				
評価方法 課題 る。	・レポート、テスト、柞	莫擬授業、授業へ <i>0</i>	り参加度などを総合	合的に評価す	る。詳細は授業初回に指示す

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論Ⅱ(英語) 英語科教科教育法IV		担当者	各担当教員
講義目的、講	講義概 要	5	授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は中学・高校の英語教員を目指す学生が知っておくべき英語教育ならびに第二言語習得についての理論や指導法についてより深く学ぶことを目標とする。 【授業の概要】 この授業では第二言語習得研究で提唱されている理論を取り上げ、それらについて学び、議論する。それらを実際の授業実践に活かしていく方法を検討する。また英語教師としての英語運用能力のさらなる向上を図る。			第7回:アウト 第8回:フォー 第9回:タスクロ 第10回:コンプ 第11回:教室 第12回:教室	語語語ッラプカヤテこここ学習得とはかいます。アカヤテンはおお習得と言いまないまけけけるといいます。まずのこのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	習得 づけ 差 得に及ぼす効果 言語習得に及ぼす効果 習得に及ぼす効果 一ムによる指導法 指導法 言語習得を促す授業づくり 学習を促す授業づくり 言語習得の進捗の測定
到達目標		育に関する理論や指導技術についてさらに理 教員としての高い資質・能力を習得し、より			
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献	【テキスト】各担当教員が指示する。 【参考書・参考資料等】授業中に指示する。				
評価方法	課題・ る。	レポート、テスト、模擬授業、授業への	の参加度などを総合	合的に評価す	る。詳細は授業初回に指示す

12 年度以前 13 年度以降				各担当教員
講義目的、講義概	我要	授業計画		
(半期完結科目	日のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		フランス語科教科教育法 I		担当者	中村 公子	
講義目的、講	冓義概要	ξ	授業計画			
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 言語教育に携わっていく上で必要な言語教育理論や実践方法についての基礎知識を学び、教育実習に必要な事柄の習得を目指す。また、日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と今後の在り方について考える。 【授業の概要】 フランス語教育の歴史的変遷や教材分析、教案の書き方、教室活動、評価の仕方などを紹介する。教材分析や教案の作成など、グループまたは個人による課題に取り組む。必ず一回目から出席すること			第1回: Introduction 第2回: コースデザイン、カリキュラムデザイン、シラバスデザイン 第3回: 教案の書き方 (個人での教案作成作業) 第4回: 言語教育の方法の変遷 - 古代から現代まで - 第5回: フランス語教授法の変遷 - 文法訳読法から SGAV (視聴覚方式全体構造教授法) へ - 第6回: フランス語教授法の変遷 - SGAV の反省からコミュニカティブ・アプローチへ - 第7回: 日本におけるフランス語教育の変遷 第8回: 日本で作成されたフランス語教材の種類と分析 第9回: フランスで作成されたフランス語の総合教材 (méthodes) 種類と分析 第10回: 教材分析作業と発表 (グループ作業) 第11回: 教室活動 - アクティビティを取り入れた授業 - (グループ作業) 第12回: 教師の役割りと教室空間の使い方 第13回: 教室活動 - タスクを取り入れた授業 - (グループ作業)			
到達目標		ノス語教育の歴史および現状と課題を理解 ノス語科指導に関して必要な事柄を分析の				
事前・事後 学修の内容		スおよび日本で作成されたフランス語テキス 項目について、アクティビティを取り入れた		。また、授業の	の組み立て方の実践として、指示	
テキスト、 参考文献	【テキン 【参考	【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:『フランス語をどのように教えるか』, 駿河台出版社, 1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès: Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.				
評価方法		ロの講義ノート、グループによる作業と多ないための枠組みの作成。 レポート課場		アクティビテ	イ、タスク)、教案作成、	

教材分析のための枠組みの作成、レポート課題

03年度以降	予 フランス語科教科教育法Ⅱ		担当者	中村 公子		
講義目的、講	義概要	Ę	授業計画			
「接業の到達目標及びテーマ			第 2 回:模擬授 第 3 回:模擬授授 第 5 回:模模擬授授 第 5 回:模模擬授授 第 7 回: 模模 模模 模模 模 模 模 模 模 模 模 模 模 模 模 模 模 模	第 1 回: Introduction 第 2 回: 模擬授業 1 第 3 回: 模擬授業 2 第 4 回: 模擬授業 3 第 5 回: 模擬授業 5 第 7 回: 模擬授業 5 第 7 回: 模擬授業 6 第 8 回: 模擬授業 7 第 9 回: 模擬授業 8 第 1 0 回: 模擬授業 9 第 1 1 回: 模擬授業 10 第 1 2 回: 模擬授業 11 第 1 3 回: 模擬授業 12 第 1 4 回: 模擬授業 13		
到達目標		ノス語教授法の理論及び学習指導要領に基 こおける基礎的な指導技術を習得し、さら				
学 佐 の 士 ウ	実際の授業時間を想定して教案を作成し、必要な補助プリントや教材を準備する。模擬授業後に、実践した授業を振り 返り、反省点と今後の自分への課題をまとめる。また、課題に対しての自己評価を行う。					
テキスト、 参考文献	【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:『フランス語をどのように教えるか』, 駿河台出版社, 1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.					
▮評価万法		コの講義ノート、グループによる作業とタ }析のための枠組みの作成、レポート課是		アクティビテ	ィ、タスク)、教案作成、	

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論Ⅰ(フランス語) フランス語教科教育法Ⅲ		担当者	中村 公子
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方から アプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは			授業計画		
アプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 学習ストラテジーの基本的な考え方と、「聞く」能力を身につけるための学習活動(アクティビティ)を組み立てる方法を学び、グループ作業を通して実践していく。					
到達目標		ノス語教授法の理論及び学習指導要領にま フランス語科の教育指導ができるようにす	,,	内な教授法、	指導技術、教材開発力を習得
事前・事後 学修の内容		での自分自身の外国語学習について、具体的 様々な教授法に基づいた学習活動の中から、			
テキスト、 参考文献	【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:『フランス語をどのように教えるか』, 駿河台出版社, 1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès:Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.				
評価方法	定期記	大験、授業中のグループ作業、グループ系	· · · · · · · · · · · · · ·	への取り組み	などを総合的に評価する。

12 年度以前 13 年度以降		教科教育法特論Ⅱ(フランス語) フランス語科教科教育法Ⅳ		担当者	中村 公子	
講義目的、認	構義概要	5 5	授業計画			
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方から アプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 「聞く」能力養成を踏まえて、「話す」「読む」「書く」上でのコミュニケーション能力養成を目指した学習活動(アクティビティ)の組み立て方と指導法を学び、グループ作業を通して実践する。			ないもの) 第4回:「話す」 学 第5回:「話す」 活 (グルー) 活 第6回:「話む、 第7回:「読習者む。 第9回:文母話と 第10回: Docum 第12回:「読む、 第13回:「読む、	ts authentiqu を教材にする を習活動のり入いの が動かりでする ででである。 でではいいではいいではいいではいい。 でではいいではいいではいいではいいではいい。 でではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいでは	選びと準備、および組み立て方 たアクティビティ作成 発表 導法 上教材選び いて いについて ques を「読み物」とする授業 組み立て方 取り入れたアクティビティ作成	
到達目標	-	ス語教育に関する理論や指導技術についてさらに理解 対教員としての高い資質・能力を習得し、より質のA				
事前・事後 学修の内容		での自分自身の外国語学習について、具体的 様々な教授法に基づいた学習活動の中から、				
テキスト、 参考文献	【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著:『フランス語をどのように教えるか』,駿河台出版社, 1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès:Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.					
評価方法	定期詞	定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。				

03年度以降	社会科教育法 I		担当者	秋本 弘章	
講義目的、講義概要			授業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法 I は主として、社会科の理念、 内容、課題について考察する。 【授業の概要】 社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。			第1回: 社会科教員の1日 第2回: 社会科成立の背景と意義 第3回: 社会科の教育課程とその変化(1) 初期社会科 第4回: 社会科の教育課程とその変化(2) 分野制社会科の成立と展開 第5回: 社会科の教育課程とその変化(3) 知識から方法へ 第6回: 社会科の教育内容(1)地理的分野(1) 目標と内容 第7回: 社会科の教育内容(2)地理的分野(2)授業の展開 第8回: 社会科の教育内容(3)歴史的分野(1)目標と内容 第9回: 社会科の教育内容(4)歴史的分野(1)目標と内容 第9回: 社会科の教育内容(4)歴史的分野(1) 目標と内容 第10回: 社会科の教育内容(5)公民的分野(1) 目標と内容 第11回: 社会科の教育内容(6)公民的分野(2) 授業の展開 第12回: 社会科の今日的課題(1)環境 第13回: 社会科の今日的課題(2)人権 第14回: 社会科の今日的課題(3)国際化 第15回: 社会科の今日的課題(4)情報化		
到達目標	学習指導要領に定める中学校社会科の指導内容および指導法を理解し、中学校社会科の現状課題について 分析のうえ、見解を提示できるようにする。				
710 712	事前学習:学校学習指導要領(過去の版も含む)を熟読する。現行の学習指導要領の下で書かれている検 定済教科書の内容を把握する。事後学習:授業中に提示される課題を行う。				
4× ++ ++ 1	【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 年 9 月)社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。				
評価方法	授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。				

			担当者	
講義目的、講義概要	授業計画			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降		社会科教育法Ⅱ		担当者	秋本 弘章	
講義目的、講義概要			授業計画			
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法Ⅱは主として、社会科の授業 実践のための技能を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅱでは社会科で身につけるべき広い意味 での学力(知識・技能・態度等)を踏まえて、授業形態別 に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、 情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えて いく。		第1回:社会科の目標と身につけるべき力 第2回:学習と評価 第3回:講義式授業の特質 第4回:教材の収集と利用(1)新聞・雑誌・書籍 第5回:教材の収集と利用(2)視聴覚教材 第6回:教材の収集と利用(3)インターネット等 第7回:教材の収集と利用(3)インターネット等 第7回:教材の収集と活用(4)ワークシートの作成 第8回:生徒主体の学習指導法(1)調べ学習の指導 第9回:生徒主体の学習指導法(2)ディベートと発表 第10回:シミュレーション教材の利用 第11回:臨地学習の意義と計画 第12回:臨地学習の実践 第13回:臨地学習の実践 第14回:学習指導計画と学習指導案(1) 年間計画・学期計画・単元計画 第15回:学習指導計画と学習指導案(2)時間計画				
到達目標	中学校社会科の地理、歴史、公民の3分野の指導において必要な基礎的知識・技能を習得し、模擬授業に 臨む準備ができるようにする。					
事前・事後 学修の内容	学習指導要領、教科書を熟読する。学習教材等の収集など授業中に具体的な課題が示される。					
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 年 9 月)社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。					
評価方法	授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。					

03 年度以降		社会科教育法Ⅲ		担当者	秋本 弘章	
講義目的、講義概要			授業計画			
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校において、社会科を担当するための基礎となる事 柄を習得する。社会科教育法Ⅲは主として、社会科の模擬 授業を通じて実践力を身につけることを目標とする。 【授業の概要】 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および 学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会 科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。			第1回:学校カリキュラムの中の社会科 第2回:社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 第3回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 資料の収集 第4回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 教材構成と発問の工夫 第5回:学習指導案の作成と模擬授業の準備 プリント資料の作成と板書事項の検討 第6回:模擬授業(1)地理的分野 日本の諸地域 第7回:模擬授業(2)地理的分野 世界の諸地域 第8回:模擬授業(3)歴史的分野 近代以前の世界 第9回:模擬授業(4)歴史的分野 近代以降の日本 第10回:模擬授業(5)公民的分野 延済分野 第11回:模擬授業(6)公民的分野 政治分野 第12回:模擬授業(7)分野融合単元 現代社会の諸問題 第13回:評価問題の検討と学習評価 定期試験結果の分析と授業の改善 第15回:まとめ			
到達目標	授業の実践に必要となる学習指導案を作成する力、指導技術を習得し、社会科の授業の在り方について分析し、見解を提示できるようにする。					
子的 子区	授業時間は模擬授業の実施が中心となるので、学習指導要領の作成などは事前学習の課題となる。事後学習としては模 擬授業の反省を踏まえて、より良い学習指導案の作成を行う					
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部省『中学校学習指導要領解説(平成 20 年 9 月)社会編』日本文教出版 【参考文献】授業中に指示される。					
評価方法	授業時に出される小課題(レポート)等を含め総合的に評価する。					

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę C	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		地理・歴史科教育法 I		担当者	鈴木 孝	
講義目的、講	購義概要	Ē	授業計画			
「歴史認識」に関する問題点を明らかにし、歴史教育者として複眼的な歴史認識論をもてるようにします。その上で、世界史教育のための基本的な理念と方法論を明らかにします。 さらに、世界史 A および世界史 B について、教材研究の際の留意点や工夫、授業実践のための準備や事例を取り上げ、授業者としてのスキルアップをめざします。その際、新しい歴史教育に求められている考察力や発表力を念頭においた事例を扱います。 授業は講義方式で行いますが、毎回パワーポイントを用いた事例を提供します。(原則としてスライドのテキストに限って印刷して配布します。)		2. 歴史教育等 3. 学教标架· 5. 世界界 A 6. 世界界界 A 7. 世界界界 史史 A 9. 世世界界 B 11. 世界界 B 12. 世界 B 13. 世界 B 14. 発展的授	こおける世界5月では、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	1 2 4 0 : 14		
到達目標		校世界史に関する教育法の基礎的知識、およ	- , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
事前・事後 学修の内容	力と指導技術を習得し、さらに、世界史の授業のあり方について分析を行い、見解を提示できるようにする。 毎回の授業計画にそって、テキスト、世界史教科書(各自所有のもの)、WEB資料等で内容確認してください。また、随時だされる課題やワークについて調べた上で報告してください。					
テキスト、 参考文献	_	・スト】文部科学省『高等学校学習指導 ・文献】授業において随時紹介します。	要領解説 地理歴	史編』,世界5	史教科書(各自所有のもの)。	
評価方法	レポー	- ト 75%,提出物 10%,授業への参加度	15%			

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		地理・歴史科教育法Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講	構義概要	ਜ਼ੁ	授業計画		
について考察 能の育成を目 【授業の概要 本講義では	こおける 察すると 目指す。 要】 は、 日本 も せ	5地理教育の目的、内容、方法、課題等とともに、授業実践上基礎的な知識・技ともに、授業実践上基礎的な知識・技工の地理教育史、各国の地理教育の現状ではつけさせるべき見方・考え方・技能	第1回:地理教育の意義と目標 第2回:日本の地理教育の歩み 第3回:諸外国の地理教育 第4回:学習指導要領をよむ 第5回:地理的見方・考え方について 第6回:地図・地球儀の扱い方(1) 地球儀と地図		 (1) 地球儀と地図 (2) 世界地図の特徴と活用 :計画 (1) 自然地理 (2) 人文地理 地域区分とスケール 静態地誌・動態地誌 算(1) ルギー問題 算(2)
到達目標		校地理に関する教育法の基礎的知識、および 術を習得し、さらに、地理の授業のあり方に			,,,
事前・事後 学修の内容		習:高等学校学習指導要領解説地理歴史編を る。事後学習:授業中に課題が提示される。	熟読するとともに、	これに基づい	て書かれた検定済教科書の内容を
テキスト、 参考文献	【テキスト】文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 【参考文献】授業時に示される				
評価方法	授業時	寺に出される小課題(レポート)等を含め総	合的に評価する。		

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ			担当者	會田 康範	
講義目的、講	構義概要	5	授業計画			
歴史研究と思え、を対して、表別に対して、教的に対して、表別に対しないのでは、表別に対して、表別に対し、表別に対して、表別に対して、表別に対し、表別に対して、表別に対して、表別に対して、表別に対して、表別に対して、表別に対して、表別に対して、表別に対して、ま	【授業の到達目標及びテーマ】 歴史研究と歴史教育の歴史的関係や今日的な課題を踏また、教職を志す学生自身がこれからの歴史教育の在り方を注体的に考え、それに基づき、独自に実践的な授業づくりを体験的に学習する。 【授業の概要】 歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育(とりわけ日本史)のあり方を考察し討論することを通ごて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらい		 歴史教育の 歴史教育の 学習指導選手 授業実践選手 授業実践研報指導 教材開発発事 教材開発発事 教材開発等事 教材開発 	2. 歴史教育の目的・内容・方法・教材研究のあり方 3. 学習指導要領と歴史教科書 4. 授業実践事例研究①-系統的通史学習の方法- 5. 授業実践事例研究②-問題解決学習の方法- 6. 授業実践事例研究③-その他の学習方法- 7. 教材研究の方法と工夫 8. 学習指導案の作成方法 9. 教材開発事例発表と討論① 10. 教材開発事例発表と討論② 11. 教材開発事例発表と討論③		
到達目標		校日本史に関する教育法の基礎的知識、およ 導技術を習得し、さらに、日本史の授業のあ				
事前・事後 学修の内容	事後学	₹料を事前に精読しておいてください。 ≄習として講義内容を再確認してください	0		7 M H 11 12 1 1 1 7 0	
テキスト、 参考文献	【テキスト】特定のテキストは使用せず、資料プリントを必要に応じて配布します。高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の 自で用意してください。 【参考文献】中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領					
評価方法	レポー	- ト 50% プレゼンテーション・授業へ	の貢献度 30% 🛚 説	果題提出 20 %		

			担当者	
講義目的、講義概要	5 7	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		公民科教育法 I			担当者	及川 良一
講義目的、講	義概要	Į.	授業	計画		
【講義目的】 公民科教育の意義と課題、中学校・高校社会科及び公民科教育の歴史、社会科・公民科系科目の内容構成と指導上の課題についての理解を深め、公民科各科目の学習指導計画、1単位時間の指導案について事例研究を行い、学習指導計画作成の実践的能力を身に付ける。 【講義概要】 第11回までは講義中心で行う。各科目の授業研究は、サンプル指導案について研究協議の形で行う。		2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	社社社中「「「現公会会会学現倫政行民」・・・公社」・習のは、公公地民会の経指評	的分野の指導 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	歴史①戦前 歴史②戦後 デュラムの内容と構造 算内容と指導上の課題 琴と指導上の課題 野容と指導計画 科の概要	
▍到達目標		教育の歴史的変遷、公民科教育の意義や 調算案や指導計画を策定できるようにする		特徴等と、	学習指導要領	頁に定める指導内容を理解し、
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておく。					
テキスト、 参考文献 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民			扁』			
評価方法	理論編	話まとめテスト 60% 授業研究レポート	20%	定期試験 20	0%	

03 年度以降		公民科教育法Ⅱ			担当者	及川 良一	
講義目的、講義概要 【講義目的】 高等学校学習指導要領公民科の概要、各科目の目標及び内容と取扱いを踏まえ、実際に学習指導案を作成し、模擬授業、模擬授業に関する研究協議を行い、実践的に公民科の指導力の育成をめざす。また、各科目にわたる総則関連事項の内容の取扱いについても理解を深め、授業実践に生かせるようにする。 【講義概要】 第7回までは講義中心で行う。第8回以降、学習指導案の作成を行い、指導案に基づき模擬授業、模擬授業に関する研究協議を行う。			2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 「「「「「「「「「」」」」。 「「」」。 「「」」。 「」。 「」。 「」。	1. 学習指導要領公民科改訂の概要 2. 学習指導案作成の実際 3. 「現代社会」の目標及び内容と取扱い 4. 「倫理」の目標及び内容と取扱い 5. 「政治・経済」の目標及び内容と取扱い 6. 各科目にわたる内容の取扱い① 7. 各科目にわたる内容の取扱い② 8. 学習指導案の作成 9. 「現代社会」の授業研究 模擬授業① 10. 「現代社会」の授業研究 模擬授業② 11. 「倫理」の授業研究 模擬授業② 12. 「倫理」の授業研究 模擬授業② 13. 「政治・経済」の授業研究 模擬授業①			
到達目標		高導案に基づき、授業構成のあり方や具体 最的な指導力を習得し、公民科の教育指導				の方法等、公民科教育に関す	
事前・事後 学修の内容	テキス	トの指定された箇所を事前に精読してお	चे ं				
テキスト、 参考文献	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
評価方法	理論網	aまとめテスト 40% 模擬授業 20% 学	習指導案 200	%	E期試験 20%		

03年度以降		情報科教育法I		担当者	秋本 弘章	
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 【授業の概要】 情報科教育法Iでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も			授業計画			
図る。	学習指	f導要領に定める情報科の指導内容およて	15 情報科教材	研究(7)ネ	形と画像の処理 ットワークシステム 状課題について分析を行い、	
事前・事後学修の内容	事前学	見解を提示できるようにする。 事前学習:高等学校学習指導要領解説情報編を熟読するとともに、これに基づいて書かれた検定済教科書の内容を把握 する。事後学習:授業中に課題が提示される。				
テキスト、 参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか					
評価方法	授業参	☆加度を重視する。授業時に出される小説	課題(レポート) 等	も重要な評価	材料である。	

03年度以降		情報科教育法Ⅱ			担当者	秋本	弘章
講義目的、講	講義概 要	ī	授業詞	十画			
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 【授業の概要】 「情報」 「情報」 「情報」 「情報」 「情報」 「情報」 「情報」 「情報」			門教 所管 智	情報 温指導の かい 音報 指導の かい 音報 指導の かい にいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はい	(施設見学) (現場教員との 教科情報 の実現 と表現 と表現 ンレーシ ル とシュレーシ ズム	学習指導計画 議論)	
到達目標	*******	実践に必要となる学習指導案を作成する に、情報科の教育指導ができるようにで		á導技術を る	習得し、授業	の在り方につい	いて分析を行う
事前・事後 学修の内容	事前学 される	習:学習指導要領を熟読するとともに指導案 。	を書くた	とめの資料等	の収集を行う。	事後学習:授業	中に課題が提示
テキスト、 参考文献	文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか						
評価方法	授業参	加度を重視する。授業時に出される小記	果題(レ	ポート)等も	重要な評価材	材料である。	

12 年度以前 13 年度以降	教科教育法特論 I (社会) 教科教育法特論 I (国際環境経済学科)	用)	担当者	安井 一郎
講義目的、講	靠義概要	授業計画		
・教科博的学権、教育は、教育は、教育など、教育など、教育など、教育など、教育など、教育など、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、教育、	でにおける各教科の指導法に関する学習をさらに発 でにおける各教科の指導法に関する学習をさらに発 に、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学 に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法 を深めることを目的とする。	第2回:クロス 第3回:単元の 第4回:単元の 第5回:単元の 第6回:単元の 第7回:単元の 第8回:単元の 第8回:単元の 第10回:学習指 第10回:学習指 第11回:学習指 第12回:学習	・テトトトトラースの大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の大力の	マ設定の理由、目標を考える える:導入 える:展開前半の内容 える:展開中盤の内容 える:展開後半の内容 える:展開後半の内容 える:まとめ、評価基準 導入の指導計画 :展開中盤の指導計画 :展開中盤の指導計画 :展開後半の指導計画 : 展開後半の指導計画 : まとめの指導計画 : まとめの指導計画
到達目標	中学校教育における教科教育の今日的課題等 えで、教科横断的学習課題に対する学習指導			習指導の在り方を理解したう
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたを持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提		, ., .,	10/04/2017/10/06/7/
テキスト、 参考文献	【テキスト】特になし 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』。 その他は、講義の中で紹介する。			
評価方法	平常点(50%、授業内課題を含む)、レポート	(50%)、総合点	60 点以上合	格。

			担当者		
講義目的、講義概要	E	授業計画			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要	授業計画		
【授業の到達日標及 1. 道徳を大人の 方ので、学習情でである。 方ので、学習指導では、 2. 学習指導では、 学習指導でである。 学習指導ででは、 大人のできる。 大人のできる。 大人のでは、 大人のできる。 大のできる。 大のでを、 大のできる。 大のできる。 大のできる。 大のできる。 大のできる。 大のできる。 大のできる。 大のでを、 大のでを、 大のでを、	第1回:講義の進め方・評価・使用テキスト等に関するガイダンス第2回:道徳教育を振り返って――道徳不振と道徳重視 第3回:道徳教育の歴史(1)戦前の「修身口授」から「修身」まで 第4回:道徳教育の歴史(2)生活主義道徳と特設主義道徳 第5回:道徳教育の歴史(3)道徳教育重視と現状 第6回:道徳教育の理論(1)道徳とは何か 第7回:道徳教育の理論(2)道徳は教えられるか――――――――――――――――――――――――――――――――――――			
▮到莲日碟	教育をめぐる問題状況を踏まえ、学習指導 析し、実践できるようにする。	尊要領に基づく道征	徳教育の目的	、内容、方法について理論的
子的 子区	の授業内容を確認した上で、指定された。 って、本時の授業に臨むこと。授業時に提			
テキスト、 【テキスト】担当教員の指示に従うこと。				
評価方法 平常点 (50%、授業内課題を含む)、試験またはレポート (50%)、総合点 60 点以上合格。				
19 年度以前	送 伝教字の延空			

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員
講義目的、講義概	tg	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以前 13 年度以降				担当者	各担当教員
講義目的、講	義概 要	Ę.	授業計画		
議義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は、特別活動に関する基本的・基礎的な知識と特別活動の在り方や動向に関する知識を修得し、特別活動の特質や本質を踏まえた実践的指導力を育成することを目的とする。 【授業の概要】 特別活動の教育的意義や教育課程上の位置付け、目標と内容、指導計画の作成、指導方法などについて、講義と演習、模擬授業などを通して、現場実践に基づいて学ぶ。		第1回: オリエンテーション 第2回: 特別活動と教育課程 第3回: 特別活動の内容と変遷 第4回: 特別活動の意義と目標 第5回: 特別活動と諸教育指導 第6回: 生徒会活動の目標と内容 第7回: 生徒会活動の指導計画 第8回: 学級活動の指導計画1 (指導計画作成の基礎・基本) 第10回: 学級活動の指導計画2 (指導計画の作成) 第11回: 学級活動の模擬授業 第12回: 学校行事の目標と内容 第13回: 学校行事の指導計画1 (指導計画作成の基礎・基本) 第14回: 学校行事の指導計画1 (指導計画作成の基礎・基本) 第15回: 学校行事の指導計画1 (指導計画作成の基礎・基本) 第15回: 学校行事の指導計画2 (指導計画の作成)			
지수 다 #	学習指		羽容、指導法に関す	ナる基礎的理	論に基づき、よりよい特別活
到達目標	動の指	f導の在り方について分析し、実践できる。	。 ようにする。		
事前・事後	前時の)授業内容を確認した上で、指定されたラ	テキスト・参考書を	がある場合に	は関連箇所を読み、課題意識
学修の内容	を持つ	って、本時の授業に臨むこと。授業時に提	示された課題を適	行し、それを	を次回の授業で提出すること。
テキスト、 参考文献	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説特別活動編』『高等学校学習指導要領』『同解説特別活動編』、その他は、講義の 中で紹介する。				
評価方法	平常点	京(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	。)、総合点 6	0 点以上合格。

12 年度以前 13 年度以降			担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	2	授業計画			
(半期完結科目∂	Dため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03年度以降	教育方法学			担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要		授業計画		
議義日的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 本講義は教育職の重要性を再検討し、学校教師の役割と機能を確認する。また、各自の教育方法に関する基礎を養成するものである。 【授業の概要】 人間の一生は、日常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、インターネットなどのメディアを利用した間接経験、そして言語による理性的・感性的経験を通しての成長過程である。言い換えれば、人間は成熟するまでに非常に長い年月を必要とし、その過程にあっては多くの他者との関わりあいが不可欠である。「蛙の子は蛙」という故事は、人間の成長過程とは非なるものを的確に言い表している。そこには、子どもは他者との様々な相互作用(異なった対応の仕方など)を通して、一人前の人間になっていくというとらえ方がある。教育職は子どもの成長過程に「意図的」に参画す		第1回:プロローグ:概要説明 第2回:コミュニケーションと教育・学習 第3回:教師の役割 第4回:授業を問いかける 第5回:視聴覚メディア 第6回:ビデオ教材による教育現場 第7回:校外専門家による授業 第8回:グループ討論 第9回:授業設計 第10回:測定とは? 第11回:評価とは? 第12回:教育方法のイメージ 第13回:ある高等学校の教育実践ビデオ 第14回:教材研究の意義 第15回:エピローグ:まとめ			
到達目標)構成と展開を中心とする教育方法学の碁 所について見解を提示できるようにする。	I 基礎的理論に基づる	き授業を分析	研究し、よりよい授業実践の
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
テキスト、 参考文献	【テキスト】担当教員の指示に従うこと 【参考文献】文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』、その他は、講義の中で紹介する				
評価方法	平常点	気(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	(a)、総合点 6	0 点以上合格。

03 年度以降	教育方法学		担当者	各担当教員
講義目的、講義概	要	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	生徒指導法		担当者	各担当教員	
講義目的、講義	概要	I.	授業計画		
議義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 生徒理解の教育的意義と具体的な方法について理解を深め、さらに教育活動における生徒指導の基本的なあり方について理解を深め実践的な指導力を身につける。 【授業の概要】 前半は講義中心、後半は事例研究を中心に行う。事例研究を出来るだけ多く行い、具体的な生徒指導のあり方について意見交換を含めて検討していく。		第4回:青年期等 第5回:生徒指 第6回:生徒指 第7回:生徒指 第8回:進路指 第9回:事例研 第10回:事例研 第11回:事例	算は学尊の は学尊のとと・(究の でのとと・・(ののでのでのでででででででででいいでででででででででででででででででででで	際 導組織と指導体制 生徒理解 教育相談 との連携 教育と生徒指導) 導) 題) ・中途退学問題) 喫煙・盗み)	
▮到達目標 │ ̄		導及び教育相談、進路指導に関する基礎 ようにする。	歴的理論に基づき、	実践的な生	徒指導法を分析研究し、実践
* * * - + -	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。				
4 4 4 4 b	【テキスト】文部科学省『生徒指導提要』(教育図書)、その他、担当教員の指示に従うこと。 【参考文献】講義の中で紹介する				
評価方法 平	常点	、(50%、授業内課題を含む)、試験また	はレポート(50%	5)、総合点 6	0点以上合格。

03年度以降	生徒指導法		担当者	各担当教員	
講義目的、講義概要	要	授業計画			
(半期完結科目の	のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

03年度以降		学校カウンセリング		担当者	各担当教員
講義目的、講	冓義概要	ξ.	授業計画		
講義目的、講義概要 【授業の到達目標及びテーマ】 本講義では、カウンセリングの基本的な理論や技法に加え、学校現場で生じる問題の解決のために実際にカウンセリングがどのように用いられているのかについて扱う。学校カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることをこの講義の目標とする。 【授業の概要】 本講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に受講生が考える機会を設		第4回:学校カウン・ 第5回:学校カウン・ 第6回:予防的カウン・ 一構成的グル 第7回:予防的カウン・ 第8回:思春期のウン・ 第9回:学校カウン・ 第11回:学校カウン・ 第12回:学校カウン 第13回:学校カウン 第14回:学校カウン 第16回:学校カウン・ 第16回:学校カウン・ 第17回:学校カウン・ 第18回: 学校カウン・ 第18回: 学校カウン・	学校カウンセリ論の をはいずないでは、 をはいがでする。 ではいかでは、 ではいがでは、 ではいがではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがではいがでは、 ではいがでは、 ではいがではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがでは、 ではいがではいがではいがでは、 ではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいがではいが	アグの特徴 (アリングマインド (ア)ーその他の理論 (ア)・カウンセリングの体験 (ア)・ハじめ (ア(ア)・ : 非行 (ア)・ : 非行 (ア)・ : 保護者との協調	
			7		
到達目標	学校ス	1ウンセリングに関する基礎的理論や技術	去を習得し、適切 が	な相談、支援	ができるようにする。
事前・事後	授業計	十画に示された各課の内容を参考文献を <	らとに事前に学習~	する。事後に	あっては授業内容を参考文献
学修の内容)内容 を踏まえて再度まとめる。また、各教員が授業にて事前・事後学習として個別に指示した課題も含まれる				
テキスト、【テキスト】特になし。					
参考文献	【参考文献】特になし。講義内で適宜、紹介する。				
評価方法	定期試験の結果によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物等も評価対象とする。				

03 年度以降	学校カウンセリング		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以前 13 年度以降	教育実習論(事前・事後 教育実習指導	後指導)		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要	ŧ	受業計画		
(半期完結	科目のため、講義目的等は秋学	集 と同じ)			
到達目標事前・事後					
学修の内容 テキスト、 参考文献					
評価方法					
12 年度以前 13 年度以降	教育実習論(事前・事後 教育実習指導	後指導)		担当者	各担当教員
講義目的、講	義概要	打	受業計画		
【授業の到達目標及びテーマ】 教育実習事前・事後指導 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、 学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業(事前指導)を行い、 教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 【授業の概要】 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、 実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、 具体的に実証する機会である。本講では、教育実習に参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習に参加することによって、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする(事前指導)。また、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理する(事後指導)。 秋学期受講者は、水曜日4・5時限に全体講義を行うため、可能な限り他の授業を登録しないこと。 第1回:教育実習とは何か 第2回:教育実習の概要 第3回:授業研究(1)外国語 第5回:授業研究(2)社会・地歴・公民 第9回:学習指導案の書き方 第9回:学習指導案の作成 第1回:模擬授業(1)外国語 第11回:模擬授業(2)社会・地歴・公民 第12回:教育実習期間中の諸注意 第13回:教育実習期間中の諸注意 第14回:教育実習を振り返る(1)学習指導 第14回:教育実習を振り返る(2)生徒指導 第15回:教育実習を振り返る(3)学級経営					歴・公民 キル 価 地歴・公民 諸注意 る(1)学習指導 る(2)生徒指導
到達目標	教育実習の意義、目的、内容につい アップにより各自の学習課題の整理				
事前・事後 学修の内容	前時の授業内容を確認した上でを持って、本時の授業に臨むこ	、指定されたテキ	キスト・参考書だ	ぶある場合に	は関連箇所を読み、課題意識
テキスト、 参考文献	【テキスト】獨協大学『教育実習の 【参考文献】文部科学省『中学校学		等学校学習指導要領	[]。その他は、	講義の中で紹介する。

平常点 (50%、授業内課題を含む)、試験またはレポート (50%)、総合点 60 点以上合格。

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 II (事後指導) 教職実践演習 (中・高)		担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	要	授業計画		
(半期完結科目の	のため、講義目的等は秋学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
	I			

	習論Ⅱ(事後指導) 桟演習(中・高)			担当者	各担当教員	
職技能を元に、教員としての使質が身についているかどうか確達につなげる契機とする。また多用することで対人能力の確認【授業の概要】主に①これまでの教職課程で習返り、【教員としての使命感・報討論を通してよりよい授業力を身にてよりよい授業力を身にていく。また、授業の多値につくが作業の形態をとり、それを通しし合い、協力しあう」という対目指していく。	得してきた内容と教育実習を振り 教育的愛情】、②現在学校が抱えて 教教員からの講義やロールプレイ、 し、【生徒理解】、③模擬授業を通 ると同時に授業力向上への方途を グループでのディスカッションや て教員として必須な「他の人と話 人関係能力の確認、向上も同時に 時限に全体講義を行うため、可能	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	育修習徒徒習ぐ習学模模模技習のラの①②と野技力を開解経た導指授授授授授とのののののののののののののののののののののののののののののののの	D振り② で D振り返れ で D D D D D D D D D D D D D	8&私に必要なもの 7ク 5教員による講義・小論文) ディスカッション・小論文) 0対応	
到達目標に養成し、実践	と通じて習得した知識や能力、 銭的な教育力を発揮できるよう	こする。				
学修の内容 と。その他フィ テキスト、 『教育実習の打	(事前学修)提示された資料を事前に読んでくること、(事後)講義を振り返り授業レポートを作成すること。その他フィールドワークや発表準備など 『教育実習の指針』(獨協大学)、文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』 その他授業内で指示する。					
CO/配及来F1		価する。				

03 年度以降	学校経営と学校図書館		担当者	井上 靖代	
情報管理や人事 が求められる。 求型学習など創動も求められて て、内容を把握 るようになるこ	概要 書教諭は学校図書館長として、資料管理・ 管理など経営管理者としての役割と仕事 学校図書館を活用し、「総合的な学習」や探 造的な授業を構築する教員集団の支援活 いる。この科目では、これらの役割につい し、その使命を認識し教育現場で実施でき とを学習目的とする。	 学校図書 教育行政 学校図書 学校図書 学校図書 学校図書 		受管理 計管理 事管理 女管理、評価等	
校教育を基礎と として学習セン 料センター、情 ディア・センタ	資料センターとしての機能だけでなく、学して生涯にわたっての自律的な学びの場ターとしての機能がある。さらに視聴覚資報センター、教材開発センター、マルチメーなど多様な面をもっている。学校教育に位置づけられている学校図書館の役割と義する。	館メディアの遺館メディアの遺館メディアの規 館活動と教育活 や「総合的な学	役割と校内の協力体制、研修 ジメディアの選択と管理 ジメディアの提供と活用 活動と教育活動 「総合的な学習」と学校図書館 正協力とネットワーク 運営計画の策定		
▮到達目標 │ ゜	校経営と学校図書館に関する各種の知識・扌 、見解を提示できるようにする。	支能を習得し、	学校図書館の経	営的問題点について分析のう	
710 7K	単元ごとに読むべき文献を指定するが、教育実習あるいは打ち合わせの際に学校図書館を見学しておいてください。学校図書館の HP を探して現状を把握しておいてください。				
テキスト、 参考文献	最初の授業時に参考文献リストを配布する。				
評価方法 授	業参加+授業でのプレゼン(30%)、数度のレ	ポート(40%)、	式験 (30%)		

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

_						
03年度以降		学校図書館メディアの構成			担当者	井上 靖代
講義目的、詞	冓義概要	문	授業計	画		
織化に関する 一にはどし、要 目録を (講義図書義選と (1)資料料が が 変質を として と と して と と と と と と と と で よ の よ の よ り で よ り る り る と し て り る と し て て り る と し る と る と る と る と る と と る と と と と と	一分う一 デ習ど年れ選び蔵で、**・ ア行よ層の力用の力用の力用の	つける講義及び演習を実施するほか、資料組実習中心で、学校図書館メディア・センタ料を所蔵するのか、それをどのように分類・ス化するのかの基本を学ぶ。 ・センターでの資料管理についての以下の分う。 うな資料が授業で活用できるのか、どのようあるいはどのような興味関心を持っている子か、などについて選択理論をおさえ、専門職を身につけることを目的とする。(2)資料組織学校図書館メディア・センターにはどのよか、それをどのように分類・目録化し、デかの基本を学び、実習する。	2. 与 3. 資 4. 資 5. 目 6. 分 7. 分 8. 分 9. 目 10. 目 11. 目 12. 目	学資質日分分分日目目目ス目目校選選出本類類類本銀銀銀化化へとは大変をはいのの一情索館のの分際際際規実実電配報のの	理論、子ども 主実際 (NDC) 一学(NDC) 一学(NCR) の 関際 図図書書テキス ccel 太 との 検索との相	中の種類と特性 らたちの知的自由)の構造 作業→情報検索語の特定 長の活用ー こた分類 の構造 トの資料 スト・ファイルからデータベー ま利用
到達目標	, , , , ,	書館メディア・センターにおける資料の選択: :ど、資料の組織化に関する知識を習得し、適				
事前・事後 学修の内容	単元に	単元に関連するテキストの指定された箇所を必ず読むこと。演習課題ではテキストが必要になりますから 授業開始前に入手しておくこと。				
テキスト、 参考文献	日本図	図書館研究会編『図書館資料の目録と分類	領 増訂	第 5 版』,	2015. 4, 245	p,定価 1, 100 円

演習課題(60%)、最終演習テスト(40%)で評価する。演習形式なので授業参加を重視する。

03 年度以降	学習指導と学校図書館			担当者	井上	靖代	
講義目的、講義	養概 要	<u> </u>	授業計画				
の図話たちょりでは、図話には、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個で	(講義目的) 学習指導における学校図書館のメディア活用についての理解を図る。「総合的な学習」や調べ学習などで、学校図書館の活用が重視されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践することができるように学習していく。 「情報が長期であるというでは、といるでは、別様のは、といるでは、別様のは、といるというでは、対して、といるといるといるでは、対して、といるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると		2. 学校则图 過程索索	、			習 指導 : :(ア・センターを利用す :利用する教育指 用の活動企画
到達目標 1		図書館司書教諭の役割と学校図書館メディ Sれる情報検索活動能力、および、児童・	•	.,.			
事前・事後学修の内容	チーノ	海習が多くなります。教育実習参加者は	 は学校図書館関	連	資料を入手し	 熟読しておいて	こください。
	授業で資料を配布するほか、参考資料として宅間紘一著『学校				書館を活用す	する学び方の指	導 : 課題設定
参考文献力	から発表まで』全国学校図書館協議会、2005ほか、などで			示	する。		
評価方法	数度の演習課題(30%)、授業参加+グループでの報告と発表(40%)、小テスト(30%)				(30%)		

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

03年度以降		読書と豊かな人間性		担当者	井上 靖代		
がら、自分の言うとものから、 子どもの合わせて、リーディングとする授業を相 「読む」「書くを第一段階とて書」している。 (授業の概要)	と言売でいます。	味での読書をいかに子どもたちに楽しみな分自身を表現できるようにするかを実際にら、授業として構築していく。講義と実習る。この科目の目標は、各受講者が「読む」く」(リテラシー)という読書力養成を目的学習者に教授できるようになることにある。と伝える授業案が作成できるようになることの基本として司書教諭となる受講者が「読発点となる。	3. 子どもの発達 4. 読書資料とし 5. 読書資料とし 6. 読書資料とし 7. 読書資料とし 8. 読書指導のた 9. 読者育成のた 10. 「読みて」か	いう識字力・ 心理・読書心 ての絵本 ての児童文学 てのノンフィ てのヤングア めのプログラ めのブックト ら「書きて」	クション ダルト文学 ム企画		
また, どのよっ コーディネー。 っている。この 資料があるのか テラシー教育	大量に読むことではなく、どのように読み解くかを授業で学ぶ。 また、どのように伝えていくかを学ぶ。すべての教員の調整役= コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担 っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書 資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリ テラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役と しての役割と責任を学習する。			 家庭での読書 地域社会や公共図書館との連携による読書振興 子どもの読書と知的自由 子どもの読書をめぐる法政策 まとめ 			
到達目標		r」(リーディング)と「書く」(リテラ 習得し、学習者に対して適切な読書指:			とする授業を構築するための		
事前・事後 学修の内容	定番と	される絵本や子ども向け・10 代向け資	料を読んでくださ	۷١ _°			
テキスト、 参考文献	テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。						
評価方法	授業で	うのプレゼンテーション(40%)、課題(30%	%)、テスト(30%)~	で評価する。	授業での参加度を重視する。		

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
				ı

03年度以降		情報メディアの活用			担当者	福田 求
サービスとしてという。 サービス り中情図が業目利と でいるとのとを がまり 一般ではとりに、でいるが業目利と サーベー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マっきゃ某作い青ナこさ、ま守選ィース、が介誌といの。いす。のは、アイン・大電ミをいいの。いすの、アーラン・大電ミをいい、「まてる」と情報	ト、そしてその上で展開されたさまざまな は量かつ多様な情報がやりとりされたり蓄積 ほ子的な通信メディアや記録メディアによっ ニュニケーションを行っているのである。し ものは電子的なものに限らない。たとえば いった印刷メディアは簡単に思いつくことが どのようなメディアが存在するのだろうか。 「乗り物」であるメディアの体系を理解する また、情報の発信、収集、交換といったメデ で関連するトピック(学校教育/図書館な	 メディアの種類;高度情報社会;学校教育 メディアとコンピュータネットワーク メディアによる情報の発信(1)ウェブの標準技術(H'URI、HTML)を例として メディアによる情報の発信(2)ハイパーテキスト再考 メディアによる情報の交換:コミュニケーションの場のインターネット 前半のまとめ:質疑応答 データベースと情報検索(1):情報収集の例として データベースと情報検索(2):簡単な検索式の作成 インターネットにおける情報の検索 獨協大学図書館を通じて利用できる多様なデータベー育/学習への応用 情報検索以外の情報収集:SNS、RSS など 			
到達目標	用でき	な育で用いられる多様な情報メディアの特でようにする。				
学修の内容	指示された情報源については、次回までに入手/アクセスし、参照しておくこと。 また、前回の授業中で赤や青の文字で示されたキーワードの意味を説明できるように復習しておくこと。					
テキスト、 参考文献	適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。					
評価方法	期末レ	/ポート (50%)。平常授業における課題	レポー	トなどの実	績(50%)。	

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践			担当者	ЩП	友佑
講義目的、講	義概要	授業計	·画			
体験の際に求めることを中心のでは、 者福祉を中心を はます。は、 はまず、 ではず、 現状におます。を 場にでます。そ	職課程の「介護等体験」履修時など、介書 められる知識や援助技術について、理解を 的としています。そこで、高齢者福祉、 に、各分野の福祉について概観した後、な な援助技術について学びを進めていきます。 などを通して、具体的な理解を深めてい 社会福祉に関する基礎的知識、高齢者福祉 福祉の現状について学びます。次に、介書 要となるコミュニケーション技術につい して、地域で暮らす人々の生活を支えるだ きること、また介護現場における問題に	2. 社高高認障障学発コ対傾介 11. 12. 13.	所齢者者の福福では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	歴史ととの とでは 関関を 関連対状連制で では では では では では では では では では で	ついて でについて 一福祉 - 一ででである。 - では、 - では、 - では、 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。 - でもなった。	
到達日標	教職課程における「介護等体験」に必要だ これを実践できるようにする。	な基礎的知識	、及び、技	援助の実践方	法を習得し、介	ト護等の現場で
事前・事後 学修の内容	各講義で話した内容について、次回の講義までに各自で復習をしてください。					
テキスト、 参考文献	テキストは特に指定しません。講義中に適宜、コピーの配布・文献の紹介を行います。					
評価方法	平常点50%(従業への参加度、授業中にま 末試験(またはレポート)50%	果す小レポー	トの提出な	よどを含む)		

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践		担当者	山口 友佑
講義目的、講義概	要	授業計画		
(半期完結科目	のため、講義目的等は春学期と同じ)			
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03 年度以降	日本史概説 I		担当者	會田 康範	
講義目的、講義概		授業計画			
り多角的、多面的 成果を確認する。 え、前近代を素材料にも着目し、そ ために重要と思え 極めて限られた明 って通史的に講 もに、取り上げる	成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。			史―近代歴史学― 史―戦後歴史学と現代歴史学― ニー ラー 王の時代― - と展開― で一 路― 京都― 読み解く―	
▮到達目標 │	を教育諸学校において、社会および歴史の授業を を要的位置づけ、歴史研究や歴史教育の役割や				
7 10	配布資料を事前に精読しておいてください。 また、事後学習として講義内容の要点を確認しておいてください。小テストを実施する場合があります。				
A + +b	特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書 概説書が手元にあれば参考になる。				
評価方法 定期	明試験 70% 小テスト 20% 授業への参加	度 10%			

03 年度以降		日本史概説Ⅱ			担当者	會田	康範
講義目的、講	義概要	ē -	授業計	画			
日本史概説 I に続くこの講義では、近世から近現代を素材としていく。その際、対外関係に重点をおいて考察していくが、その前提となる政治や社会経済についても触れることになる。この講義を通じて、近世社会を経て近・現代日本における国民国家形成の過程とその展開について考えていきたい。			2. 中近 5. 6. 万, 方, 近 近 万, 方, 至 幕 国 国 第 戦 11. 12. 第 14. 戦	世初期の対策 鎖国」政策 世中期の貿 世における。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	易統制 諸学問の発達 代 職 の対外関係 成 としての博覧会 業博覧会の歴5 オリンピック・	 上的意義	
到達日標		育諸学校において、社会および歴史の授業を 史的位置づけ、歴史研究や歴史教育の役割や		,			
事前・事後 学修の内容 また、事後学習として講義内容の要点を確認							
テキスト、特定のテキストは使用せず、参考文献は講義 参考文献 概説書が手元にあれば参考になる。			の中で随	時、紹介	配布する。	高等学校の日本	文字の教科書や
評価方法 定期試験 70% 小テスト 20% 授業への参加			度 10%				

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

<u> </u>						
03年度以降		外国史概説 I		担当者	兼田 信一郎	
講義目的、講	冓義概要	<u> </u>	授業計画			
この講義では、はじめに現代中国の地理的特徴や近年の中国事情・社会問題を概観した後、新石器時代から唐滅亡までの歴史を、政治史・周辺諸民族との関係・農村社会の展開を軸に概観していきます。すなわち、単に新石器時代から唐帝国滅亡までの政治史的展開を概観するだけでなく、この時期の農村社会の成立と展開を見ることで中国社会の一端にふれ、更に東アジア世界という地域的世界の中での日本と中国の位置も考えてみたいと思います。なお、付論として、南宋の裁判史料『清明集』をもとに中国の「訴訟社会」の一面を取り上げます。また、現在の中・高校での歴史教育がかかえている問題点を紹介し、教育職を目指す場合、どのように歴史教育に取り組むことが必要かも考えてみたいと思います。		3. 中華文明の名 4. 最初の記念の 5. 皇帝文配との 6. 皇帝政政民の 8. 少国国では 9. 中田帝田国の会の 10. 唐帝帝田とと 11. 唐帝帝田とと 12. 唐帝代社会の 14. 歴史学研究	況(地誌・野窓 変成郷域と一次の が大変が、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	医動(後漢~西晋時代) 分裂(東晋十六国南北朝時)意義(隋時代) 川支配の特質) 川の崩壊と基層社会の変化 2料『清明集』を通してみる)現在	(1)	
到達目標		育諸学校において、社会および歴史の授業を た世界史教育の意義、異文化理解の複雑性な				学習
事前・事後 学修の内容	後 車前にテキストの指定部分を装むこと 車後として各回のレジュメに掲げた鈴浦問題の解答を作成する					る。
テキスト、 参考文献 堀敏一著『中国通史』(学術文庫)、講談社、2			2000年6月、授美	美中配布のレ:	^ブ ュメ。	
評価方法 授業参加評価 (3割) と筆記試験 (7割) (語句記述、資料問題、論述、持ち込み不可) で評				込み不可) で評価する。		

03年度以降	外国史概説Ⅱ			担当者	久慈 栄志	
講義目的、講郭	機要		授業計画			
考察する。「近代化なる影響を与えた。 16世紀頃からもとより、周辺世野前半は宗教的側面。 テキストは特に通してほしい。 ・ 小川 哲/上 『大学明/佐 『教養のため ・ 服部良久他編出版会)	「近代化」課程を社会・文化・経済・宗教等」の特質とその功罪を検証し、明治以降のわか、という点もあわせて論じたい。 20世紀までの歴史的事象の中から、ヨーロは対してもインパクトが大であった事項を持つら、後半は経済的側面を中心にアプローチに対してもがが、下に掲げた参考文献中、2冊垣豊/山田史郎/杉本淑彦編西洋史(近現代)』(ミネルヴァ書房)藤専次/渋谷 聡/加藤克夫/小澤卓也編の西洋史入門』(ミネルヴァ書房)。 「「人文学への接近法~西洋史を学ぶ~』(京たが歴史と出会うとき』【新版】(名古屋大学	が国にいか ッパ圏内は 取り上げる。 したい。 程度は目を 都大学学術	2. 歴史叙述・歴史理論の変遷(古代〜中世) 3. 同上 4. 歴史叙述・歴史理論の変遷(近代以降) 5. 同上 6. 「近代」の概念について 7. 宗教改革~宗教改革に見る近代性と、インパクトについて 8. 同上 9. 市民革命~英仏両革命の共通性と異質性とは 10. 同上 11. 産業革命~その「魔力」と社会的諸矛盾、社会主義の台頭と 12. 同上 13. 「近代化」総括~その功罪について 14. 帝国主義と世界再分割~経済的矛盾の「武力による打開」 「差別意識」について 15. 帝国主義下における民族意識の台頭			
到達目標	7等教育諸学校において、社会および歴 ・通じた世界史教育の意義、異文化理解					
* * *				のテーマの目	的を理解して授業に臨み、不	
テキスト、 参考文献	・・・・・・ ト記参考文献を参昭のこと また喜校世界史			なども座右に	置くことが望ましい。	
評価方法 定期試験(記述形式、ノート持ち込み不可)			結果によって評価	西するが、授	業への参加度も考慮する。	

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

03年度以降		地理学概説 I		担当者	秋本 弘章
講義目的、講	購義概要	ξ	授業計画		
具体的な事例 校で、地理の 境の見方を身 本講義では 分析する基礎 関東地方の 人々の生活に *講義科目で	利をもとを 対につけませた。 をとしな地で はないである	近な地域の環境を自然地理学の観点から て、まず地形図の利用法を扱う。その後、 理的な特色とその基盤の上に立った	4. 地形図利用の 5. 東京・関東の 6. 東京・関東の 7. 東京・関東の 8. 東京・関東の 9. 東京・関東の 10.東京・関東の 11.東京・関東の 12.東京・関東の	基礎(1)地形 基礎(2)距離 基礎(3)土地 地形形的特色(地形形的的特色(地形形的的特色(地形形的的特色(是) 景候候的的特色(景候候的的特色(会) 气候候炎	図の基礎知識と面積、等高線と地形利用を読む 1)山の手と下町 2)台地 3)荒川と利根川の低地 4)東京湾 5)関東山地 1)気候システムと気候のスケとデータ 2)山地の気候・平野の気候 3)海岸の気候・内陸の気候 4)都市気候と気候の変化 防災(1)
到達目標 中等教育諸学校において、社会および地理の打 識を習得し、解説できるようにする。			受業を行う際に必要	要とされる自	然的事象に関する基本的な知
事前・事後 学修の内容 事後学習:授業で取り上げた以外の事例につい				て深化を図る	0

テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。

テキスト、

参考文献

評価方法

定期試験および課題

03 年度以降		地理学概説Ⅱ		担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要 地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。*中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、文部科学省検定済教科書(地理 B および地図帳)を購入し、自習しておくこと。(授業時には必要に応じて持参する)			12.地理学のトピ 13.地理学のトピ	! (2) ! (3) ! (3) ! 概念 (1) ! ! 概念 (2) ! ! 概念 (3) ! ! 概念 (4) ! ! 概念 (6) ! ! 概念 (7) ! ! 似ククス (2) ! ツクス (3)	景観 場所と立地(1) 場所と立地(2) 場所と立地(3) 地域と空間 云播 メンタルマップ 時間地理学 地理情報システム(1) 地理情報システム(2)
到達目標		女育諸学校において、社会および地理の打得し、解説できるようにする。	受業を行う際に必要	要とされる自	然的事象に関する基本的な知
事前・事後 学修の内容		≦習:高等学校までの地理の内容の習得 ≦習:授業で取り上げた以外の事例につい	ハての学習を通じて	て深化を図る	
テキスト、 参考文献 テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示			こ示される。		
評価方法 定期試験および課題					

03年度以降		地誌学概説 I			担当者	秋本	弘章
講義目的、講	義概要	ī,	授業計画				
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。 *講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。		2. 「地域分 4. 地域分 5. 地域分 6. 地域分 7. 地域分 8. 日本地 9. 日本地 10. 日本地 11. 日本地 12. 日本地 13. 日本地 14. 日本地	」析析析析析誌誌誌誌誌誌誌	基礎 (1) 文 基礎 (2) 級 (3) 級 (4) 型 基 基 基 基 基 1) 全 性 (5 景 で) で は で は で は で と は で と し で と し で と し で と し で と し な と し で と と し な と し で と し で と し で と と と と と も で と し を と し で と し を と し で と し を と し で と し を と し を と し で と し を と し で と し を と し で と し を と と と と	献・資料・統計 を計の利用 を計の地域表現 を間分析 地域構造 を対象と地域 では変容をは 地域変容 (2) を付き 地域変容 地域変容 地域変容 地域変容 は を を を を を を を を を を を を を		
到達目標	地域を	中等教育諸学校において、社会および地理の授業を行う際に必要とされる地域の概念と地域分析法、日本地誌の知識と日本の諸 地域を事例とした地誌学的見方と方法、ならびに、世界地誌の知識と海外の諸地域を事例とした地誌学的見方と方法を習得し、 解説できるようにする。					
子的 子区		空習:高等学校までの地理の内容の修得し 空習:授業で取り上げた以外の事例につい					
テキスト	テキスト、 ニャストは投京したし、 参考立献等は護美山					-	
評価方法	定期詞	、験および課題					

03年度以降		地誌学概説Ⅱ		担当者	秋本 弘章		
位置を占めて たのち、北ア	を対象 いる。 メリカ	とする地誌学は、地理学の中で重要な本講義では、世界の地域構造を概観して(アメリカ合衆国およびカナダ)を事がが、地誌的見方を身につけることを目	 世界の地域 世界の地域 北アメリカ 北アメリカ 北アメリカ 北アメリカ 	構造とその変 構造とその変 構造とその変 構造とその変 地誌(1)ア 地誌(2)自			
			10. 北アメリカ地誌 (5) 産業と経済 (1) 第1次産業 11. 北アメリカ地誌 (6) 産業と経済 (2) 第2次産業 12. 北アメリカ地誌 (7) 産業と経済 (3) 第3次産業 13. 北アメリカ地誌 (8) 産業と経済 (4) 地域構造 14. 北アメリカ地誌 (9) 都市と生活 15. 北アメリカ地誌 (10) 北アメリカと世界				
到達目標	地域を	育諸学校において、社会および地理の授業を行う 事例とした地誌学的見方と方法、ならびに、世界 きるようにする。					
子的 子区	事前・事後 事前学習:高等学校までの地理の内容の修得						
テキスト、 参考文献	・・・・・・ テキストは指定したい 参考文献等は講義中に						
評価方法	評価方法 定期試験および課題						

03年度以降		法律学概説 I			担当者	大川 俊
公法と私法のう 等な私人間(個間も含まれる)の れらの背後に存ます。 買い物をすれ 約が成立する。 様々な形で法律 関係から、現代	学a」ではいいます。 はいなすが、 はいが経れる。 はいが経れる。	では、法律を大きく二つに分類した場合のままに焦点を当てます。私法とは、自由・対だけでなく、企業間、あるいは企業と個人に関係を規律する法の総称です。本講はこ基本的な考え方を理解することを目的としなり立てて意識しなくとも、そこでは売買契たように、我々が日常生活を送る上では、わってきます。本講では、身の回りの法律済社会で主要な役割を果たす企業を取りついて具体的事例を織り交ぜながら解説	7. 8. 9. 10. 11. 12. 13.	ガイダンス 日常生活と 日常生活と 日常生活活と 雇用社会の 雇用社会(1) 家族族とと法(3) 企業とと法(3) 消費者の保	契約(2) アクシデント(1) アクシデント(2) ルール(1) ルール(2))	,
到達目標 中等教育諸学校において、社会および公民の授 (刑事・民事) 裁判の仕組みなど、法と裁判に						
事前・事後 学修の内容 事前・事後に配布レジュメを精読してください			·) ₀			
テキスト、			を中に打	旨示します。		

学期末の筆記試験(100%)により評価します。

03 年度以降		法律学概説Ⅱ			担当者	鈴刀	木 淳一	
講義目的、講義	長概 要	E C	授業計画					
(講義目的) 本講義は、大学に入学したばかりの新入生の皆さんに、専門課程に進む前の予備知識として、国際法と国際関係に関する基礎知識を提供することを目的としています。 (講義の概要) 国際法の対象は広く、様々な専門分野があります。この講義では、これら個々の専門分野を詳述することはせずに、個々の法分野が主に国際公法の観点からどのように分析されるのかを紹介したいと思います。この講義を通じて国際法の様々な分野に興味を持ってもらい、将来それらの専門分野の教員の講義を履修して、勉強を進めてもらうことを希望します。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、オンラインでの資料配布や質問の受付等を個別に行い、教員とのコミュニケーションを図ります。			 国際社会の 国際法のの 国際法とのの 国際法とかい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 国際法かい 	と主法国らららららららら	本原、大学なみないない。本原、大学ないないない。本原、大学ないないない。本のは、大学ないないないない。本のは、大学ないないないないない。本のは、大学ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	国際組織、個。 貫習法、法の一 全宙・南極 章(紛争の平和	一般原則) 和的解決を含 を含む) む)	む)
▮到達目標 │ │		な育諸学校において、社会および公民の 『・民事)裁判の仕組みなど、法と裁判に						稔、
事前・事後 講	葬義ま	でにポルタを通じて資料を配布しますの	ので、あらかじ	か読	えんでくださ	い。講義中に	提示される	「今
学修の内容	のオ	ペイント」を提出し、後日教員の添削・こ	コメントを読んで	で復	[習してくだ	さい。		
4 4 4 4 b						(₹		
参考文献	文献 ネルヴァ書房,2014年)や柳原『国際法』(放送大学教育振興会,2013年)等を参照してください。							
評価方法 学	学期末に実施するテストにより評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。							

03 年度以降 政治学概説 I 担当者 杉田 孝夫

講義目的、講義概要

政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に 異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」の ための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一である とされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共 通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり 遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であ り、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する 深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけ ではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治に ついての教養を身につける必要があると言える。そのような意味 で、政治学は私たち市民の教養の学である。

以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代 政治に対する見通しを得ることを目的とする。

春学期は、民主政治の歴史、国民国家と福祉国家、議院内閣制、 選挙、政党、議会の制度と政治過程を講義する。

授業計画

- 1. 政治とは何か
- 2. 古代の民主政治
- 3. 近代の民主政治
- 4. 自由主義と民主政治
- 5. 国民国家と民主政治
- 6. 民主政治への挑戦
- 7. 民主政治の再定義
- 8. 福祉国家の成立とその構造・福祉国家をめぐる論争
- 9. 議院内閣制と大統領制
- 10. 日本の議院内閣制
- 11. 多数決型民主政治と合意形成型民主政治
- 12. 選挙制度と投票行動
- 13. 日本の選挙
- 14. 議会
- 15. 政党と政党制

到達目標	中等教育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に必要とされる、近現代の政治構造とその特質、 国際政治の政治構造と変容など、政治に関する概括的知識を習得し、解説できるようにする。
事前・事後 学修の内容	講義の前に講義予定の範囲を教科書で予習し、受講後、不明点を調べ、ノートを完成させること
テキスト、 参考文献	テキスト:川出良枝・谷口将起(編)『政治学』東京大学出版会, 2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5
評価方法	学期末試験70% 毎回の確認テスト30%

03 年度以降 政治学概説Ⅱ 担当者 杉田 孝夫

講義目的、講義概要

政治学は古来より支配の学であった。治者と被治者が身分的に 異なっていた時代にあっては、支配身分のための「よき統治」の ための学問であった。しかし治者と被治者が原理的に同一である とされるデモクラシーの時代である現代においては、市民は、共 通の法に従うという意味で被治者でありつつ、共通の法をつくり 遂行していくためのわれわれの代理人たる治者を選ぶ選挙人であ り、政治過程を監視し、評価する政治主体である。政治に対する 深い洞察力が求められるのは、政治家や行政官などの専門家だけ ではない、それ以上に政治社会の構成主体である市民こそ政治に ついての教養を身につける必要があると言える。そのような意味 で、政治学は私たち市民の教養の学である。

以上のような観点から、政治学的見方、概念を身につけ、現代 政治に対する見通しを得ることを目的とする。

秋学期は、政策過程と官僚制、世論とマスメディア、地方自治、 グローバル化、政治参加を講義する。

授業計画

- 1. 戦後日本の政党政治
- 2. 政策過程
- 3. 官僚
- 4. 利益集団
- 5. 世論形成とマスメディア
- 6. 政治とメディアをめぐる諸問題
- 7. 地方自治の制度
- 8. 地方政治の動向
- 9. 主権国家体制
- 10. 国際秩序構想の諸相
- 11. グローバル・イシュー
- 12. 政治参加の理論
- 13. アイデンティティと承認をめぐる政治
- 14. ジェンダーと政治
- 15. 討議による民主政治の重層化

到達目標中等教育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に必要とされる、近現代の政治構造とその特質、国際政治の政治構造と変容など、政治に関する概括的知識を習得し、解説できるようにする。事前・事後学修の内容講義の前に講義予定の範囲を教科書で予習し、受講後、不明点を調べ、ノートを完成させることテキスト、参考文献テキスト:川出良枝・谷口将起(編)『政治学』東京大学出版会,2012 年. ISBN: 978-4-13—32219-5評価方法学期末試験 7 0 % 毎回の確認テスト 3 0 %

03 年度以降	│ │ 社会学概説 I	担当者	 岡村 幸子
03 年度以降	[社云子既就 I	担ヨ有	岡州 王子

講義目的、講義概要

私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者 other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。

授業計画

- 1. イントロダクション
- 2. 社会学的視座とは
- 3. 社会学の歴史(1)—-A.コント、H.スペンサー
- 4. 社会学の歴史 (2) E.デュルケム
- 5. 社会学の歴史(3) M.ウェーバー
- 6. 社会の類型(1) ――コミュニティとアソシエーション
- 7. 社会の類型 (2) ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
- 8. 社会の類型(3) ――第一次集団
- 9. Identity形成と社会(1)——鏡に映った自己
- 10. Identity形成と社会(2) 重要な他者
- 11. Identity形成と社会(3) マージナル・マン
- 12. Identity形成と社会 (4) ——未定
- 13. 補完的アイデンティティについて
- 14. 他者と自己の社会学
- 15. まとめ

到達目標	「社会学」という学問が成立した経緯をふまえて、社会学的な分析の仕方、社会集団の類型やアイデンティティ形成の
判连口保	メカニズム等を理解し、多文化社会における自己と他者について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	身分証明書以外に、私たちはどのようにして自分が自分であることを証明するか考えておく。
テキスト、	G.ジンメル『社会学の根本問題(個人と社会)』世界思想社、E.デュルケム『自殺論』中央公論社
参考文献	M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、 $G.H.$ ミード『社会的自我』恒星社厚生閣
評価方法	授業への積極性(小レポートや提出物) 50%、期末試験 50%

 03 年度以降
 社会学概説 II
 担当者
 岡村 圭子

講義目的、講義概要

わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。

本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。

授業計画

- 1. イントロダクション
- 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム
- 3. 同調様式の3類型——D.リースマン
- 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ
- 5. 同心円地帯説——E.バージェス
- 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク
- 7. 予言の自己成就——R.K.マートン
- 8. 誇示的消費——T.ヴェブレン
- 9. 認知的不協和の理論——L.フェスティンガー
- 10. 文化的再生産——P.ブルデュー
- 11. コンフルエント・ラブ—A.ギデンズ
- 12. 現代社会と社会学(1)情報技術とメディア
- 13. 現代社会と社会学(2) グローバル化
- 14. 現代社会と社会学(3) ローカル化
- 15. まとめ

到達目標	社会学の学説をふまえて、近代社会が抱える問題や、多文化の共生を視野に入れながら、現代の日本社会
习是占你	が直面する課題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	グローバル化がもたらす光と影について考えておく。
テキスト、	E.フロム『自由からの逃走』東京創元社、D.リースマン『孤独な群集』みすず書房
参考文献	A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか
評価方法	授業への積極性 (小レポートや提出物) 50%、 期末試験 50%

03年度以降		哲学概説I			担当者	河口 伸	
講義目的、講	冓義概望	중	授業計画				
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識			 1 哲学とは何か(1) 2 ソクラテス以前 3 " 4 ソクラテス 5 プラトン 6 " 7 アリストテレス 8 " 				
しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。			9 スコラ哲学 10 <i>"</i> 11 科学革命 12 <i>"</i>				
到達目標		女育諸学校において、社会および公民の授業 思を形成した動機や課題、歴史的位置付けな					
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出 して下さい。						
テキスト、 参考文献		プリント資料配布 (実費 300 円) 文献は随時紹介する。					
評価方法	レポート点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)						

03年度以降		哲学概説Ⅱ		担当者	河口 伸			
講義目的、講	購義概要	5	授業計画					
(春学期に同じ) 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。			9 " 10 フッサー 11 "	念論 ール・マルクン ル・ハイデック ンシュタイン	ス・ニーチェ ザー・ヤスパース			
到達目標		で育諸学校において、社会および公民の授業 まを形成した動機や課題、歴史的位置付けな						
事前・事後 学修の内容								
テキスト、 参考文献	プリント資料配布 (実費 300 円) 文献は随時紹介する。							
評価方法		- ト点を試験の点に加算 ま2 / 3 以上必要)						

03 年度以降 倫理学概説 I 担当者 松丸 壽雄

講義目的、講義概要

西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、 倫理学の全体像を概説する。

教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようにする。同時に他者に自分の考を伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方で言語表現が出来るようになる基礎を得る。

この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。

授業計画

- 1. 概要説明
- 2. 西洋古代の倫理1
- 3. 西洋古代の倫理 2
- 4. 徳を原理とする倫理と現代問題 1 (discussion)
- 5. 徳を原理とする倫理と現代問題 2 (discussion)
- 6. 東洋古代の倫理1
- 7. 東洋古代の倫理2
- 8. 儒教的性善説と現代問題 1 (discussion)
- 9. 儒教的性善説と現代問題 2 (discussion)
- 10. 西洋近代の倫理
- 11. 西洋・東洋近代の倫理
- 12. 東洋近代の倫理
- 13. 功利主義的倫理と現代問題 1 (discussion)
- 14. 功利主義的倫理と現代問題 2 (discussion)
- 15. 春学期のまとめ

到達目標	中等教育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に必要とされる倫理学の全般的知識、社会や人生における基礎的・基
判连口际	本的な事柄に関する考え方を生徒に理解させるための言語表現力を習得し、倫理を説くことができるようにする。
事前・事後	前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。
学修の内容	授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。
テキスト、 参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%

 03 年度以降
 倫理学概説 II
 担当者
 松丸 壽雄

講義目的、講義概要

西洋倫理学を中心として、東洋倫理学にも触れながら、 倫理学の全体像を概説する。

教職科目でもあるため、倫理学全般に関する知識の取得も目指す。それ故に、西洋及び東洋の主要な倫理学史に触れることにする。同時に、現代社会や人生上における諸問題に触れて、それを論議し検討する。機会に応じて、グループ・ディスカッションを行い、各グループの結果を全体会で発表、再議論するだろう。このことを通じて、実践的経験および知識を得ることができるようにする。同時に他者に自分の考を伝えることがディスカッションでは必要であり、これを通して倫理の基本を高校生などにも理解可能な仕方で言語表現が出来るようになる基礎を得る。

この授業の到達目標は、倫理学史の全般的知識を得ること、その知識を実践的に現代の倫理的諸問題に応用できること、卒業後に将来的生き方を把握できる基礎を得ることである。

授業計画

- 1. 概要
- 2. カント・ヘーゲルの倫理1
- 3. カント・ヘーゲルの倫理 2
- 4. Kant, Hegel 的道徳原理と現代問題 1 (discussion)
- 5. Kant, Hegel 的道徳原理と現代問題 2 (discussion)
- 6. 和辻哲郎の倫理
- 7. 東洋近現代の倫理
- 8. 東洋近現代倫理と現代問題 1 (discussion)
- 9. 東洋近現代倫理と現代問題 2 (discussion)
- 10. 生命倫理
- 11. 医療倫理
- 12. 技術倫理
- 13. 現代の倫理的諸問題 1 (discussion)
- 14. 現代の倫理的諸問題 2 (discussion)
- 15. 秋学期のまとめ

到達目標中等教育諸学校において、社会および公民の授業を行う際に必要とされる倫理学の全般的知識、社会や人生における基礎的・基本的な事柄に関する考え方を生徒に理解させるための言語表現力を習得し、倫理を説くことができるようにする。事前・事後学修の内容前以て手渡されたハンドアウトを事前に精読して下さい。
授業中に紹介された参考文献を事前に精読しておいて下さい。テキスト、参考文献授業中に適宜指示する。評価方法レポート 60%、授業中の発表・ディスカッションへの参加度 30%、授業への参加度 10%

03年度以降		宗教学概説 I		担当者	河口 伸			
講義目的、講	冓義概要	<u> </u>	授業計画					
戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。 そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。 更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。 春学期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。			1 宗教とは何か (1) 2 神話と宗教 3 ユダヤ教 (1) 4 ユダヤ教 (2) 5 キリスト教 (1) 6 キリスト教 (3) 8 キリスト教 (4) 9 イスラム教 (1) 10 イスラム教 (2) 11 イスラム教 (3) 12 イスラム教 (4) 13 ヒンドゥ教 (1) 14 ヒンドゥ教 (2) 15 ヒンドゥ教 (3)					
到達目標		育諸学校において、社会および公民の授業を 現在、宗教団体や宗教教育の問題点など、宗			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
事前・事後 学修の内容								
テキスト、 参考文献	『世界	『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫 文献は随時紹介する						
評価方法		- ト点を試験の点に加算 は2/3以上必要)						

03年度以降		宗教学概説Ⅱ		担当者	河口 伸			
講義目的、講郭	養概要	E C	授業計画					
講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。			1 仏教(1) 2 仏教(2) 3 仏教(3) 4 仏教(4) 5 儒教(1) 6 儒教(2) 7 道教(1) 8 道教(2) 9 日本の宗教の歴史と現在(1) 10 日本の宗教の歴史と現在(2) 11 日本の宗教の歴史と現在(3) 12 宗教団体の諸問題(1) 13 宗教団体の諸問題(2) 14 学校教育と宗教 15 宗教とは何か(2)					
到達目標	歴史と	現在、宗教団体や宗教教育の問題点など、宗	を行う際に必要とされる、宗教学の成り立ちや学問的性格、諸宗教の 宗教学に関する概括的知識を習得し、解説できるようにする。					
学体 6 士中		、トの指定された箇所を事前に精読して≯ ∵さい。	おいてください。また、毎回出されるレポートを次回に提出					
A + +b	『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 ちくま文庫 文献は随時紹介する							
▮評価方法		- ト点を試験の点に加算 ま2/3以上必要)						

03年度以降	心理学概説 I				担当者	田口	雅徳	
講義目的、講義概要 本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。 その後、性格の形成、ストレス、心の健康とカウンセリン がなどのテーマについて、心理学的研究に基づく調査や実 験のデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的に				授業計画				
本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的に とらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心 理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間 の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。			7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.					
到達目標)授業を行う際に必要とされる心理学 P人間の行動を心理学的視点で捉えて	//-			* *	军し、社会の諸	
事前・事後 学修の内容					, -0 , 5,,,			
テキスト、 参考文献	テキス	テキストは使用しない。事前事後学習用の参考文献については授業にて適宜提示する。						
評価方法	授業における小レポート (20%) と試験 (80%) により総合的に評価する。							

03 年度以降		心理学概説Ⅱ		担当者	田口	雅徳	
講義目的、講義概要 受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを 実践してもらう。これらの学習を通して、心理学の基本的 知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して 自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理 検査やグループワークを実践した後には、結果をレポート にまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを 書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(2000円)を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申 請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用 紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入 方法について説明するので欠席しないこと。			授業計画1. 心理検査とは?2. 心理検査の種類と理論3. 質問紙による性格検査①(Y-G)4. 質問紙による性格検査②(Y-G)5. ストレス・コーピング6. 絵からみる家族像7. 知能検査8. EQS9. 職業興味10. 性格5因子11. TEG12. グループ・ワークによる自己理解①13. グループ・ワークによる自己理解②14. テスト・バッテリーに基づく自己理解15. まとめ				
到達目標	問題々)授業を行う際に必要とされる心理学の反 ・人間の行動を心理学的視点で捉えて分析	「し、見解を提示	できるように	する。		
***		で扱う心理検査について、その背景理論な こて授業で指示した課題をおこないレポー			あっては、心理	世検査の結果を	
テキスト、 参考文献	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう						
評価方法		た心理検査の結果をレポートにまとめて のレポート内容を総合し、最終の評価を		(50%)。また、	最終レポート	を課す(50%)。	

13年度以降	東洋史 I			担当者	熊谷 哲也		
講義目的、講義概要 (講義目標) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴 史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置 き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 (講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にい たる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識 も学ぶ。 なお、毎回出席をとる。			 打スラームの基本事項について説明する。 イスラーム教の誕生以前の世界について。 預言者ムハンマド (マホメット) の出現と、時代背景。 最初の4人のカリフ (正統カリフ) の時代について。 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 アッパース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 イスラーム教の聖典コーラン、預言者の言行録であるハディースとその解釈。 アッパース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 アッパース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開。 マムルーク朝について。とくにイクター制が西ヨーロッパの封建制と比較される点。 同 その2 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 同 その2 歴史にみられるイスラーム教徒の生活と社会。 まとめ 				
到達目標		・ユーラシア大陸に存する国家や地域の fし、解説できるようにする。	の成立過程を、政治	台、経済、社	会、文化の特徴などをふまえ		
事前・事後学修の内容	事前に自分の興味や疑問点をまとめておき、事後に内容を整理しておくこと。						
テキスト、 参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。						
評価方法	レポー	- トの評価(70%)と平常点(30%)。レ	ポートの表紙は授	業で配布する	るので注意すること。		

13 年度以降	東洋史Ⅱ	担当者	熊谷	哲也		
ードであるが、その することはとてもっ を目標とする。	国要 の国際情勢を読むための主要なキーワの鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解 大切である。皆さんの視野が広がること	授業計画 1. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3. 「西洋の衝撃」によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4. さまざまなイスラーム改革運動について考える。 5. パレスチナ問題とエジプトの近代化について。				
(講義概要) イスラーム世界のえする。今日イスラーいても、理解が深めなお、毎回出席を	 6. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、バン・イスラミズムを理解する。 7. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8. 知識人階層であるウラマー、イスラーム法、宗教的寄進(ワクフ)などと近代化との関係について検討する。 9. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10. 20世紀のイスラーム世界について考える。 11. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 12. 同その2 13. 同その3 14. 今日のイスラーム主義の主張と展開。 15. まとめ 					
到達日標	ア・ユーラシア大陸に存する国家や地域の 所し、解説できるようにする。	L D成立過程を、政治	台、経済、社	会、文化の特徴	ななどをふまえ	
事前・事後 学修の内容 事前 (こ自分の興味や疑問点をまとめておき、『	事後に内容を整理し	しておくこと	0		
テキスト、 参考文献	とくにさだめない。授業で指示する。					
評価方法 レポー	ートの評価(70%)と平常点(30%)。レ	パートの表紙は授	業で配布する	るので注意する	こと。	

13 年度以降		東洋史I			担当者	張	士陽	
講義目的、講	購義概要	Ē	授業計	十画				
講義目的、講義概要 この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その形成の背景となる中国近代史について講義します。 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。			2.	ア南太青回洋開門で、 で京平朝民の軍場と ででででいる。 でででいる。 でででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。	配との 東成と 第一 東成と 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一 第一)滅亡		
到達目標		'・ユーラシア大陸に存する国家や地域の 「し、解説できるようにする。	の成立過	過程を、政 済	台、経済、社	会、文化の特征	数などをふまえ	
事前・事後 学修の内容 教科書の指定された箇所を事前に精読してお				いてください。				
テキスト、 参考文献		昔:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19⇒考文献:授業中に紹介。	中華帝	国の危機』	(中公文庫 S	22-19) 中央公	公論新社, 2008	

平常点 10%, 授業への参加度 10%, 期末試験 80%

13 年度以降		東洋史Ⅱ		担当者	張士陽		
講義目的、詞	構義概要	-	授業計画				
り深くでは するでは では では では では では では では では では	すらから動き世な変史云るし敗時なをど紀っ化で統ちま北代る横り後さまば目	によって清朝体制の存続は危機的に陥 に伝統の創造により中国の変革を目指し 変革を求めて「革命」を選んだ人々など 対し、また地方自治改革と地域社会の対 ます。 どになって「纏足」が問題として認識さ 過程について検討し、近代中国の女性の 理解します。 政治経済の短期的変動に関心が向きが 国社会の特質の変容と再編という点も視	2. 朝鮮さる。 3. 朝鮮清 5. 台変は 6. 変戊ウ 7. 戊戌ウ 9. 義執和 11. 清天年 12. 天命約 14. 光緒	 朝鮮をめぐる日中関係(1) 朝鮮をめぐる日中関係(2) 日清戦争 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 変法改革 戊戌の政変 キリスト教布教と仇教運動 			
到達目標		ア・ユーラシア大陸に存する国家や地域の 行し、解説できるようにする。	 	、政	冶、経済、社	会、文化の特徴などをふまえ	
事前・事後 学修の内容	教科書	書の指定された箇所を事前に精読しておい	いてください	` o			
テキスト、 参考文献		書:並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 学考文献:授業中に紹介。	中華帝国の危機』(中公文庫S22-19)中央公論新社,2008				
評価方法	平常点	豆 10%,授業への参加度 10%,期末試験	₹80%				

13年度以降	西洋史 I					上村	敏郎	
講義目的、講義	概要		授業計	授業計画				
【講義目的】 本講義は「歴史学とはどのような学問なのか」について、ヨーロッパ史を例にして概観し、歴史学の方法と対象、叙述スタイルについて理解を深めるとともに、現代においてなぜ歴史を学ぶ必要があるのかについて考えていく。 【講義概要】 最初に、古代ギリシアの歴史家へロドトスから実証史学の立役者ランケを経て、社会史を唱えたアナール学派、20世紀後半以来歴史学の中心を占めるようになった文化史に至るまでの歴史学の歴史を簡単に紹介する。そして、いくつかの代表的な歴史研究の事例を挙げながら、歴史学の方法と対象について理解を深める。 *本授業計画はあくまでも予定であり、変更の可能性がある正確な授業予定については初回ガイダンスで配布する。				歴史学ののののののを要とまた。歴史史学ののを歴史とまた。歴史史学ののををとまた。といる。といるは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	歴史 (I) 歴史 (II) 歴史 (III) 無理 (III) 無理 (III) 集 法 と と と と と と と と と と と と と と 対 対 象 象 (IV と と 大 法 と と と が ま と と が ま (IV と と が ま) に と と が ま (IV と が ま) に と が ま (IV と が ま) に と が ま (IV と が ま) に い た に い た に い た に い た に い た に い た に い た に い た に い た に い に い	E史学への挑戦 Lい歴史学:文化	- - - - - - - - - - - - - -	
▮到達目標		メリカ大陸に存する国家や 説できるようにする。	地域の成立	過程を、『	汝治、経済、	社会、文化の特	持徴などをふま	
7111 712					教科書の特にヨーロッパ史を扱った箇所を読み直すこと。 自分の関心に応じて実際に手にとって読んでみてください。			
テキスト、 参考文献 講義の中で適宜指示する。								
評価方法 平	常授業での調	題(50%)、期末試験(50	%)、詳細に	 t授業ガイ	ダンスで説明]する。		

13 年度以降		西洋史Ⅱ			担当者	上村 敏郎	
講義目的、講義	養概要	Ę	授業計画				
史におけるフック	リパアソが秘秘るあり、糸窓をまり	こおける陰謀論」について、ヨーロッパメイソンの歴史を例にして、理解を深 歴史と文化について考えていく。 歴史家へルムート・ラインアルターの D歴史と思想』(2016 年刊行予定)をテ フィクション作品でしばしば陰謀論の 古社フリーメイソンの歴史的展開につ が結社にも触れながら、概観していく。 でも予定であり、変更の可能性がある っては初回ガイダンスで配布する。	第2回 第34回 第56回 第78回 第10回 第110回 第112回 第113回	フフフフフスそそそフフ歴リーーーーーー ほほほほーーにメメメ メメかかか メメお	イソンの イソンの を サ イソンの を を サ イソンの を を は く イソンの を く イソンの を く イソンの を く く イソンの を く く イソンの を く く く く く く く く く く く く く く く く く く	(I) (II)) 薔薇十字団 I) イルミナーテン II) ドイツ・ユニオン V) カルボナリ 倫 (I)	
到達目標		ッパ・アメリカ大陸に存する国家や地域 析し、解説できるようにする。	成の成立i	過程を、呼	汝治、経済、	社会、文化の特徴などをふま	
事前・事後 学修の内容	テキス	トの指定された箇所を事前に精読してお	おいてく7	ださい。			
4 + + + h		ト:ヘルムート・ラインアルター『フ! :献:講義の中で適宜指示する。	リーメイソンの歴史と文化』三和書籍、2016 年				
評価方法	平常授	・ 業での課題(50%)、期末試験(50%)、	詳細は	授業ガイ	ダンスで説明	ける。	

13年度以降		西洋	έ史 Ι							担当者	佐藤		唯行
講義目的、講義概要						授業計画							
春学期前半には近現代の日本に対して、資本導入、技術移転、学術指導、法制定等を通して多大な恩恵を及ぼした米・英を中心とするユダヤ系の働きかけについて学ぶ。ユダヤ人と日本人の著名人が力を合わせて偉業を成し遂げる心温まるgood storyを中心に授業は進められる。ユダヤ人史と日本史、異質な情報が交錯するスリリングなおもしろさに満ちていることを約束しよう。後半ではユダヤ系が超大国アメリカの地で、パワー・エリートに成りあがる以前、中世から現代の英国で負け犬として「下積み」をすごした自体を概観する。				し。遂ダも・エ	8. 9. 10. 11. 12. 13.	日本人では 明治の 日本系憲 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の	ネヤリニストラックでは、コーストラーストラーストラーストラーストラースを関係をある。これのでは、コーストラーでは、コーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーストラーでは、コーでは、コーでは、コーでは、コーでは、コーでは、コーでは、コーでは、コ	国、日本 の恩師 八郎の師弟コン 人とユダヤの は は放 1290~1656 国 【易とユダヤ人	会・恩問	う。 ご 師			
到洋日標			・アメ 解説で				や地域	【の成	立過程を、	政治、経済、	社会、文化の特	寺往	数などをふま
W 15 - 1 -								复読して下さ					
テキスト、 佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』日新報道 15 年 参考文献 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』(1995 年講談社選書)													
= # 1m /z : /z			-			i、教科書排 式験のみに			•				

13 年度以降		西洋史Ⅱ		担当者	佐藤 唯行		
紛争。 公平な仲介 し、パレスチ く。	、出口 者を治ナ・イ	同の見えないパレスチナ・イスラエルの 寅じられぬアメリカの国内事情を分析 スラエル側の問題点も明らかにしてゆ 、ヤ系の「下積み時代」における苦難の 、。	 在米イスララ 共和党支持の ヒスパニック キリスト教シラ 新パレスチ統 欧州極右とこり 自動儀式ペリカにま アメリカにま 	7 リカック (1)	スト教福音派 名福音派の宣教活動 E力団体 派教会 ック・マイノリティ 一の急接近 スニック・コンフリクト 一ドの反ユダヤ・キャンペーン 紀アメリカで復活 マ主義		
		ιッパ・アメリカ大陸に存する国家や地域 >析し解説できるようにする。	えの成立過程を、呼	汝治、経済、	社会、文化の特徴などをふま		
W 15 - 1 	テキス い。	トの指定された箇所を事前に精読してお	おいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さ				
		行『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのが 行著『アメリカのユダヤ人迫害史』(2000 年	つか』(電子書籍版:ダイヤモンド社)、1280 円 E 集英社新書)740 円				
1 2半1曲 万 法		tクイズ形式による筆記試験(12 択 20 問 tとらない。]) によってのみ?	央定する。試	験はテキストの持ち込み可。		

13 年度以降		地理学 I		担当者	秋本 弘章	
の居住環境が のかという視点 と地理的見方・ ず、地理学にお で、人間の活動 自然環境にもと	う人点・お動と	をおける時にわたるが、本講義では、人間ことってどのような意義をもっているの、世界の地理を概観し、地理的な知識と方を身につけることを目的とする。まち主要な概念や方法を説明する。その上ば台である自然環境について学習する。いて地域区分を行い、地域ごとに自然的なげられている人々の生活様式を説明	授業計画 1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素(1) 地球の特質 4 環境の諸要素(2) 地形環境 5 環境の諸要素(3) 気候環境 6 環境の諸要素(4) 植生と土壌 生態系 7 熱帯地域(1) 一自然的特質と伝統的農業 8 熱帯地域(2) 一アジアの稲作 9 熱帯地域(3) 一熱帯の開発と問題(1) 10 熱帯地域(4) 一熱帯の開発と問題(2) 11 砂漠地域(1) 一自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域(2) 一イスラムの世界 13 砂漠地域(3) 一石油資源と近代化 14 砂漠地域(4) 一アラブとイスラエル 15 まとめ			
		て、世界の環境問題について、具体的な 地球的視点から検討する。				
剁達片標		うな知識と地理的見方・考え方を習得し、 視点から、世界の地理を概観のうえ、角		•	のような意義をもっているか	
* * * * * *		地域の自然・人文・社会について高校レイ なから読み解く。	ドルの内容を復習	する。今日の	その地域のニュースを地理的	
テキスト、 参考文献	授業中	でで示す				
評価方法 欠	評価方法 定期考査					

13年度以降	地理学Ⅱ			担当者	秋本 弘章		
の居住環境が、のかという視点と地理的見方・ず、地理学におで、人間の活動自然環境にもと基盤とそこではする。まとめと	の内容は多岐にわたる 人間にとってどのよ 気から、世界の地理を ・考え方を身につける おける主要な概念や方 めの舞台である自然環 こづいて地域区分を行 繰り広げられている	が、本講義では、人間 うな意義をもっている 概観し、地理的な知識 ことを目的とする。 その上 法を説明する。 その上 境について学習する。 い、地域ごとに自然的 人々の生活様式を説明 題について、具体的な 討する。	2 温帯地域(4 温帯地域(5 温帯地域(6 温帯地域(7 温帯地域(7 温帯地域(8 冷帯地域・ 9 冷帯地域・ 10 山世界の環環境 11 世界の環境 13 世界の環境	4) 温帯混交 5) 北米の温 6) 北米の温 7) そのほか 寒帯地域 問題(1) 人 問題(2) 食	A A A A A 本 本 地域(アジア) 品 帯 地域(1) 品 帯 地域(2) かの 温 帯 地域 (2) かの 温 帯 地域 (2) か の 温 帯 地域 (2) か の に は の に に の に に に に に に に に に に に に に		
到達日標		見方・考え方を習得し、 の地理を概観のうえ、て			のような意義をもっているか		
W 15 - 1 -							
テキスト、 参考文献	受業中に示す						
評価方法	 三期考査						

13 年度以降		地理学 I		担当者	北﨑 幸之助		
講義目的、講	義概 要	탄	授業計画				
いは日本を「自然環境や文めることを目理的な見方・源と貿易、そいて考察して	「地理!V に化とす し 考 し く く こ く 。	は多岐にわたる。本講義では、世界ある と」の視点からとらえていく。各地域の いった諸分野について、知識・理解を深 する。まず、世界の諸地域を概観し、地 更を身につけるとともに、人口問題、資 都市と農村のつながりなどの各分野につ なお、履修に際しては、地球環境問題 のある意欲的な学生を希望する。	2. 世界の読み 3. 世界の読み 4. 世界の読み 5. 世界の読み 6. 世界の読み 7. 世界の読み 8. 日本の大者 10. 日本の大者 11. 日本の大者	本方(2) 大方(3) 大方(4) 大方(5) 大方(6) 大 大(6) 大(6) 大(6) 大(6) 大(6) 大(6) 大(6)	成と空間を見る眼 界地図の錯覚 空環境から見た世界 界の経済と貿易 可と農村の地理 本の地図を読む 更京と首都圏 夏核構造の近畿圏 多核的産業都市・中京 、都市圏の回廊地域 見点(1)		
到達目標		りな知識と地理的見方・考え方を習得し、 う視点から、世界の地理を概観のうえ、解	居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているか 解説できるようにする。				
事前・事後 学修の内容		ストの指定された箇所を事前に精読してお 理解を深めてください。	おいてください。講義後は配布されたプリントの内容につい				
テキスト、 参考文献	青木芽	モー・北村嘉行『世界を読む 改訂版』((原書房、2005年)				
評価方法	定期記	弍験 75 %、レポートの内容・授業での発	言等 25%				

13 年度以降		地理学Ⅱ		担当者	北﨑 幸之助	
いは日本を「対 自然環境や文化 めることを目的 の諸地域につい して、近年重要	内容は地化的い要性が	は多岐にわたる。本講義では、世界ある と」の視点からとらえていく。各地域のいった諸分野について、知識・理解を深る。まず、日本の諸地域、そして世界 それぞれの地域的特色を考察する。そが増す地球環境問題について詳しくみて に際しては、地球環境問題に対して高い	授業計画			
		会学生を希望する。 会学生を希望する。	8. 世界の諸地域 (4) アクリガ・四アシア 9. 世界の諸地域 (5) ヨーロッパ・ロシア 10. 地球環境問題 (1) 生態系と人間活動 11. 地球環境問題 (2) 自然環境の破壊 12. 地球環境問題 (3) 環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題 (4) 今後の方向性 14. まとめ (1) 15. まとめ (2)			
■到達目標		」な知識と地理的見方・考え方を習得し、 視点から、世界の地理を概観のうえ、で			のような意義をもっているか	
子15 子区		トの指定された箇所を事前に精読して# 2解を深めてください。	おいてください。	講義後は配布	されたプリントの内容につい	
テキスト、 参考文献						
評価方法	定期討	、験 75 %、レポートの内容・授業での発	言等 25%			

13 年度以降 地誌学 I		担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要 フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考えると共に、フランスの理念について考える。フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度の体系(2)、およびその一般原則と特例(3~4)について学ぶ。さらに、制度の成立の経緯と変化(5~13)に関して、旧体制時代の地方(プロヴァンス)を基本的に否定する地方制度として誕生した近代の県(デパルトマン)、ならびに広域地方として誕生した現代のレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。さらに、日本の市町村に対応する基礎的自治体としてのコミューヌの実情およびその合併と連合を通して、身近な地域の枠組みのあり方について考える。	 プロヴァンス プロヴァンス プロヴァンス レジオンの記 中間のまとと 基礎自治体に コミューヌの まとめ 	みスカスス 延 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	D県へ(2) スューヌ 計(1) 計(2) 計(3)
到達目標 地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得 え、解説できるようにする。	し、特定の地域や	♥都市の構造	とその変容を把握・分析のう

到達目標	地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得し、特定の地域や都市の構造とその変容を把握・分析のう
判连口际	え、解説できるようにする。
事前・事後	事前に日本についての予備知識を得ておくと、講義で学ぶフランスの地域および地方についての理解が
学修の内容	深まる。事後には、フランスの国と地方のあり方とその根底にある考え方について自ら考察を続けること。
テキスト、 参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。
評価方法	試験またはレポートの結果によって評価する。
_	

13年度以降		地誌学Ⅱ			担当者	鈴木隆		
講義目的、講義概要 フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐる問題について考える。 講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。まず、現代フランス社会における若者の意識を他国の若者の意識との比較しながら捉え、その背景について考える。 次に、フランスの都市郊外部(バンリウ)などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の実情、およびその是正に向けた「都市政策」の取り組みを通して、現代フランンスの地域社会について学ぶ。また、フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアシオンすなわち非営利団体の制度と実態について学び、その可能性について考える。				投業計画				
到達目標		その知識と地誌学的な見方・考え方を習行 ないできるようにする。	导し、	特定の地域や	や都市の構造	とその変容を把握・分析のう		
事前・事後 学修の内容		7に日本における雇用、教育、生活環境だ 講義の理解が深まる。事後には、講義で				, ,		
テキスト、 参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。							
評価方法	試験またはレポートの結果によって評価する。							

13 年度以降 地誌学 I 担当者 犬井 正

講義目的、講義概要

本講義では地域差が自然環境と経済環境、および社会環境と文化環境がどのように関連して生み出されてきたのかを、地理学・地誌学の視点から地域生態システムとして明らかにする。まず、環境の諸要素を概観し、特に気候・植生の特色、成因、構造について学習する。その後、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式をスライド、VTRを用いながら説明する。基本的には、そのような資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となる。

授業計画

- 1. オリエンテーションー講義の概要
- 2. 地域生態論とは-地理学と地誌学
- 3. 環境の諸要素(1)気候環境
- 4. 環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温
- 5. 環境の諸要素(3)植生
- 6. 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式
- 7. 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題
- 8. 熱帯地域(3)熱帯林の保全
- 沙漠地域(1)自然的特色
- 10. 沙漠地域(2)文化的特色と伝統的経済活動
- 11. 沙漠地域(2)石油資源と近代化、沙漠の開発
- 12. 亜寒帯森林地域(1)タイガの自然と生活
- 13. 亜寒帯森林地域(2)タイガの森林開発
- 14. 亜寒帯森林地域(3)タイガの地下資源開発
- 15. 講義のまとめ-自然生態系と社会生態系

到達目標	地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得し、特定の地域や都市の構造とその変容を把握・分析のう
	え、解説できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。
テキスト、 参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
評価方法	定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対象とする。

 13 年度以降
 地誌学Ⅱ

 担当者
 大井 正

講義目的、講義概要

「地域生態論 a 」に続いて、「地域生態論 b 」では人間 社会をシステム概念を用いて捉え、地形の成因、構造、人 間生活とのかかわりを学習し、山地地域、地中海森林地域、 温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の 舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の 生活様式を説明し自然生態系と社会生態系の枠組みを理 解する。

授業の際にスライド、VTRを用いながら説明する。基本的には、そのような資源の適正利用に関わる持続性は、地域の生態的基盤と経済的基盤、および社会的基盤の相互関係からなるフレームワークで捉えることが可能となる。地域における資源や環境の持続的な利用の仕組みを明らかにするためには、それらの資源の存在形態や存在意義を的確に捉える必要がある。

授業計画

- 1. オリエンテーション-講義の概要
- 2. 環境の諸要素-地形環境
- 3. 山地地域(1) 山地の自然環境
- 4. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業
- 5. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化
- 6. 地中海森林地域の特性
- 7. 地中海地域の生活様式-西欧文化の原点
- 8. 温帯草原地域の自然特性
- 9. 温帯草原地域の開発と環境問題
- 10. 温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性
- 11. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大
- 12. 温帯混合林地域(3) 産業の発展と都市問題
- 13. 世界の環境問題-地球環境問題の諸相
- 14. 世界の環境問題-環境破壊と保全
- 15. 講義のまとめ-持続可能な生活様式

到達目標	地誌学の知識と地誌学的な見方・考え方を習得し、特定の地域や都市の構造とその変容を把握・分析のう			
到達日保 え、解説できるようにする。				
事前・事後 学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。			
テキスト、 参考文献	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房			
評価方法	定期試験の結果に(80%)によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績(20%)も評価対			
計巡刀法	象とする。			

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

13 年度以降		地誌学Ⅱ		担当者	浦部	浩之	
講義目的、詞	冓義概要	E C	授業計画				
講義目的、講義概要 地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1(約 12 億人)は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策(教育・保健・福祉)を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。今日の新興国の成長は、国際関係構図をいかに変えつつあるのか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。			2. (2 3. (3 4. (4 5. 南の開発(1 6. (2 7. (3 8. (4 9. 資源問題(1 10. (2 11. (3 12. 新しい争点 13.	2. (2): 貧困と環境破壊 3. (3): 持続可能な開発の模索 4. (4): 地球温暖化問題と南北関係 5. 南の開発(1): 第三世界の独立と開発援助戦略 6. (2): ナショナリズムと格差の拡大 7. (3): 貧困と「人間開発」 8. (4): 国連の新しい開発戦略 9. 資源問題(1): 世界の食糧問題 10. (2): 水問題と砂漠化問題 11. (3): 人口増加とエネルギー問題 12. 新しい争点(1): 自然災害と防災 13. (2): 核拡散と原子力利用			
到達目標		≥の知識と地誌学的な見方・考え方を習得 解説できるようにする。	- 身し、特定の地域 ³	や都市の構造	とその変容を批	型握・分析のう	
事前・事後 学修の内容	授業郊	効果を高めるための課題(基本事項の事前	確認や文献の講読)について毎[回指示する。		
テキスト、 参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。						
評価方法	期末診	弍験で評価(これに授業への参加状況を加 り	味する場合がある),			

13年度以降	国際法 I				担当者	一之瀬 高博
講義目的、講	講義目的、講義概要					
[講義目的] 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 「講義概要] 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、国際法規範の構造、国際法主体としての国家、国家責任、外交関係法、海洋法などをとりあげる。			11 12 13 14	国際法におり 国家承認とす 国家責任の 国家責任の 外交関係法 外交関権を 国家領域と	在形態のようでは、 一般では、 一を、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、 一をは、	
到達目標	国際法	その意義や基本的な考え方を正確に理解し	_、個別	別の事象につ	いて見解を	Fすことができるようにする。
710 FX						
テキスト、 参考文献	テキスト:横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年					
評価方法		は験の成績(70%)により評価し、平常⅓ ∵する。	受業で	の課題レポー	ート・小テス	トなどの成果 (30%) も評価

13年度以降		国際法Ⅱ		担当者	一之瀬 高博		
講義目的、詞	冓義概要	5	授業計画				
法がどのよう 〔講義概要〕 国際法が、 ちで発展して る紛争が、	基礎的知 うに機能 国際を つつある 集団安全	口識を学ぶとともに、国際社会において としているかを考察する。 社会のさまざまな分野にどのようなかた らのかを概観するとともに、そこに生じ 全保障や裁判を通じてどのように解決が いいて考察する。	1 講義の概要 2 国際法と戦争の違法化国連の集団安全保障 3 国連の集団安全保障 4 国連のもとでの武力行使に関する諸問題 5 平和的紛争解決と仲裁裁判 6 国際司法裁判所 7 国際機構・国際連合 8 国際機構の構造				
到達目標		たに関する特定の事例、重要な判例、学記 こうにする。	説を正確に理解し、	、個別の事象	について見解を示すことがで		
事前・事後 学修の内容		、トの指定された箇所を事前に精読してネ ¤の指示に従い、復習や課題作業を行うこ	0				
テキスト、 参考文献	テキスト:横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年						
評価方法		式験の成績(70%)により評価し、平常技 ≃する。	受業での課題レポ	ート・小テス	トなどの成果 (30%) も評価		

13 年度以降	英語通訳				担当者	渡部 富栄	
講義目的、講義	概引	5	授業記	计画			
簡単な逐次通訳 講義概要: まの要素を考察 を進ずで、のはます。 を進ずでで、のでで、のでで、のでで、のでで、のでで、のでで、のでで、のでで、ので、ので	議目的:通訳とその訓練法を概説し、実際の演習により単な逐次通訳ができることを目指します。 議概要:まず、通訳の歴史、通訳研究で明らかにされてた通訳者の役割、倫理規定の変化などを把握し、良い通の要素を考察します。 その上で、通訳訓練法の概要を学び、逐次通訳の演習へ進めます。通訳サービスを受けるユーザーへの対応(ユザー教育)もあわせて考察します。 毎回の授業の最初に、5分程度のボイストレーニングをいます。呼吸法、無声化やアーティキュレーションなど、瞭で聞きやすい発声(通訳に必要)が自然にできるよう		2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	 通訳の歴史 通訳研究の変遷 通訳者の役割 通訳者の倫理規定とその変遷 通訳の質:良い通訳の要素 通訳訓練法① リプロダクション、シャドーイング 通訳訓練法② サイトトランスレーション、区切聞き 同時通訳 逐次通訳① 短文の逐次通訳演習 逐次通訳② ノートテーキングの方法 逐次通訳③ ノートをとりながらの逐次通訳演習 			
到達目標 英	語道	通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキ	トルを習	習得し、英詞	語通訳ができ	るようにする。	
事前・事後 学修の内容	予習復習をしっかりしてください。						
テキスト、 参考文献	- 上授辛田にフリントを配布します						
評価方法 授	平価方法 授業中のテスト (30%)、授業中の発表 (30%)、レポートなどの提出物 (20%)、積極的な取り組み (20%)						

13 年度以降	英語通訳	担当者	渡部 富栄				
講義目的、講義概要	要	授業計画	授業計画				
(半期完結科目∉	のため、講義目的等は春学期と同じ)						
到達目標							
事前・事後 学修の内容							
テキスト、 参考文献							
評価方法							

13 年度以降		社会経済史 a			担当者	菅原 正子
講義目的、講義概要				十画		
日本の平安時代から戦国時代にかけて(11~16世紀)、 荘園は朝廷・公家・大寺社・幕府等の重要な経済的基盤であり、朝廷(天皇家)も幕府(将軍家)も基本的には荘園からの収入で運営されていました。この講義では、中世の荘園と「家」の経済との関係を中心に話します。 具体的には、朝廷の内蔵寮(天皇の装束・食料等を調進した官庁)の長官である内蔵頭を世襲した山科家の場合を主に取り上げ、荘園のしくみと経営、荘民たち、「家」の家族と家僕、内蔵頭の職掌である装束調進、内蔵寮に関わる商人や織手職人の活動などから、中世の「家」と社会の経済のあり方について検討します。			2. 3. 5. 5. 6. 17. 5. 6. 19. 10. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11	荘民たちの地 注風 は園 は園 ない ない は は は は は は は は は は は は は	立とる 都自方「関皇手しとは諸 郊活園」と東京所装たた田田 を 大き の で の で の で の で の で の で の で の で の で の	含 こよる所領再編
到達目標 歴	歴史学	生的観点から、社会と経済の関連性・関係	系性につ	ついて分析し		示できるようにする。
子的 子区						
() -t- 1 -t-h	参考文献:菅原正子『中世公家の経済と文化』(吉川弘文館、1998年)、同『中世の武家と公家の「家」』 (吉川弘文館、2007年)。そのほか授業でその都度紹介します。					
評価方法 定	定期詞	は験 90%、授業への参加度 10%				

13 年度以降		社会経済史 b			担当者	菅原 正子
講義目的、講	義概要	<u>.</u>	授業計画	Ī		
日本の戦国時代(16世紀)には、各地で戦国大名が中央政府からなかば独立した領国を形成して支配していました。この講義では、彼らがどのようにして領国を形成して彼らの「家」と領国を運営していたのかをみていきます。領国の運営のあり方は、その領国の大名や地域的事情などによって異なっていました。この講義では、戦国大名の北条氏と武田氏の領国について取り上げ、経済面に重点を置いて検討し、両者の領国支配の違いについても明らかにします。		2. 戦国 3. 北约 4. 北约 5. 北约 6. 北约 7. 小国 8. 武国 10. 武国 11. 戦国 12. 武国 13. 川口	条条条田田田田国田中田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	領族『制政落一法税撰訟戦学国と小一令城族典制銭制 問名原 と『一令度と『一令度と『一令度と別のできまる。 おいいい おいいい おいいい おいいい はいいい はいいい はいいいい はいいいい はいいいい おいいい はいいいい はいいいい はいいいい はいいい はいいい はいいいい はいいいいい はいいいいい はいいいいいい	· · · · · · · · · · · · · ·	
到達目標	歴史学	的観点から、社会と経済の関連性・関係	系性につい	で分析し	し、見解を提	示できるようにする。
7111 7 IX		は、戦国時代の時代的位置づけ(中世界	末期)、関東	東・甲信	越のおおまか	な地図、小田原・甲府等の何
110 1112	学修の内容 置を確認しておいてください。			ブラⅡ。	2000年)	此斗份六短『东短寺四层大/
テキスト、 参考文献:永原慶二『戦国時代』(上)(下)(小会 参考文献 すべて』(新人物往来社、2008年)。そのほか			学館ライブラリー、2000年)、柴辻俊六編『新編武田信玄の 授業でその都度紹介します。			
評価方法	定期詞	験 90%、授業への参加度 10%				

13 年度以降		社会思想史 a		担当者	市川 達人
講義目的、詞	冓義概劽	2	授業計画		
を支配していいます。 を支配していいます。 ものにどる。 前期という 「社会」を対います。 ないます。 ないまする。 ないます。 ないます。 ないます。 ないます。 ないます。 ないます。 ないまする。 ないます。 ないまする。 ないまする。	い 講人と 関学 改元 を こ に 近 後 じ を 的 革 る れ つ と 市	たちの政治や経済に関する見方・考え方代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史は通年で完結する形をとる。 リアリティを失ってきたかにみえる「社なめて分析してみることから始め、そのこ対象化する動きがはじまったルネッサの時期を取り上げる。キリスト教的な世いはその変革のなかで、新しい価値観やが成される時代である。ながる問題意識として、「国家というまというまとまり」への二重の視点が生また向けたい。	1. 授業の狙いに 2. 「社会」は 4. ルネッサリリと 5. マキャベリアと 6. マキャベピアモス 8. トサーのの 10. ルターのの 11. ルターのの 11. ルターのの 12. カルヴィー主権 13. カルヴィー主権 15. まとめー 15. まとめー	うの思想書では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	で代文化 デア』 E王国説、後期スコラ学派 想 エートス
到達目標	,	☆社会思想家や各種の社会思想について理 ごする。	理解し、人生観、†	世界観を養い	、社会を批判的に洞察できる
事前・事後 学修の内容	テキス	ストを使わない講義ですから、ノートをき	きちんととり復習る	をすることが	大事です。

テキストは使いません。参考文献は適宜紹介します。

期末の定期試験で評価します。

テキスト、

参考文献

評価方法

13 年度以降		社会思想史 b		担当者	市川 達人
講義目的、講	講義概 要	5	授業計画		
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。		5. 社会をめぐる 6. 個人を守るこ 7. 個人を守るこ 8. 文明化という 9. 風土と社会… 10. 個人と社会の 11. 個人と社会の 12. 社会は自然に	想の源泉 近代的転回 自然と作為(2 自然と作為(2 と(1)…ロック と(2)…ロック 課題…フラン つ一体化(2)… ご発生する(2) なる(1)…社会	一の権力論ルソーの歴史認識ルソーのデモクラシー…ヒュームの自然法批判…スミスの市場社会秩序主義の思想	
到達目標		☆社会思想家や各種の社会思想について理 こする。	 理解し、人生観、†	世界観を養い	、社会を批判的に洞察できる
事前・事後 学修の内容	テキス	ストを使わない講義ですから、ノートをき	きちんととり復習る	 をすることが	大事です。
テキスト、 参考文献	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
評価方法	期末の)定期試験で評価します。			
					

13 年度以降		社会思想史 a		担当者	松丸	壽雄
講義目的、講	講義概要		授業計画			
触れながら、の受けない。 がいではない。 をはないでは、はないでは、はないでは、は、はいでは、は、はいではでは、はないでは、はないでは、はないでは、できますが、は、はいいでは、できますが、は、はいいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	、特、ら伝、反の 達得東日有自の統行省主 目、洋々のら行的動すに 標知のの、の動き決るイ は識古	生きている我々は、さまざまな文化に 行動を決定している。だが、それぞれ 慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を 行動決定をしている場合が多い。この 決定の基盤となる、固有の文化圏、固 考え方と現在の考え方を反省的に捉え 定に際して、自分が育まれてきた文化 きっかけにする。 ンド・中国における諸思想を扱うこと 、古代・中世の東洋思想の全般的な基 獲得のための調査研究の方法の自覚お 代中世の思想的文化的遺産の活用とそ	1. (インド) アウス・ウンド) ウウス・ウンド) ウウス・イインド) ウウ原 (イインド) カウ原 (イインド) 原原 (イインド) 原原 (イインド) 原原 (イインド) 飛ぶ子子の (イインド) 和孔子の (11. (中中国国) ・・中間 (12. (中中代15. 古代15.	パパパ始始とと他 パパパ始始とと他 シシシ教教 教語語古古古 ヤマッ と II代代代 思東洋 ドドド	哲学の思想 哲学の思想 哲学の 事態を もの思想 もの思想 は 国国思想 は と め は は は は は は は は り の ま り の 思 り の 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思 思	
到達目標	主要なように	社会思想家や各種の社会思想について する。	理解し、人生観、	世界観を養い	、社会を批判的	に洞察できる
事前・事後 学修の内容						
テキスト、 参考文献	授業中	に参考文献を、その都度、テーマに即	したものを紹介する			
評価方法	平価方法 レポート 70%、授業への積極的貢献(発言と質問)10%、授業への参加度 20%					

13 年度以降		社会思想史 b		担当者	松丸 壽雄
講義目的、講	義概望	<u> </u>	授業計画		
触れながら、 の文化圏に特得 受けなが、自らの 有の地域の伝統 て顕在化し、名 圏の思想を反称 近世と近る。 本講義の到達 基礎知	日有自の統行省イ を得東、タのら行的動すン 標気の	生きている我々は、さまざまな文化に り行動を決定している。だが、それぞれ 慣習的な考え方に、知らぬ間に影響を り行動決定をしている場合が多い。この め決定の基盤となる、固有の文化圏、固 考え方と現在の考え方を反省的に捉え 決定に際して、自分が育まれてきた文化 るきっかけにする。 ※・中国・日本における諸思想を扱うこ は、近世・近代の東洋思想の全般的な 口識獲得のための調査研究の方法の自覚 り古代中世の思想的文化的遺産の活用と	1. (インド) 仏 仏 2. (インド) 仏 仏 4. (インド) 仏 仏 4. (インド) 仏 仏 5. (インド) 保 5. (インド) 宋 7. (中国) 宋 字 9. (中国国) 宋 11. (中国国) 12. (中国国) 12. (中国国) 14. (甲本) 15. 東洋思想	教哲学学(記一 教哲哲学学(中報) · II(程程) · II(程程) · II(程) · II(年) · III(年) · III) · III(年) · III(年) · III(年) · III) · III(年) · II(年) · II(年	- 切有部)II - 切有部と経量部) 現派) 強派) さめ) 渠) 学) 思の関係 思
到達目標		∢社会思想家や各種の社会思想について₹ こする。	 里解し、人生観、†	世界観を養い	、社会を批判的に洞察できる
710 71X		て手渡されたハンドアウトを事前に精読し 中に紹介された参考文献を事前に精読して			
テキスト、 参考文献	授業中に参考文献を、その都度、テーマに即したものを紹介する。				
評価方法	評価方法 レポート 70%、授業への積極的貢献(発言と			への参加度 2	20%

13 年度以降		外国経済史 a		担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要 現代経済の起点であるイギリス産業革命を対象とし、その特徴と問題点を多面的に考察する。 (注意事項) ①最新のシラバスを第1回の授業で配布するので、履修希望者は必ず出席すること。 ②出席は第1回より毎回取る。欠席が4回になると単位は認定されない。 ③試験は定期試験期間中に持ち込み無し、論述問題で行う。 ④評価方法は、2年生、3年生、4年生ともに共通である。 ⑤この授業は、a,bの順番で履修することを前提としている。			「提条件(1)イ (2)イ 場制生産の 近 近 近 で で で で で で で が で が で が で が が が が	ギリス農業の発展 ギリス家内工業の発展 出現 道の出現	
到達目標	を提示	&済の歴史について専門知識を習得し、∮ ₹できるようにする。 ぶ紹介した参考文献を読む。	外国経済の成長過 種	怪やその要因	等について分析のうえ、見解
学修の内容	************************************				
	欠席が	、4回以内であることと、定期試験成績60	点以上の両方の条	件を満たする	ことが単位認定の条件である。

13年度以降		外国経済史 b		担当者	御園生 眞	
講義目的、講義概要 イギリスに遅れて産業革命を展開した後発国の事例としてドイツを取り上げ、ドイツ産業革命の特徴と問題点をイギリスと比較しつつ考察する。 (注意事項) 春学期に同じ。		2. 序論(続)3. 産業革命前夜4. 産業革命の前5. (同上)	でのドイツ経済 が記録条件の形成 が記録条件の形成 での展開(1) での展開(2) でのと産業技術 でのと鉄道業	戊(1)プロイセン改革 戊(2)ドイツ関税同盟の成立 綿工業 製鉄業		
到達目標		経済の歴史について専門知識を習得し、タラックを含めるようにする。	ト国経済の成長過程	呈やその要因	等について分析のうえ、見解	
事前・事後 学修の内容	春学其	春学期に同じ。				
テキスト、 参考文献	春学其	月に同じ。				
評価方法	春学其	月に同じ。				

13 年度以降		経済学史 a			担当者	黒木 亮
講義目的、講	靠義概 要	E C	授業計	画		
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論 への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が 実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察す ることにある。 講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた17世紀の経済思想 から19世紀末の経済思想までを通覧する。		2. 3. 4-5. 6. 7. 8-9. 10. 11. 12-13.	ロフア市ジトデ大セジ功力資とというというというないでは、シースをしまれた。これでは、シースル・主ル・主がないがある。	ニュート・市場 フ・ケス・ホー・ フ・ケス・ス の仕組 ン・ ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・		
到達目標		どの形成過程を追体験することで経済理語 ・、時代的文脈について分析し、見解を扱		.,		実際に取り組んだ問題や社会
事前・事後 学修の内容	・・・ 毎回授業終「時に帰布するブリントや次回の》			講義箇所の指摘等による、テキストの復習および予習		
テキスト、 高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学 参考文献 根井雅弘『経済学の歴史』講談社.			学出版会.			
評価方法	レポー	- ト・期末試験のいずれか、ないし両方。				

13 年度以降	経済学史 b		担当者	黒木 亮
講義目的、講義概	既要	授業計画		
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論 への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が 実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察す ることにある。 講義の概要 19世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、その将 来を基礎づけるであろう今日の経済思想までを通覧する。		2. グスタフ 3. カール・ 4-5. ジェヴォ 6-7. アルフレ 8-9. ソーステ 大量生産 10-11. ヨゼフ・ 企業者の 11-12. ジョン・ 貨幣経済 13-14. ケインズ 新旧ケイ	・シュモラー: メンガー:主衛 ンズとワルランッド・マーショイン・貴消費社会 シュンペーター 創造的破壊がタイナード・グ メイナーに分析 以降の経済学 ンジアン、ポン	会の制度分析 - 生み出すダイナミクス
到達目標 ̄ ̄゜	等学の形成過程を追体験することで経済理語 「景、時代的文脈について分析し、見解をも			実際に取り組んだ問題や社会
事前・事後 学修の内容 毎回	田授業終了時に配布するプリントや次回の記録	構義箇所の指摘等	による、テキ	ストの復習および予習
A + + + b	引男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大≒ け雅弘『経済学の歴史』講談社.	学出版会.		
評価方法	ペート・期末試験のいずれか、ないし両方。			

13 年度以降		日本国憲法		担当者	加藤 一彦
講義目的、講	講義概 要	5	授業計画		
センスを磨く あてる。 問題意識を <講義概要> 憲法概念か 人権侵犯事件 勉強する。最 <受講生への	門講義を たたって いた は き いた に で し に で の の 望 る は き る に る り る り る り る り る り る り る り る り る り	を行う。「教師」にとって不可欠な人権 講義の多くを人権に関する判例分析に 「講義に参加されたい。 この判例)をもとに、日本の人権状況を 「講義で「講義予定表」を配布する。	 六法の使 人権総論 憲法制定 法の下の 精神的自 精神的自 	平等 由/信教の自E 由/政教分離 由/学問の自E 由/表現の自E 由/表現の自E 生存権(1) 生存権(2)	自 自 自(1)
到達目標	日本国うにす	国憲法の入門的知識(人権に関する知識) 「る。	を習得し、基本	ぶ的人権の尊重	に関して見解を提示できるよ
事前・事後 学修の内容	事前:	当該箇所の教科書通読。事後:「憲法ノ	一卜」作成。		
4 4 4 4 b		- 彦『教職教養憲法 15 話 [改訂 3 版]』(: 引六法(出版社は問わない)	北樹出版)、柏崎	・加藤編著『	新憲法判例特選』(敬文堂)
評価方法	定期記				

13年度以降	日本国憲法		担当者	加藤 一彦	
講義目的、講義概要	授業計画	授業計画			
(半期完結科目)	のため、講義目的等は春学期と同じ)				
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					

			担当者	
講義目的、講義概要	ī	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

13年度以降	日本国憲法		担当者	野口健格		
講義目的、講義概	我要	授業計画				
あることをを見りていることをも見していることが題をいるうる諸いるうのでは、それでは、おいいでは、おいいでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	ず始めに、一人一人が自らも法の対象で、法に対する正しい認識が持てるようにである。現代社会では、集団的自衛権に関 こめ一般市民が憲法に関わる頻度も高まられる。憲法、そして政治に対して適切にできるようにすることをも目標とする。義では、受講生の日常生活に存在する憲とで、憲法を身近に感じることである。履修者が、正義・衡平・権利・義平等などの憲法的価値を理解し、具体的法的検討を加えることができる能力を養・出版社は問わない(ただし最新のものを出版社は問わない(ただし最新のものを	1. ガイダンス一法と常識、法の価値、法とは何か? 2. 正義の実現と法的安定性 3. 権利と義務 4. 三大原理(人権尊重主義、国民主権主義、平和主義) 5. 基本原理(権力分立主義、法治主義と法の支配) 6. 人権の重要性一人間の尊厳とは? 7. 自由で平等な社会は実現可能か? 8. 天皇制一 9. 憲法9条、自衛隊、国防と平和主義 10. 立法一ルールは国民の代表がつくるもの 11. 行政一総理大臣と大統領の違いとは? 12. 司法一人を裁くということはどういうことか? 13. 地方自治一市民として何ができるか? 14. 憲法改正一護憲?改憲?決めるのは国民! 15. まとめ (授業計画はあくまで目安である)				
▍ 到達目標 │	「国憲法の入門的知識(人権に関する知識) こする。	を習得し、基本的	的人権の尊重	に関して見解を提示できるよ		
7 133 7 12	教科書の該当箇所をよく読み、実社会で起こる様々な問題に目を向けるようにすること。「事前」もしくは 「事後」であることは問わない。					
テキスト、 参考文献	【テキスト】: 齋藤康輝・高畑英一郎編著『Next 教科書シリーズ 憲法』(弘文堂、2013 年)					
評価方法		基本的には学期末試験によって評価する。ただし、小テストやレポートを実施する場合(20%程度)、これらも加味する。				

13 年度以降	コンピュータ入門 a			担	当者	各担当教員	
講義目的、講	購義概要	ī c	授業計画				
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでの調査研究において必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。コンピュータの単なる操作ではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。毎回のレポート提出は、ポータルサイトを利用する。なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。			 OSとタ検オー イ情ワレポ数に数数のののののののののののののののののののののののののののののののののの	インターネットの基礎 情報検索の基礎と応用 ワードプロセッサの機能 レポート作成のための項目と簡単なレポート作成 関数を使った計算基礎(合計、平均、標準偏差、相対 参照 と絶対参照) 関数を使った計算応用(IF 関数、AND、OR) 関数の応用(VLOOKUP、IF 関数との組み合 わせ) ・データの再集計(ピボットテーブル) ・データの並び替えと目的データの抽出、操作の記録			
到達目標	一般的	りなコンピュータ知識、および、操作方法	生を習得し、学	智等を行	う際に	活用できるようにする。	
事前・事後 学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。また、毎回レポートを PorTa に提出すること。						
テキスト、 参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 BP社、2016						
評価方法	レポー	- ト-50%(毎回のレポートも含む)、試験	₹-50%				

13年度以降	ユンピュータ入門 b				担当者	各担当教員	
講義目的、詞	冓義概團	Ę		授業計画			
正の講義では、経済学部で学ぶ上で役に立つ表計算の関数について学ぶとともに、経済・経営に関連するプログラミングの基本について学ぶとともに、Web 対応の実際にプログラムを作成する。 表計算ソフトは、数式や関数により計算を行うことや得られたデータをグラフ化するだけではなく、より複雑なデータ分析や処理に利用することが可能である。またコンピュータを利用することで、複雑な数式を記述することなく処理を行い、結果をグラフィカルに確認することが可能となる。本講義ではさまざまな例題を用いて、表計算ソフトによりデータ分析を行う方法を学ぶ。大量のデータに対して同様の処理をくり返す際には、表計算ソフトでの操作を記録して利用するマクロ機能が有効となる。この講義では操作を記録するだけでなく、操作内容を追加して記述し、データ処理を効率的に行う方法についても学ぶ。		 複利計算とローン返済計画 年金の積み立て 利子率の計算(ソルバー、What-if 分析) データの特徴を抽出する(移動平均、ヒストグラム、回帰分析) 効率的な作業配分 限られた資源の有効活用(線形計画法) Webページの仕組み 簡単な HTML ファイルの作成 画像の表示とリンクの設定 JavaScript と単純なプログラム作成 JavaScript の繰り返しプログラム作成 JavaScript 場合分けプログラム作成 JavaScript の時間関数を使う JavaScript の関数を 2 つ以上作成する Webページの公開とインターネット利用上の注意点 					
到達目標	一般的	内なコンピュータ知識、	、および、操作方法	去を習得し	、学習等	等を行う際に	活用できるようにする。
事前・事後 学修の内容	テキストで指定された箇所を事前に精読すること。また、毎回レポートを PorTa に提出すること。						
テキスト、 参考文献	立田ルミ編著、今福啓、堀江郁美『大学で必要な情報基礎』日経 BP社、2016						
評価方法	レポー	レポート-50%(毎回のレポートを含む)、試験-50%					

			担当者	
講義目的、講義概要	<u> </u>	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				
	I			
11 年度以前 12 年度以降	生涯学習概論 生涯学習概論		担当者	阪本 陽子

講義目的、講義概要 授業計画 私たちは、その成長・発達に応じて、人間として学ぶべき課題を持っています。また、少子高齢化、都市化、国際というでは、2.人間の形成・発達と学習を					
 化など、社会の様々な変化に対応した学習が絶えず求められています。生涯学習は、私たちの教育や学習に対する考え方を大きく転換させ、現代社会のなかで重要な意味を持っています。 本講義では、生涯学習に関する基本的な考え方を学ぶとともに、生涯学習社会における家庭教育、学校教育、社会教育の在り方や、現代社会と生涯学習の関わりについて考えます。 受講生の人数にもよりますが、講義形式だけでなく、様々な学習方法を体験する演習を取り込みながら進めていきます。 受講生の人数にもよりますが、講義形式だけでなく、様々な学習方法を体験する演習を取り込みながら進めていきます。 生涯学習施設の機能と役割 生涯学習施設の機能と役割 生涯学習行政の現状と課題 まとめ 					
到達目標 生涯学習に関する基本的な考えを理解し、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育のあり や、現代社会と生涯学習の関わりについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。	り方				
事前・事後 学修の内容 学修の内容 学修の内容 学修の内容 ず配布する資料を熟読し、次回で自分の考えを述べられるように準備してください。	授業				
テキスト、 テキストは使用しません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで全体に関わる参参考文献 文献を紹介する他、授業中にそれぞれのテーマの参考文献を紹介します。	テキストは使用しません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで全体に関わる参考 文献を紹介する他、授業中にそれぞれのテーマの参考文献を紹介します。				
評価方法 7割以上の出席を学期末レポートの提出資格とします。講義中の課題と参加態度 (30%)、学年末レポト (70%) を総合的に評価します。	/ポー				

11 年度以前 12 年度以降		図書館概論 図書館概論				担当者	井上	靖代
講義目的、詞	講義概要	<u> </u>		授業	計画			
(講義目的) 図書館全体にわたっての基本的知識を理解していること。また、図書館の現状を把握し、課題について自分の意見や考えを述べることができること。 (講義概要) 図書館の機能と役割の基本について学習する。図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14.	図図知知「領図地学大専国図図知」のの由館の会書書は図図図図図図図図図図のはませいのの出館の会書書書書員の会書書書員の会では、一番ののは、一番のののは、一番ののののでは、一番ののののでは、一番のののでは、	的図自 史公ののやの役縁のとま書由	を の図書館の社会 を館政策。 の宣言」と「図書 の役割。利用者の に図書館との連携 の現状と課題。 資格。現状と課題。 では、現状と認 では、現状と認 では、現状と認 では、現状と認	が で か に で で で で で で で で で で で う に で う に う で う で		
到達目標			戦を習得し、図書館の 書の役割や使命などに	,				
事前・事後 学修の内容						ようになって		
テキスト、 参考文献	塩見昇編『図書館概論 四訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-1)日本図書館協会発行、2013 年							
評価方法	小課題(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%) ※持ち込み不可の試験をします							

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

12 年度以降		図書館情報技術論		担当者	福田 求		
講義目的、講	義概要	e c	授業計画				
【目的】 現代の図書館では、情報や資料の収集・組織化・保存・提供というあらゆる場面において、コンピュータやネットワークを中心としたさまざまな情報技術が利用されている。本講義では、それらの情報技術について、基礎的な概念を理解した上で、図書館においてどのように応用されているかを学習する。 【概要】 図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。また各種情報システムを実際に利用する演習も行う。			 ガイダンス;身の回りの情報技術:獨協大学のコンピュータとネットワーク コンピュータとネットワークの基礎 情報技術と社会:身の回りの情報メディア インターネットとウェブ ウェブの基本技術:HTTP、URI (URL)、HTML ウェブによる情報の発信 図書館における情報技術活用の現状 図書館業務システムの仕組み データベースの仕組み 検索エンジンの仕組み(1):情報の収集 検索エンジンの仕組み(2):索引作成 検索エンジンの仕組み(3):結果の並べ替え 電子資料とコンピュータシステムの管理 デジタルアーカイブ 最新の情報技術と図書館:授業全体のまとめ(質疑応答を含む) 				
▍到達目標		質の業務・サービスに必要となる、基礎的 こうにする。	りな情報技術を習行	得し、これら	を図書館実務において実践で		
* * * - + -		れた情報源については、次回までに入り 前回の授業中で赤や青の文字で示された。	• -		•		
テキスト、 参考文献	適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。						
評価方法	期末レポート (50%)。平常授業における課題レポートなどの実績 (50%)。						

	担当者	
授業計画		
	授業計画	

12 年度以降		図書館情報技術論		担当者	堀江 郁美	
講義目的、詞	冓義概勥	문	授業計画			
図書館に関係する情報技術の理論を学び、実習する。今日、図書館では図書資料の管理だけでなく、さまざまなサービスを提供するために情報技術を用いている。また、電子図書館、電子書籍の出現など今後も情報技術との 関連は深くなると考えられる。この授業では、コンピュータやインターネットの仕組みなどコンピュータの基礎や、情報検索に関係する基礎理論、と現状を学習し、実習する。最終的には、図書館利用者、スタッフの両視点から、現在、そして今後も通用する 情報技術を習得することを目的とする。			1. ガイダンス 2. 情報機器の行 3. コンピュータの 4. インター・ボータの 5. 情報報検索スの 7. 情報報を表 9. デー報報発の 10. 情報報子タ系発育 11. 情報子の 11. 情報子の 13. 情がジャルアー 15. まとめ	の仕組みと歴 トの仕組みと歴 上会 基礎 里論 ジン (Web ページ (Web ページ 管理 支術と法	在 史 作成)	
到達目標		官の業務・サービスに必要となる、基礎的 ようにする。	りな情報技術を習行	导し、これら	を図書館実務において実践で	
事前・事後 学修の内容	事前: テキストを精読すること。事後: 授業内容を復習すること。					
テキスト、 参考文献	現代図書館情報学シリーズ 3「図書館情報技術論」高山正也、植松貞夫監修 杉本重雄編集、樹村房					
評価方法	授業館	<u>k</u> 度(20%)、定期試験(60%)、レポート(20		・的に評価する	3.	

			担当者		
講義目的、講義概要	E C	授業計画	受業計画		
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					
11 年度以前	図書館経営論		担当者	井上 	

11 年度以前 12 年度以降	図書館経営論 図書館制度・経営論	担当者	井上 靖代
--------------------	---------------------	-----	-------

講義目的、講義概要

(講義目的)

図書館制度や法政策について学習し、そのうえで、資料管理、人事管理、施設管理を実施するための現状と課題を考え、さらに図書館活動サービス計画の企画・運営、予算決算、調査と評価などを学ぶ。実際の事例を研究することで、実務的な課題解決管理判断力を養成する。

(講義概要)

資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容について把握し、実施のための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕などを、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディ(事例研究)として議論しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。

授業計画

- 1. 情報社会と図書館の情報戦略。
- 2. 企業や公的セクターの経営理論
- 3. 図書館法を始めとする図書館関連法群と政策、それにともなう 図書館経営の実態
- 4. 地方自治体の図書館関連条例と図書館政策。
- 5. 事業計画策定と評価
- 6. 事例研究①図書館サービス活動にともなう事例
- 7. 事例研究による議論と発表。
- 8. 財政と図書館経営; PFI や委託の問題、予算の獲得など
- 9. 人事管理;専門職の役割と委託などの問題、図書館組織と運営
- 10. 事例研究②人事管理にともなう事例
- 11. 事例研究による議論と発表。
- 12. 図書館の施設と設備。場所としての図書館運営
- 13. 事例研究③図書館サービス業務の数的・質的調査と評価。
- 14. 事例研究④危機管理に関する事例。
- 15. 事例研究による議論と発表。

到達目標	公共図書館や学校図書館など、各種図書館の制度・経営に関する知識・技能を習得し、公共図書館の事業
判廷日保	計画を策定・評価できるようにする。
事前・事後 学修の内容	図書館で起こる課題について検討するので、記事索引 DB 利用であらかじめ検索調査しておくこと。
テキスト、	テキストは指定しないが、授業で資料を配布する。
参考文献	調査を要する課題が多いので、大学図書館のデータベース等の活用方法を熟知しておいてほしい。
評価方法	授業参加及びチームワークによるプレゼン)(60%)、課題(20%)、テスト(20%)で評価する。事例研究のため
計画力法	チームワークに最重点をおく。

11 年度以前 12 年度以降		図書館サービス論 図書館サービス概論		担当者	井上 靖代	
講義目的、講	購義概要	5	授業計画			
意に(講義共し図れたい特者を開いた、第一個のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	(講義目的) 図書館サービス活動の現状と課題を認識し、その活動の意義と目的、社会との関連を理解し、発展的サービス活動について考察、企画、評価できること。 (講義概要) 公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何か、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに課題解決支援、障害者支援、高齢者・未成年者向け支援、多文化サービスなど各種サービスの特質を明らかにする。利用者への直接支援活動として、担当者の接遇や利用者やボランティアとのコ		2. 来資料提供のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	 来館者へのサービス。貸出、利用援助など。 資料提供の基礎;場所としての図書館 資料提供の展開;貸出、予約など。 資料提供の展開;貸出、予約など。 資料提供の展開;プロモーション活動。 情報提供;利用者のニース[*]への対応、レファレンス等 集会・文化活動、行事など。 利用対象者別サービス;障害者、障害児への支援活動。 利用対象者別サービス;高齢者、未成年者、外国人への支援活動。 地域社会への支援活動;課題解決支援、ビジネス支援 図書館マーケティンケ 活動;利用者の交流の場としての図書館 図書館経営;図書館サービスとマネージ・メント 図書館サービスと著作権。 人的資源と図書館サービス;接遇、コミュニケーションなど。 		
到達目標		自サービス全般についての概論的知識を習 全館活動に関する該問題について分析の?				
事前・事後 学修の内容	や図書館活動に関する諸問題について分析のうえ、見解を提示できるようにする。 単元ごとにテキストの指示された箇所を熟読し、専門語句を説明できるようになっておくこと。					
テキスト、 参考文献	『図書館サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ II 3) 日本図書館協会発行、2010 年					
評価方法	小テス	スト1回(30%)、小レポート1回 (30%)、	期末試験(40%)			

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
到達目標			
事前・事後 学修の内容			
テキスト、 参考文献			
評価方法			

11 年度以前 12 年度以降	114 114 1			担当者	福田	求	
講義目的、講	講義概要			授業計画			
機能を具体化 を具して を表講を を表講を を表講を で表講を ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまする ではまる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではな。 ではな。 ではなる。 ではな。 でな。 でなる。 でなる。 でなる。 でなる。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな	ピオー と	情報サービスとは、図書 ービス全般のことをいう スやカレントアウェアネ 、さまざまなサービスが ナービスに関する概念の おける情報サービスの意 ービスや情報検索サービ 概観する。また、情報サ について解説する。そし 最サービス等の新しいサ	が,これには、スサービス、本学とのでは、本本には、本本には、本本には、本本のでは、本本のでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、まれば、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	 情報社会と図書館 レファレンスサー 利用案内,レフェア 情報検索すサービス 発展的情報サービスの意用 情報サービスで月 レファレンスサー事例の活用、組織 レファレンスサー 	の情報サービス・ビス・ラルサービスネスサービスネスサービス、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	図書館利用教育等) とめ(質疑応答を含む) 特質と利用法 容説、評価、組織化 用者の情報行動、レファレンス、プロセス、 ビス評価等)	
到達目標		レンスサービスや情報を し、図書館情報サービス					
事前・事後 学修の内容	,	指示された情報源については、次回までに入手/アクセスし、参照しておくこと。 また、前回の授業中で赤や青の文字で示されたキーワードの意味を説明できるように復習しておくこと。					
テキスト、 参考文献	適宜紹	適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。					
評価方法	期末レ	ポート (50%)。平常授業	ーーーー における課題 レ		責(50%)。		
	·						

			担当者	
講義目的、講義概要	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

		担当者	
講義目的、講義概要	授業計画		
到達目標			
事前・事後学の内容			
テキスト、参考文献			
評価方法			
11 左座内头 旧塞北 29~35			
11 年度以前児童サービス論12 年度以降児童サービス論		担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要	授業計画		
(講義目的) 子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利 用者(潜在的利用者)に対する戦略的で効果をあげうるべ	1. はじめに。図書 書館の役割。図 2. 地域社会におけ	書館サービスと	

子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者 (潜在的利用者) に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。さらに幅広く、多くの児童書や YA 向け資料を読み、評価し、子どもたちに伝えられるようになることを目標とする。

(講義概要)

①図書館サービス対象者である子どもやヤングアダルトについて知る、②図書館資料としての子どもや YA 向け資料について知る、③図書館サービスとして子どもや YA と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る、④地域や学校などとの協働活動について知る、ことを学習する。

- 3. 図書館における児童・YA(ティーンズ)サービスとは何か。
- 4. 子どもの発達と読書。なぜ「読・書」か。
- 5. 子ども向け図書館資料
- 6. YA 向け図書館資料
- 7. 児童・YA サービスの業務
- 8. 児童・YA 図書館活動の歴史
- 9. 子どもをとりまく大人への図書館活動
- 10. アウトリーチ・サービス (学校・学校図書館との連携、特別支援の必要な子どもたちへのサービスなど)
- 11. 子どもたちの知的自由と図書館活動をめぐる諸問題-法律と 政策、インターネットなど-
- 12. 実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など
- 13. 児童や YA 向けの図書館建築における設備など 14. 児童・YA 図書館活動における現状と将来
- 14. 児童・YA 図書館店動における現状と特定 15. まとめ

到達目標 児童や10代の図書館利用者(潜在的利用者含む)を専門に担当する司書に必要な知識を習得し、それらの 人々を対象とした図書資料収集やサービス活動に関して計画を立案できるようにする。

事前・事後学修の内容

定番とされる絵本・子ども向け・10代向けの本をできるだけ多く読んでください。

テキスト、

(テキスト)『児童サービス論』日本図書館協会発行、2014年2月刊

参考文献 ほかの参考文献は最初の授業時に示す。

評価方法 演習課題(10%)、レポート課題(60%)、小テスト(30%)

11 年度以前 12 年度以降		情報サービス論 b 情報サービス演習(前半)			気谷 陽子
講義目的、詞	構義概要	5	授業計画		
利用者の要望供、課題解認なる知識となる知識となな知識とない。	望把握、	川用者との適切なコミュニケーション、 利用者の求めに応じた資料や情報の提 りの企画提案等を行うにあたり、必要と と身に付けることである。 ナービスで行われる情報検索サービス、 ごス、情報リテラシー教育、発信型情報 情報サービスについて、それぞれの演習	 情報サービ レファレン 情報資源の Webペーシ 図書情報の 	※、Web サイト取扱い方館の探し方館の探し方方方方方方方状し方情報の探し方	
到達目標		レンス・ワークの実践を通じて、レファレン の要望把握、利用者の求めに応じた資料や情幸			
事前・事後		官の利用経験を豊かにしていただきたい。			
学修の内容	授業内で取り扱わなかった課題について、事後学習として取り組んでいただきたい。				
テキスト、 参考文献	原田智子『情報サービス演習』 (現代図書館情報学シリーズ) 樹村房 978-488367-207-3				
評価方法	定期試験 60%、提出物 30%、授業への参加度 10%				

11 年度以前 12 年度以降		情報検索演習 情報サービス演習(後半)			気谷 陽子	
利用者の要望把握、利用者の求めに応じた資料や情報の提供、課題解決のための企画提案等を行うにあたり、必要となる知識とスキルを身に付けることである。本講義では、情報サービスで行われる情報検索サービス、レファレンスサービス、情報リテラシー教育、発信型情報サービスなどの各情報サービスについて、それぞれの演習を行う。 2. 雑誌 2. 強 2. 雑誌 3. CiN 4. ERI 5. 新聞 6. 国立 7. JST 8. NII 9. 統計 10. 法令 11. パス 12. パス 13. 特許 14. 講義 14. 講義 14. 講義 14. 講義 14.			1. 検索の基本 2. 雑誌情報の 3. CiNii-Artic 4. ERIC 5. 新聞記事の 6. 国立国会図 7. JSTの情報 8. NIIの情報 9. 統計 10. 法令データ 11. パスファイ	をの基本 志情報の取扱い方 Nii-Articles IC 引記事の探し方 立国会図書館の情報サービス 「の情報サービス 「の情報サービス 「の情報サービス は、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで		
到達目標	レファレンス・ワークの実践を通じて、レファレンス・インタビューにおける利用者との適切なコミュニケーション、 利用者の要望把握、利用者の求めに応じた資料や情報の提供、および課題解決のための企画提案等ができるようにする。					
事前・事後学修の内容	図書館の利用経験を豊かにしていただきたい。 授業内で取り扱わなかった課題について、事後学習として取り組んでいただきたい。					
テキスト、 参考文献	原田智子『情報サービス演習』 (現代図書館情報学シリーズ) 樹村房 978-488367-207-3					
評価方法	定期記	は験 60%、提出物 30%、授業への参加	度 10%			

11 年度以前 12 年度以降		図書館資料論 図書館情報資源概論	i			担当者	井上	靖代
講義目的、講	講義概要	<u> </u>		授業	計画			
(講義目的) 公共公立図書館や学校図書館でコレクション構築のための資料選択・保存・廃棄の担当は専門専任司書の重要な業務である。委託業務が多くなっても専門職司書が必要とされる業務である。大学学習レベル以上の幅広く深い教養を基礎として、分野ごとに判断して選択していくことができる司書になるための基礎を習得していることを目的とする。図書館で所蔵される資料の種別と選択、保存と更新、さらに電子資料やネットワーク情報源などの幅広い資料について理解し、図書館および資料に関する基本的な専門用語について理解して説明でき、また、図書館資料の現状と課題について知識があり、それらについて自分の考えを述べることができるようになることを目標とする。 (講義概要) 印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報法資源に関する知識等の基本を解説する。			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.	印非電地人自出著図図ココ 資刷資資料科・と館館クク 料資料料学学流著に資シシメ料メ、・・通作お料ョョ	デデメデ行社技・権けコンンとのアの料学野に 的シカの大の大が大の大きのが大きのが大きのが大きのが大きの大きが大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大き	持質 型と特質 医色文献など 子の基本的資料 基本的資料 る基本的知識 は、検閲と焚書 と選択と理論 設定		
到達目標		宮実務についての概論 R存・更新ができるよ		理論的	な図書館資料	斗の種別や選	択、資料構築方	針に基づく資
事前・事後 学修の内容	単元の内容にあたるユニットをあらかじめ熟読し、専門語句を説明できるようにしておいてください。							
テキスト、 参考文献	『図書	『図書館情報資源概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ8) 日本図書館協会発行、2012 年						
評価方法	小課題(50%)、定期試験(50%) ※持ち込み不可の試験を実施します。							

			担当者	
講義目的、講義概要	要	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

11 年度以前 12 年度以降	31111-10110-101			担当者	小黒 浩司	
講義目的、講	購義概要	į	授業	計画		
 講義目的、講義概要 ○ 講義の目的 図書・逐次刊行物など多様な図書館情報資源の組織化の理論と技術について概説し、情報資源組織演習での学習に備える。 ○ 講義の概要 書誌コントロール、書誌記述法、分類法、主題分析などについての基礎知識を修得する。ネットワーク情報資源など多様な情報資源の組織化、書誌データの活用法を解説する。 			11. 12. 13. 14.	 情報資源組織化とは 書誌コントロール 目録の意義 目録の種類 集中目録作業 共同目録作業 世代目録 ・次世代目録 主題目録法 		
到達目標		こおける情報資源組織化の意義を理解し、また、 と(記述目録、主題目録、メタデータ)に関する				
事前・事後 学修の内容	授業中配布のプリントで提示した参考文献などを閲覧することが望ましい。					
テキスト、 参考文献	テキスト:田窪直規編『情報資源組織論』(樹村房、2015年、現代図書館情報学シリーズ9) 参考書:『日本十進分類法.新訂10版』、『基本件名標目表.第4版』、『日本目録規則.1987年版改訂3版』 (いずれも日本図書館協会編・刊)					
評価方法	期末討	験の結果(80%)によって評価するが、	平常	授業における	る参加度(20	%)も評価対象とする。

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

11 年度以前 12 年度以降	資料組織演習(前半) 情報資源組織演習(前半)		担当者	小黒	浩司
授業を通じて、情 養成をはかる。情	大要 原の組織化について学習する。演習形式の 情報資源組織化の具体的・実践的な能力の 情報資源組織演習(前半)では、日本目録 87年版改訂3版に準拠して、目録作成の	 日本目録規 タイトルに 	則(NCR) 則(NCR) 関する事項 関する事項	記述総則記述通則	
	☑改訂3版の主要規則を書誌的事項ごとに ☑で、NCR1987 3R による和資料記入の作 ☑行う。	7. 出版・頒布等に関する事項 8. 形態に関する事項 9. シリーズに関する事項 10. 注記に関する事項 11. 標準番号・入手条件に関する事項 12. 標目 13. 和資料記入の作成演習 (基礎) 14. 和資料記入の作成演習 (応用) 15. 和資料記入の作成演習 (発展)			
■ 剁達甘標	情館資料やインターネット情報へのアクセン ータ)について演習し、パスファインダー				
事前・事後 学修の内容					
A ++b		樹村房、2015 年、現代図書館情報学シリーズ 9) 1987 年版改訂 3 版』(日本図書館協会、2006 年))
評価方法 演習 る。	習(小テスト)の結果(80%)によって評価	西するが、平常授	業における参	加度(20%)も	評価対象とす

11 年度以前 12 年度以降		資料組織演習(後半) 情報資源組織演習(後半)		担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要 ○ 講義の目的 情報資源の組織化に関する技術について、演習形式で学習する。多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用などの演習を通じて、情報資源組織業務についての実践的な能力を養成する。 ○ 講義の概要 NDC10の概要・分類規程を解説した上で、NDC10による分類記号の付与の演習を行う。次にBSH4の概要・件名規程を解説した上で、BSH4による件名付与の演習を行う。			3. 分類規規 4. 主類類規規 5. 分類類類類類記記記記記記記記記記記記記記記記記記に件規 9. 分分類類類和本規模 10. 基件件規模目 12. 件名標 13. 件名標目 14. 件名標	分類法 (NDC の付与 1 類 の付与 3 類 の付付与 6 8 類 が付与 0 付付 に で で で で で で で で で で で が に が に り に り に り に り に り に り に り に り に	5 類 7 類 9 類 応用問題
▮到達目標		質料やインターネット情報へのアクセン -タ)について演習し、パスファインダー			.,,
字修の内容					
ナイスト、	テキスト:田窪直規編『情報資源組織論』(樹村房、2015年、現代図書参考書:日本図書館協会編『日本十進分類法.新訂 10 版』(日本図書館標目表.第4版』(日本図書館協会、1999年)				
評価方法	演習 る。	(小テスト) の結果 (80%) によって評価	西するが、平常:	受業における参	加度(20%)も評価対象とす

			担当者	
講義目的、講義概要	Ę	授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

11 年度以前 12 年度以降		図書館特論 図書館サービス特論		担当者	井上 靖代
講義目的、講	構義概要	5	授業計画		
(講義目的) 「図書館サービス概論」「児童サービス論」で学習した内容をふまえ、小学校から高校の学校図書館を対象としての図書館サービス活動について学習する。図書館専門員(学校司書)としての業務内容を把握する。			携 5. 学校図書館のコレクション構築。ブックリスト等の作成 6. 学校図書館での資料選択・提供 7. 学校図書館における資料の分類と目録化作業		
(講義概要) 幼稚園から高校を対象としての学校図書館での資料選択や調べ学習や総合学習などのレファレンス業務、さらにパスファインダーなどの作成を通じて、積極的な資料情報探索方法を司書教諭との連携によって行うことを、演習を通じて学ぶ。学校ボランティアや教師集団とのコーディネートについても考えていく。		8. 貸出業務。学校図書館システム化から地域ネットワークへの参加 9. 読書指導と学校図書館の役割。ブックトークなど 10. 情報活用教育と学校図書館の役割 11. 情報リテラシー教育と学校図書館の役割 12. 学校図書館におけるレファレンス業務。パスファインダーの作成など 13. 地域学校図書館センターと学校図書館 14. 学校図書館における知的自由を考える 15. 地域と学校図書館			
到達目標 図書館サービスに関して専門的な知識・技能を習得し、図書館活動をより発展させる方のうえ、見解を提示できるようにする。				展させる方策等について分析	
事前・事後	参考資料をあらかじめ図書館で読んでおいてください 学校図書館 HP を探して読んでおいてください				して読んでおいてください

授業参加(集団討議など)(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)

学修の内容

テキスト、 参考文献

評価方法

(参考資料)

参考資料をあらかじめ図書館で読んでおいてください。学校図書館 HP を探して読んでおいてください。

「学校図書館、まずはこれから(シリーズはじめよう学校図書館1)」全国学校図書館協議会発行、2012年ほか

			担当者		
講義目的、講義概要	, ,	授業計画			
到達目標					
事前・事後 学修の内容					
テキスト、 参考文献					
評価方法					
11 年度以前 12 年度以降	専門資料論 図書館情報資源特論		担当者	井上 靖代	
講義目的、講義概要	E C	授業計画			
(講義目的) 未成年の図書館和					

した資料について、さらに詳しく学ぶ。特にヤングアダル 2. 公共図書館における YA サービスの現状 ト向けの多様な資料の出版状況について把握する。学校図 書館や公共図書館での所蔵資料の選択や提供を考え、現状 と課題を学ぶ。

(講義概要)

小学校高学年から高校向けの古典作品や現代作品を読 み、10代読者と読書の傾向を社会の動きや心理学などの 分野から考察する。また、学校での調べ学習や「総合的な 学習」など課題解決型学習の方法としての資料についても 把握する。さらに、まんがやアニメ、電子書籍など多様な 資料についても考える。「読む」「書く」ことのできる図書 館という場所が支援できる資料について実際の例をふま えていく。

- 3. 10代の読書傾向。ローティーンとハイティーンの読書傾向。
- 4. 古典と現代作品の比較分析。
- 5. 10代に人気がある作品を読む。「問題小説」など。
- 6. 10代に人気がある作品を読む。「ライトノベル」など。
- 7. 図書館で読まれる作品・読まれない作品の傾向。
- 8. 多様な資料を読む。雑誌、まんが、アニメなど。 9. 調べるための資料や10代が求める生活情報資料など。
- 10. 読書プロモーション。展示やブログ、ブックトークやアニマ シオン、読書会や創作など。
- 11. 実践演習。ブックトークをやってみよう。フィクション
- 12. 実践演習その2。ブックトークをやってみよう。ノンフィク ション
- 13. 10代向けブックリストやパスファインダーなど。
- 14. 読書の場所としての図書館の役割。
- 15. 国語科の読書と図書館での読書

到達目標	さまざまな主題分野の諸活動に応じた資料・情報の形態、機能、保存法、活用法などの多様性を理解し、公共図書館以外に専門主題分野
判廷口保	の資料・情報を扱う機関や主題専門ライブラリアンの意義や役割について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後 学修の内容	中高生向けの推薦図書や良く読まれている本などをできるだけ多く読んでおいてください。
テキスト、 参考文献	テキストは指定しないが、参考資料等のリストを授業で配布する。
評価方法	実践演習(40%)、課題 (2X20=40%)、小テスト(20%)

11 年度以前 12 年度以降		図書及び図書館史 図書・図書館史		担当者	小黒 浩司
講義目的、講	義概要	į	授業計画		
○ 講義の目的図書館の情報資源と図書館の歴史について発展的に学習し、理解を深める。○ 講義の概要図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、印刷、普及、流通などの歴史を概説する。また、図書館の歴史的発展について解説する。		3. 紙以前の記録 4. 神の発明の記録 5. 図書の形態度 6. 図書館の歴史 8. 印刷技術の進 9. 大量印刷書館の 10. 公共誌・新聞の 11. 雑誌・ディア 12. マスメディア 13. 記録媒体の多	 図書館の源流 紙以前の記録媒体 神の発明と西伝 図書の形態史 図書館の発達 印刷の歴史 印刷技術の進歩 大量印刷の時代 公共図書館の誕生 雑誌・新聞の歴史 マスメディアの誕生 記録媒体の多様化 近代公共図書館の発展 		
到達甘標		よび図書館の歴史について知識を習得し で変遷について分析のうえ、見解を提売			時代や社会の変化に連動した
事前・事後 学修の内容 テキストの該当ユニットを読んでおくことが誓			望ましい。		
テキスト、 テキスト:小黒浩司編著『図書・図書館史』(参考文献 ズⅢ)			日本図書館協会、2	2013 年、JLA	図書館情報学テキストシリー
評価方法	期末討	験の結果(80%)によって評価するが、	平常授業における	る参加度(20	%)も評価対象とする。

			担当者	
講義目的、講義概要		授業計画		
到達目標				
事前・事後 学修の内容				
テキスト、 参考文献				
評価方法				

シラバス 免許課程

2016年4月1日発行 獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 電 話 048-946-1663



学	科	学年	氏	名	
	学科	年			